目錄

[目錄 一](#_Toc447018106)

[〈校稿人員〉 二六](#_Toc447018107)

[編者序 二七](#_Toc447018108)

[自敘 二九](#_Toc447018109)

[〈卷一〉 三○](#_Toc447018110)

[類中 三一](#_Toc447018111)

[【河間地黃飲子】 三一](#_Toc447018112)

[【大補元煎】 三一](#_Toc447018113)

[【參附湯】 三二](#_Toc447018114)

[【歸脾湯】 三二](#_Toc447018115)

[【滌痰湯】 三二](#_Toc447018116)

[【真武湯】 三三](#_Toc447018117)

[【補腎生肝飲】 三三](#_Toc447018118)

[【八味順氣散】 三三](#_Toc447018119)

[【龜鹿二仙膏】 三四](#_Toc447018120)

[眩運 三五](#_Toc447018121)

[【八味地黃丸】 三五](#_Toc447018122)

[【六味地黃丸】 三五](#_Toc447018123)

[【回陽返本湯】 三六](#_Toc447018124)

[【八味養血湯】 三七](#_Toc447018125)

[【八味生脈湯】 三七](#_Toc447018126)

[【六味歸芍湯】 三八](#_Toc447018127)

[【六味生脈湯】 三八](#_Toc447018128)

[【茯神湯】 三八](#_Toc447018129)

[【赤茯苓湯】 三九](#_Toc447018130)

[【益氣補腎湯】 三九](#_Toc447018131)

[【八珍湯】 四○](#_Toc447018132)

[【竹葉石膏湯】 四○](#_Toc447018133)

[【二陳湯】 四一](#_Toc447018134)

[【貝母瓜蔞散】 四一](#_Toc447018135)

[【六君子湯】 四一](#_Toc447018136)

[【二陳四物去熟地加天麻湯】 四二](#_Toc447018137)

[【左歸飲】 四二](#_Toc447018138)

[燥證 四三](#_Toc447018139)

[【炙甘草湯】（一名復脈湯） 四三](#_Toc447018140)

[【清燥救肺湯】 四三](#_Toc447018141)

[【清燥養營湯】 四四](#_Toc447018142)

[【活血潤燥生津飲】 四四](#_Toc447018143)

[【生脈散】 四五](#_Toc447018144)

[【參乳湯】 四五](#_Toc447018145)

[【益血潤腸丸】 四五](#_Toc447018146)

[咳嗽 四七](#_Toc447018147)

[【止嗽散】 四七](#_Toc447018148)

[【瀉白散】 四七](#_Toc447018149)

[【加味甘桔湯】 四八](#_Toc447018150)

[【清金湯】（新製） 四八](#_Toc447018151)

[【紫菀湯】 四八](#_Toc447018152)

[【四君子湯】 四九](#_Toc447018153)

[【金沸草飲】 四九](#_Toc447018154)

[【補肺阿膠散】 五○](#_Toc447018155)

[【麥門冬湯】（金匱） 五○](#_Toc447018156)

[【補肺湯】 五○](#_Toc447018157)

[【四陰煎】 五一](#_Toc447018158)

[【瓊玉膏】（申先生製） 五一](#_Toc447018159)

[【外臺杏仁煎】 五一](#_Toc447018160)

[吐血（衄血附） 五三](#_Toc447018161)

[【人參養營湯】 五三](#_Toc447018162)

[【四物湯】 五三](#_Toc447018163)

[【七珍散】 五四](#_Toc447018164)

[【玉女煎】 五四](#_Toc447018165)

[【鎮陰煎】 五五](#_Toc447018166)

[【大造丸】 五五](#_Toc447018167)

[【犀角地黃湯】 五六](#_Toc447018168)

[【生地黃飲子】 五六](#_Toc447018169)

[【清肺補陰湯】 五七](#_Toc447018170)

[【六味回陽飲】 五七](#_Toc447018171)

[【黃芩芍藥湯】 五八](#_Toc447018172)

[【逍遙散】 五八](#_Toc447018173)

[【止衄散】 五九](#_Toc447018174)

[【茜根散】 五九](#_Toc447018175)

[【秦艽鱉甲散】 五九](#_Toc447018176)

[【聖愈湯】 六○](#_Toc447018177)

[喘證 六一](#_Toc447018178)

[【六安煎】 六一](#_Toc447018179)

[【加味甘桔湯】 六一](#_Toc447018180)

[【麻杏甘石湯】 六一](#_Toc447018181)

[【八味湯加減】 六二](#_Toc447018182)

[【六味湯加減】 六二](#_Toc447018183)

[【黃芩半夏湯】 六三](#_Toc447018184)

[【金水六君煎】 六三](#_Toc447018185)

[【徙薪飲】 六三](#_Toc447018186)

[【三才丹】 六四](#_Toc447018187)

[【五味異功散】 六四](#_Toc447018188)

[【右歸飲】 六四](#_Toc447018189)

[【人參胡桃湯】 六五](#_Toc447018190)

[【羊肉湯】 六五](#_Toc447018191)

[肺癰 六六](#_Toc447018192)

[【千金葦莖湯】 六六](#_Toc447018193)

[【甘桔黑豆湯】 六六](#_Toc447018194)

[【百合固金湯】 六六](#_Toc447018195)

[【通壅湯】 六七](#_Toc447018196)

[肺痿 六八](#_Toc447018197)

[【人參養肺湯】 六八](#_Toc447018198)

[【人參平肺湯】 六八](#_Toc447018199)

[【保和湯】 六八](#_Toc447018200)

[消渴 七○](#_Toc447018201)

[【易簡地黃飲子】 七○](#_Toc447018202)

[【二冬湯】 七○](#_Toc447018203)

[【生地八物湯】 七○](#_Toc447018204)

[【麥冬飲子】 七一](#_Toc447018205)

[【竹葉黃芪湯】 七二](#_Toc447018206)

[不寐 七三](#_Toc447018207)

[【天王補心丹】 七三](#_Toc447018208)

[【溫膽湯】 七三](#_Toc447018209)

[【金匱酸棗仁湯】 七四](#_Toc447018210)

[【酸棗仁湯】 七四](#_Toc447018211)

[【王荊公妙香散】 七五](#_Toc447018212)

[【維陽感召湯】（新制） 七五](#_Toc447018213)

[【甘麥大棗湯】 七六](#_Toc447018214)

[【獺肝丸】 七六](#_Toc447018215)

[【養心湯】 七六](#_Toc447018216)

[黃癉 七八](#_Toc447018217)

[【茵陳五苓散】 七八](#_Toc447018218)

[【梔子柏皮湯】 七八](#_Toc447018219)

[【麻黃連軺赤小豆湯】 七九](#_Toc447018220)

[【茵陳大黃湯】 七九](#_Toc447018221)

[【加味枳朮湯】 七九](#_Toc447018222)

[【理脾陰煎】（汪蘊谷製） 八○](#_Toc447018223)

[【培腎元煎】（汪蘊谷製） 八○](#_Toc447018224)

[【硝石礬石散】 八一](#_Toc447018225)

[【茵陳四逆湯】 八一](#_Toc447018226)

[【五君子煎】 八二](#_Toc447018227)

[百合病 八三](#_Toc447018228)

[【百合知母湯】 八三](#_Toc447018229)

[【滑石代赭湯】 八三](#_Toc447018230)

[【百合雞子湯】 八三](#_Toc447018231)

[【百合地黃湯】 八四](#_Toc447018232)

[〈卷二〉 八六](#_Toc447018233)

[遺精 八七](#_Toc447018234)

[【還少丹】 八七](#_Toc447018235)

[【柏子養心丸】 八七](#_Toc447018236)

[【家韭子丸】 八八](#_Toc447018237)

[【金鎖思仙丹】 八八](#_Toc447018238)

[【秘精丸】 八九](#_Toc447018239)

[【保元湯】 八九](#_Toc447018240)

[【潤燥濇精湯】（黃錦芳製） 九○](#_Toc447018241)

[【固陰煎】 九○](#_Toc447018242)

[便血 九一](#_Toc447018243)

[【黃土湯】 九一](#_Toc447018244)

[【赤小豆當歸散】 九一](#_Toc447018245)

[【地榆湯】 九一](#_Toc447018246)

[【葛花解酲湯】 九二](#_Toc447018247)

[【壽脾煎】 九二](#_Toc447018248)

[【地骨皮飲】 九三](#_Toc447018249)

[【聖濟大建中湯】 九四](#_Toc447018250)

[【化肝煎】 九四](#_Toc447018251)

[溺血 九五](#_Toc447018252)

[【五淋散】 九五](#_Toc447018253)

[【七正散】 九五](#_Toc447018254)

[【阿膠散】 九六](#_Toc447018255)

[【人參固本丸】 九六](#_Toc447018256)

[【清肺飲】（黃錦芳製） 九六](#_Toc447018257)

[【導赤散】 九七](#_Toc447018258)

[【茅根散】 九七](#_Toc447018259)

[【白茯苓散】 九七](#_Toc447018260)

[【琥珀散】 九八](#_Toc447018261)

[【桑螵蛸散】 九八](#_Toc447018262)

[【苓朮菟絲丸】 九八](#_Toc447018263)

[暑證 九九](#_Toc447018264)

[【五物香薷飲】 九九](#_Toc447018265)

[【益元散】 九九](#_Toc447018266)

[【藿香正氣散】 一○○](#_Toc447018267)

[【人參飲子】 一○○](#_Toc447018268)

[【漿水散】 一○一](#_Toc447018269)

[【白虎湯】 一○一](#_Toc447018270)

[【清暑益氣湯】 一○二](#_Toc447018271)

[【十味香薷飲】 一○三](#_Toc447018272)

[【理陰煎】 一○三](#_Toc447018273)

[【大順散】 一○四](#_Toc447018274)

[【抑扶煎】 一○四](#_Toc447018275)

[【輔陽飲】（黃錦芳製） 一○四](#_Toc447018276)

[【白虎加人參湯】 一○五](#_Toc447018277)

[濕證 一○六](#_Toc447018278)

[【栝蔞根桂枝湯】 一○六](#_Toc447018279)

[【防己茯苓湯】 一○六](#_Toc447018280)

[【四苓散】 一○七](#_Toc447018281)

[【大分清飲】 一○八](#_Toc447018282)

[【小分清飲】 一○九](#_Toc447018283)

[【茱萸六一散】 一○九](#_Toc447018284)

[【理中湯】 一○九](#_Toc447018285)

[【佐關煎】 一一○](#_Toc447018286)

[【聖朮煎】 一一○](#_Toc447018287)

[【萎甤湯】 一一一](#_Toc447018288)

[【河間桂苓甘露飲】 一一一](#_Toc447018289)

[泄瀉 一一二](#_Toc447018290)

[【香砂六君子湯】 一一二](#_Toc447018291)

[【益黃散】 一一二](#_Toc447018292)

[【錢氏白朮散】 一一三](#_Toc447018293)

[【溫脾湯】 一一三](#_Toc447018294)

[【大和中飲】 一一四](#_Toc447018295)

[【小和中飲】 一一四](#_Toc447018296)

[【加味七神丸】 一一四](#_Toc447018297)

[【調中散】 一一五](#_Toc447018298)

[【參苓白朮散】 一一五](#_Toc447018299)

[【八珍糕】 一一六](#_Toc447018300)

[【赤石脂禹餘糧湯】 一一六](#_Toc447018301)

[【桃花湯】 一一六](#_Toc447018302)

[痢疾 一一八](#_Toc447018303)

[【升麻葛根湯】 一一八](#_Toc447018304)

[【白朮湯】 一一八](#_Toc447018305)

[【芍藥湯】 一一九](#_Toc447018306)

[【治痢散】（程鍾齡製） 一二○](#_Toc447018307)

[【補胃湯】（黃錦芳製） 一二○](#_Toc447018308)

[【溫六丸】 一二○](#_Toc447018309)

[【樸黃丸】 一二一](#_Toc447018310)

[【導氣湯】 一二一](#_Toc447018311)

[【桃仁承氣湯】 一二一](#_Toc447018312)

[【開噤散】 一二二](#_Toc447018313)

[【真人養臟湯】 一二二](#_Toc447018314)

[【黃金湯】（汪蘊谷製） 一二三](#_Toc447018315)

[【人參八味湯】 一二三](#_Toc447018316)

[【回陽救急湯】 一二四](#_Toc447018317)

[【胃關煎】 一二四](#_Toc447018318)

[【收陰養胃煎】（黃錦芳製） 一二五](#_Toc447018319)

[【調胃承氣湯】 一二五](#_Toc447018320)

[【白頭翁湯】 一二六](#_Toc447018321)

[腫脹 一二七](#_Toc447018322)

[【金匱腎氣湯】 一二七](#_Toc447018323)

[【犀角湯】 一二八](#_Toc447018324)

[【桂苓朮甘湯】 一二九](#_Toc447018325)

[【大安丸】 一二九](#_Toc447018326)

[【實脾散】 一三○](#_Toc447018327)

[【大橘皮湯】 一三○](#_Toc447018328)

[【小半夏加茯苓湯】 一三一](#_Toc447018329)

[【升陽除濕湯】 一三二](#_Toc447018330)

[【熱鬱湯】 一三二](#_Toc447018331)

[【燥濕消中飲】 一三二](#_Toc447018332)

[【平中飲】 一三三](#_Toc447018333)

[【消胃飲】 一三三](#_Toc447018334)

[【壯火溫脾湯】 一三三](#_Toc447018335)

[【五皮飲】 一三四](#_Toc447018336)

[感證 一三五](#_Toc447018337)

[【越脾湯】 一三五](#_Toc447018338)

[【麻黃附子細辛湯】 一三六](#_Toc447018339)

[【九味羌活湯】 一三七](#_Toc447018340)

[【活人敗毒散】 一三七](#_Toc447018341)

[【防風黃芪湯】 一三八](#_Toc447018342)

[【桂枝加芍藥加大黃二湯】 一三九](#_Toc447018343)

[【桂枝湯】 一四○](#_Toc447018344)

[【小青龍湯】 一四○](#_Toc447018345)

[【柴胡加龍骨牡蠣湯】 一四一](#_Toc447018346)

[【升陽益胃湯】 一四二](#_Toc447018347)

[【歸柴飲】 一四三](#_Toc447018348)

[【參胡三白湯】 一四四](#_Toc447018349)

[〈卷三〉 一四五](#_Toc447018350)

[瘧疾 一四六](#_Toc447018351)

[【小柴胡湯】 一四六](#_Toc447018352)

[【加減小柴胡湯】（程鍾齡製） 一四八](#_Toc447018353)

[【柴胡桂薑湯】 一四九](#_Toc447018354)

[【清脾飲】 一四九](#_Toc447018355)

[【達原飲】 一五○](#_Toc447018356)

[【柴胡白虎煎】 一五一](#_Toc447018357)

[【桂枝白虎湯】 一五一](#_Toc447018358)

[【柴平湯】 一五一](#_Toc447018359)

[【補中益氣湯】 一五二](#_Toc447018360)

[【截瘧七寶飲】 一五四](#_Toc447018361)

[【人參養胃湯】 一五五](#_Toc447018362)

[【何人飲】 一五五](#_Toc447018363)

[【四逆湯】 一五六](#_Toc447018364)

[【拯陰湯】（黃錦芳製） 一五七](#_Toc447018365)

[【四味回陽飲】 一五七](#_Toc447018366)

[霍亂 一五九](#_Toc447018367)

[【平胃散】 一五九](#_Toc447018368)

[【縮脾飲】 一六○](#_Toc447018369)

[【六和湯】 一六○](#_Toc447018370)

[【冷香飲子】 一六一](#_Toc447018371)

[【枇杷葉散】 一六一](#_Toc447018372)

[【大黃龍丸】 一六一](#_Toc447018373)

[【地榆散】 一六二](#_Toc447018374)

[【胃苓湯】 一六二](#_Toc447018375)

[【四君加味湯】 一六三](#_Toc447018376)

[斑痧 一六四](#_Toc447018377)

[【涼膈散】 一六四](#_Toc447018378)

[【升麻鱉甲湯】 一六五](#_Toc447018379)

[【神香散】 一六五](#_Toc447018380)

[【腎溫湯】（黃錦芳製） 一六六](#_Toc447018381)

[【風溫湯】（葉天士製） 一六六](#_Toc447018382)

[【表裏兩救湯】（汪石山製） 一六七](#_Toc447018383)

[【清解蘊熱湯】（葉天士製） 一六七](#_Toc447018384)

[【痧後清熱湯】（葉天士製） 一六七](#_Toc447018385)

[頭痛 一六八](#_Toc447018386)

[【芍蘓散】 一六八](#_Toc447018387)

[【加味清震湯】 一六八](#_Toc447018388)

[【清空膏】 一六九](#_Toc447018389)

[【半夏白朮天麻湯】 一六九](#_Toc447018390)

[【普濟消毒飲】 一六九](#_Toc447018391)

[【導濕湯】（黃錦芳製） 一七○](#_Toc447018392)

[【救元補體湯】 一七○](#_Toc447018393)

[【醒迷湯】 一七一](#_Toc447018394)

[【既濟豁痰湯】 一七一](#_Toc447018395)

[【貞元飲】 一七二](#_Toc447018396)

[胃脘痛 一七三](#_Toc447018397)

[【栝蔞薤白白酒湯】 一七三](#_Toc447018398)

[【栝蔞薤白半夏湯】 一七三](#_Toc447018399)

[【枳實薤白桂枝湯】 一七三](#_Toc447018400)

[【補肝湯】 一七四](#_Toc447018401)

[【金鈴子散】 一七五](#_Toc447018402)

[【小陷胸湯】 一七五](#_Toc447018403)

[【大無神朮散】 一七六](#_Toc447018404)

[【安胃湯】（王晉三製） 一七六](#_Toc447018405)

[【附子粳米湯】 一七七](#_Toc447018406)

[【和陰理脾煎】（黃錦芳製） 一七七](#_Toc447018407)

[【疏肝益胃湯】（新製） 一七七](#_Toc447018408)

[【攝陰湯】（黃錦芳製） 一七八](#_Toc447018409)

[【通補血絡湯】（葉天士製） 一七八](#_Toc447018410)

[脇痛 一八○](#_Toc447018411)

[【柴胡疏肝散】 一八○](#_Toc447018412)

[【推氣散】 一八○](#_Toc447018413)

[【大半夏湯】 一八○](#_Toc447018414)

[【四磨飲】 一八一](#_Toc447018415)

[【補腎湯】（黃錦芳製） 一八二](#_Toc447018416)

[【補肝散】 一八二](#_Toc447018417)

[【三陰煎】 一八二](#_Toc447018418)

[【左金丸】 一八三](#_Toc447018419)

[【越鞠丸】 一八四](#_Toc447018420)

[吐蚘 一八五](#_Toc447018421)

[【理中安蚘散】 一八五](#_Toc447018422)

[【烏梅丸】 一八五](#_Toc447018423)

[【清熱安蚘湯】（汪蘊谷製） 一八七](#_Toc447018424)

[【溫胃理中湯】（汪蘊谷製） 一八七](#_Toc447018425)

[【八味加味湯】（汪蘊谷製） 一八七](#_Toc447018426)

[【除濕清火湯】（黃錦芳製） 一八八](#_Toc447018427)

[【集效丸】 一八八](#_Toc447018428)

[【掃蟲煎】 一八八](#_Toc447018429)

[疫證 一九○](#_Toc447018430)

[【救疫湯】（汪蘊谷製） 一九○](#_Toc447018431)

[【乾一老人湯】 一九○](#_Toc447018432)

[【扶元逐疫湯】（汪廣期製） 一九一](#_Toc447018433)

[【治疫清涼散】（程鍾齡製） 一九一](#_Toc447018434)

[【芬芳清解湯】（葉天士製） 一九二](#_Toc447018435)

[【小建中湯】 一九二](#_Toc447018436)

[痺證 一九四](#_Toc447018437)

[【蠲痺湯】 一九四](#_Toc447018438)

[【六物附子湯】 一九四](#_Toc447018439)

[【松枝酒】 一九五](#_Toc447018440)

[【清熱定痛湯】 一九五](#_Toc447018441)

[【參朮壯氣湯】（葉天士製） 一九六](#_Toc447018442)

[【通補溫絡湯】（葉天士製） 一九六](#_Toc447018443)

[痿證 一九七](#_Toc447018444)

[【虎潛丸】 一九七](#_Toc447018445)

[【補北健行湯】 一九八](#_Toc447018446)

[【五痿湯】 一九九](#_Toc447018447)

[【肺熱湯】 一九九](#_Toc447018448)

[癲狂 二○一](#_Toc447018449)

[【鐵落飲】 二○一](#_Toc447018450)

[【服蠻煎】 二○一](#_Toc447018451)

[【清膈煎】 二○一](#_Toc447018452)

[【河車丸】 二○二](#_Toc447018453)

[【硃砂安神丸】 二○二](#_Toc447018454)

[〈卷四〉 二○三](#_Toc447018455)

[膈噎 二○四](#_Toc447018456)

[【通幽湯】 二○四](#_Toc447018457)

[【深師七氣湯】 二○四](#_Toc447018458)

[【旋覆代赭湯】 二○五](#_Toc447018459)

[【啟膈散】 二○六](#_Toc447018460)

[【秘方】 二○六](#_Toc447018461)

[反胃 二○七](#_Toc447018462)

[【生薑瀉心湯】 二○七](#_Toc447018463)

[【甘草瀉心湯】 二○七](#_Toc447018464)

[【附子瀉心湯】 二○八](#_Toc447018465)

[【半夏瀉心湯】 二○八](#_Toc447018466)

[【五瀉心湯合論】 二○九](#_Toc447018467)

[【橘皮竹茹湯】 二一○](#_Toc447018468)

[【吳茱萸湯】 二一○](#_Toc447018469)

[【黃芩湯】 二一一](#_Toc447018470)

[拘攣 二一二](#_Toc447018471)

[【秦艽升麻湯】 二一二](#_Toc447018472)

[【經驗續命湯】 二一二](#_Toc447018473)

[【養血舒筋湯】 二一三](#_Toc447018474)

[【秦艽天麻湯】 二一四](#_Toc447018475)

[腳氣 二一五](#_Toc447018476)

[【許學士雞鳴散】 二一五](#_Toc447018477)

[【檳榔散】 二一五](#_Toc447018478)

[【當歸拈痛湯】 二一六](#_Toc447018479)

[【桑白皮散】 二一六](#_Toc447018480)

[腫腮 二一七](#_Toc447018481)

[【辛涼甘桔湯】（汪蘊谷製） 二一七](#_Toc447018482)

[【養陰甘桔湯】（汪蘊谷製） 二一七](#_Toc447018483)

[【救陰保元湯】 二一七](#_Toc447018484)

[【三黃湯】 二一八](#_Toc447018485)

[【清肝疏膽湯】（新製） 二一八](#_Toc447018486)

[淋濁 二二○](#_Toc447018487)

[【萆薢分清飲】 二二○](#_Toc447018488)

[【清心蓮子飲】 二二○](#_Toc447018489)

[【導赤散】 二二一](#_Toc447018490)

[【肺腎交固湯】（黃錦芳製） 二二二](#_Toc447018491)

[【菟絲子丸】 二二二](#_Toc447018492)

[【秘元煎】 二二二](#_Toc447018493)

[【內補鹿茸丸】 二二三](#_Toc447018494)

[疝氣 二二四](#_Toc447018495)

[【吳茱萸加附子湯】 二二四](#_Toc447018496)

[【當歸生薑羊肉湯】 二二四](#_Toc447018497)

[【八味膽草湯】（黃錦芳製） 二二四](#_Toc447018498)

[【橘核丸】 二二五](#_Toc447018499)

[【龍膽瀉肝湯】 二二五](#_Toc447018500)

[【煖肝煎】 二二六](#_Toc447018501)

[【胡蘆巴丸】 二二六](#_Toc447018502)

[眼目 二二八](#_Toc447018503)

[【蟬花無比散】 二二八](#_Toc447018504)

[【蒺藜湯】 二二八](#_Toc447018505)

[【四順清涼飲】 二二九](#_Toc447018506)

[【益陰腎氣丸】 二二九](#_Toc447018507)

[【消障救晴散】（王晉三製） 二二九](#_Toc447018508)

[【明目地黃丸】 二三○](#_Toc447018509)

[【益氣聰明湯】 二三○](#_Toc447018510)

[【地芝丸】 二三一](#_Toc447018511)

[【加減一陰煎】 二三一](#_Toc447018512)

[【洗肝散】 二三一](#_Toc447018513)

[咽喉 二三三](#_Toc447018514)

[【元參升麻湯】 二三三](#_Toc447018515)

[【抽薪飲】 二三三](#_Toc447018516)

[【滋陰八味湯】 二三四](#_Toc447018517)

[【良方安腎丸】 二三四](#_Toc447018518)

[【二陰煎】 二三五](#_Toc447018519)

[【豬膚湯】 二三五](#_Toc447018520)

[【苦酒湯】 二三六](#_Toc447018521)

[【黃連阿膠湯】 二三七](#_Toc447018522)

[耳病 二三八](#_Toc447018523)

[【逍遙散加味】 二三八](#_Toc447018524)

[【《千金》腎熱湯】 二三八](#_Toc447018525)

[【六味湯加味】 二三九](#_Toc447018526)

[【加減逍遙散】 二三九](#_Toc447018527)

[鼻病 二四○](#_Toc447018528)

[【辛夷散】 二四○](#_Toc447018529)

[【蒼耳散】 二四○](#_Toc447018530)

[【益氣湯】 二四一](#_Toc447018531)

[【補腦丸】 二四一](#_Toc447018532)

[聲瘖 二四三](#_Toc447018533)

[【參蘇飲】 二四三](#_Toc447018534)

[【十味溫膽湯】 二四四](#_Toc447018535)

[【麥門冬湯】（正傳） 二四四](#_Toc447018536)

[【七福飲】 二四五](#_Toc447018537)

[【平補鎮心丹】 二四五](#_Toc447018538)

[痔漏 二四六](#_Toc447018539)

[【加減六味湯】 二四六](#_Toc447018540)

[【黑地黃丸】 二四六](#_Toc447018541)

[脫肛 二四八](#_Toc447018542)

[【舉元煎】 二四八](#_Toc447018543)

[【補陰益氣煎】 二四八](#_Toc447018544)

[【約營煎】 二四八](#_Toc447018545)

[【急救三陰湯】（黃錦芳製） 二四九](#_Toc447018546)

[吐屎 二五○](#_Toc447018547)

[【清胃平逆湯】（汪蘊谷製） 二五○](#_Toc447018548)

[【救腎安逆湯】（汪蘊谷製） 二五○](#_Toc447018549)

[身癢 二五二](#_Toc447018550)

[【清熱養血湯】 二五二](#_Toc447018551)

[【清氣湯】（黃錦芳製） 二五二](#_Toc447018552)

[玳瑁瘟 二五三](#_Toc447018553)

[【葛根黃芩黃連湯加味】 二五三](#_Toc447018554)

[【加味涼膈散】 二五三](#_Toc447018555)

[【加味犀角地黃湯】 二五四](#_Toc447018556)

[陽痿 二五五](#_Toc447018557)

[【斑龍丸】 二五五](#_Toc447018558)

[【贊育丹】 二五六](#_Toc447018559)

[齒牙 二五七](#_Toc447018560)

[【聖濟蜂房湯】 二五七](#_Toc447018561)

[【東垣神功丸】 二五七](#_Toc447018562)

[【太清飲】 二五八](#_Toc447018563)

[【左歸丸】 二五八](#_Toc447018564)

[【右歸丸】 二五九](#_Toc447018565)

[後記 二六○](#_Toc447018566)

〈校稿人員〉

本書的文字校正，要感謝這群校稿人員的協助。

負責人：阮慧宇，羅美惠。

【義大後中醫學系學生】

張瑋純、胡玉芳、蕭亦愷、王佑予、吳孟珊、柳宗昕、謝鴻偉、羅韵平

陳貽嬋、林昌廷、江岳霖、李伊婷、吳俊浩、林宜錚、林裕程、施昀廷

高志維、葉星汎、李映芷、李國泰、俞馨媛、黃奎曄、楊淑婷、林芳伃

施怡伶、黃佩琴、鄭淩軒、李孟蓉、張雅涵、張淑娟、曾偉婷

【醫師】

阮慧宇：鴻生中醫診所(高雄市)。

謝孟芹：明華馬光中醫診所。

張乃元：嘉義基督教醫院中醫部。

張淵雅：彰化基督教醫院中醫部

王竹君：關山慈濟醫院中醫科。

王靜儀：風澤中醫診所(桃園市)。

朱筱琪：彰化基督教醫院中醫部。

何依純：中山醫學大學附設醫院中西醫整合醫療科。

編者序

觀看坊間中醫古籍，大都以大陸出版為多，台灣所出者，甚少，而大陸自從改繁從簡後，書籍的印行，皆以簡體字為多，因而簡體書籍，充斥於書市，書中所排的版面，也都仿西式的橫書，中式的直書已不復見。雖然簡體書無妨於閱讀，但對於有心於中醫之學者，其字型構造所蘊育的內涵，已不復見，這是簡體書籍所不能勝於繁體書之處，況簡體有多字混用，如乾、干、幹，簡體字都是干，對於習於繁體字的人，實有點在別錯字的感覺。此外，在繁體字使用的地區，要閱讀書籍，還要先學會辨識簡體字，在閱讀上又多了一層阻礙，實在不利於該區域中醫知識的普及。

感恩有此能力為中醫的古籍的電子化盡一分心力，雖然從事中醫繁體古籍的電子化，首先必須找與中醫相關之人員，最好是中醫師，但畢竟不是所有的中醫師，能於診務之餘，空暇之時，願長時間犧牲，醉心於古籍，不旁涉俗務，又能精心點校，以使讀者在閱讀時，文理曉暢，無絲毫的阻礙。像這部份的工程，實在是浩大，所以常令諸多有心親為的中醫師，望而卻步。

像我，一個中醫界的後輩小生，性內向，不喜與人交遊，口中常言「君子之交淡如水」，心中所繫者，大丈夫當有所作為以利益於後生，所以對於中醫古籍的電子化，便欣然承受而有所著力焉，至於對於免費繁體電子書的編著，以供人下載閱讀，推廣中醫知識，使中醫更為世人所了解，更是醉心於此。然有諸多網友，喜歡書本的感覺。所以現在將此古籍，經由多次校正、句讀，做成直書，不僅可以用電子書來閱讀，也可以印成書本。當然往後，也將有諸多繁體電子書籍，發布於世，敬請讀者拭目以待。

編者陳永諸敬上

自敘

醫之為道廣矣、大矣、精矣、微矣。《靈》《素》以下，代有名家，世襲傳人，抉發透徹，炳若日星，學者知所遵循，自可春生寒復。無如淺嘗者，流擇焉，不精習焉，不詳焉。謀道之心不足以勝其謀食之心，其弊伊於胡底，余甚惻然。憶丁卯秋闈，薦而不售，後鄉場屢蹶，遂專心致志於其中，昔賢諸書日夕披覽，隨手抄誦，尤傾心於喻嘉言、王晉三前輩，三十年來稍有所得，摘採一冊，顏曰《證因方論集要》。證各有因，因各有方，方各有論，而不及脈者，以脈象診侯須詳考沈金鰲《脈訣》、張石頑《診中三昧》，庶可融會貫通。亦不載傷寒者，以傷寒六經表裏條例繁多，非綜覈喻嘉言《醫門法律》、柯韻伯《傷寒論翼》，必不能得心應手。業斯道者，果記誦不輟，則臨證自無貽誤。是編非敢謂可為矩雘，然明白曉暢，按圖索驥，庶免於北轍南轅，彼未能操刀而使割者置諸案頭，或不無小補云爾。

道光十九年歲次己亥孟夏月海陽汪汝麟石來氏誌

〈卷一〉

類中

非肝腎陰虧，則肝腎陽虧，豈真有外風之可搜逐哉！其證昏暈厥仆，半身不遂，口眼喎斜，舌瘖流沫，景岳先生〈類風非風門〉辦別最晰，宜詳考焉。

【河間地黃飲子】

治舌瘖不能言，足廢不能行。此少陰氣厥不至，急當溫之。凡陰虛有二，此陰中之火虛也。

熟地、巴戟天、萸肉、肉蓯蓉、川斛、五味子、製附子、茯苓、石菖蒲、遠志、麥冬、肉桂，薑、棗同煎。

熟地，以滋根本之陰。巴戟、蓯蓉、官桂、附子，以返真元之火。川斛，安脾而秘氣。山萸，溫肝而固精。菖蒲、遠志、茯苓，補心而通腎臟。麥冬、五味，保肺以滋水源。使水火相交，精氣漸旺矣。

【大補元煎】

治氣血大壞，精神失守危劇等證。

熟地、人參、山藥、枸杞子、杜仲、炙甘草、當歸、萸肉。

人參，大補陽氣以培元。熟地，大補陰血以生精。佐當歸、山藥，和血補脾。杜仲、枸杞，入腎強陰。山萸味酸，入肝以養血，入腎以固精。炙甘草，和中以補脾氣。故曰「大補元」也。

【參附湯】

治真陽不足，上氣喘急，呃逆，自利，手足厥冷，嘔惡，自汗，盜汗，頭暈等症。

人參、熟附子。

人參甘溫，大補元氣。附子辛熱，大壯真陽。氣復陽回，垂絕之危險可救矣。

【歸脾湯】

治思慮傷脾，不能攝血，致血妄行，或健忘怔忡，驚悸，盜汗，嗜臥，少食，大便不調，心脾疼痛。

人參、白朮（蒸）、茯神、棗仁（炒）、炙黃芪、當歸、遠志、木香、炙甘草、龍眼肉（引）。

一方木香易炒白芍。

心藏神而生血，脾藏意而統血。參、苓、芪、朮、炙草甘溫，可以補脾。龍眼肉、棗仁、歸身、遠志濡潤，可以養心。佐以木香者，因思慮所傷，三焦氣阻，藉其宣暢，則氣和而血和，且平肝可以實脾，血之散於外者，悉歸中宮而而聽太陰所攝矣。

【滌痰湯】

治中風，痰迷心竅，舌強不能言。

半夏、膽星、橘紅、枳實、茯苓、人參、菖蒲、竹茹、甘草、生薑。

心脾不足，風邪乘之，而痰與火塞其經絡，故舌本強而難言也。人參、茯苓、甘草，補心益脾而瀉火。陳皮、南星、半夏，利氣燥濕袪痰。菖蒲，開竅通心。枳實，破痰利膈。竹茹，清燥開鬱。使痰消火降，則經通而舌柔矣。

【真武湯】

治氣虛，中寒，腹痛，厥仆。

茯苓、白芍、生薑、白朮、附子。

寒邪直犯陰經，氣血一時凝塞。薑、附，可以壯火回陽。苓、朮，可以補土利水。再用芍藥，以收其陰氣。其餘與傷寒厥陰、少陰同法。

【補腎生肝飲】

治肝腎精虧，經脈失榮，血不運行，氣不貫通，氣血兩虛，不仁不用。

當歸、熟地、炒白芍、女貞子、山藥（炒）、人參、枸杞子、丹參、炙甘草。

熟地、枸杞，滋養肝腎之陰。歸、芍，益血。丹參，生血。女貞，少陰之精，專補北方。人參、山藥、炙草，培補脾土，為胃行其津液，灌溉四臟，養血以除燥，則真陰復而假風自熄。補水以制火，則腎氣充而虛痰自化。補陽以生陰，則元陽回而水泛自消。風痰之藥不可用，斷斷如也。

【八味順氣散】

治中風，正氣虛，痰涎壅盛者。

白朮（土炒）、茯苓、青皮（炒）、白芷、陳皮、烏藥、人參、甘草（炙）。

參、苓、朮、草，四君子湯也。經曰「邪之所湊，其氣必虛」，故用四君以補氣。治痰之法，利氣為先，故用青皮、白芷、烏藥、陳皮，以順氣，氣順則痰行而無壅塞之患矣。此標本兼治也。

【龜鹿二仙膏】

大補精髓，益氣養神。

鹿角、龜版、枸杞子、人參。

天一生水，水為萬物之元。精不足者，補之以味，鹿角為君，龜版為臣。鹿得天地之陽氣最全，善通督脈；龜得天地之陰氣最厚，善通任脈。二者血氣之屬，異類有情，竹破竹補之法也。人參為陽，補氣中之怯；枸杞為陰，益血分之旺，故以為佐。是方也，一陰一陽，無偏攻之憂；入氣入血，有和平之美。由是精生而氣旺，氣旺而神昌，故曰「二仙」。

眩運

有虛運、火運、痰運之分。虛有陰虛，有陽虛；火有虛火，有實火；痰有虛痰，有實痰。倘虛實不辨，陰陽不分，痰火不察，其不誤治者鮮矣。

【八味地黃丸】

治相火不足，虛羸少氣，王冰所謂「益火之原，以消陰翳」也，尺脈弱者宜之。

地黃八兩（砂仁酒拌，九蒸九曬）、山萸肉四兩（去核，酒潤）、山藥四兩、茯苓三兩（乳拌）、丹皮三兩、澤瀉三兩、熟附一兩、肉桂一兩，蜜丸。

地黃生中州之處，得土氣最厚。曰地曰黃，顧名思義為黃庭之要藥，但其稟質沉實，必須製度如法，得太陽之火，方能熟之，更得桂、附辛熱佐之，貞下起元，復其見天地之心乎！真水真火，得以既濟，元關一竅，悟者得之。山藥、茯苓，性味甘平，土金藥也，引入二經，以滋化源。山萸酸溫，強陰氣以潤血脈。丹皮辛涼，瀉陰分之伏火。澤瀉鹹寒，瀉陽分之邪火，又導火邪從膀胱而出。得十補一瀉之義，無壅滯矣。

【六味地黃丸】

治肝腎不足，真陰虧損，腰痛，足酸，自汗，盜汗，水泛為痰，發熱，咳嗽，頭暈，目眩，耳鳴，耳聾，遺精，便血，消渴，淋瀝，舌燥，喉痛，虛火牙痛等證。

地黃八兩（砂仁酒拌，九蒸九曬）、山萸肉四兩（酒潤）、山藥四兩（乳拌）、茯苓三兩（乳拌）、丹皮三兩、澤瀉三兩。蜜丸，鹽湯下。

熟地味厚，為滋陰上藥，主補腎填精，故以為君。山萸味酸歸肝，乙癸同治之義，且腎主閉藏而酸斂之性與之宜也。山藥色白味甘，入土金二臟，能培土生金，葆金生水，以滋化源也。丹皮清肝，用主宣通，所以佐山萸也。茯苓益脾，用主通利，所以佐山藥也。至於澤瀉有三功焉。一曰「利小便以清相火」，二曰「行地黃之滯，引諸藥直達腎經」，三曰「有補有瀉」，故用為使。此方為益腎之聖藥。

【回陽返本湯】

治陰盛格陽，回陽補虛之劑。

熟附子、乾薑、炙甘草、人參、麥冬、五味子、臘茶、陳皮。

面戴陽者，下虛也，加蔥白七莖，土漿水煎。

節菴變易仲景之白通湯，而為回陽補虛之製。蔥白、乾薑、附子，藉以通陽溫經。人參、五味、麥冬，藉以收陰生脈，然陰陽格拒，病深在臟，又非溫經生脈所能通也。而節菴更有生心化裁之妙，佐以廣皮，芳香利氣。土漿靜鎮中宮線，通氣道，使以臘茶芳香苦降為之嚮導，大破格拒之陰，其飛越之陽有不翕然返本者耶！

【八味養血湯】

治陽虛眩暈，益火之源以生元氣。

熟地、當歸、山藥、肉桂、茯苓、炒白芍、熟附子、丹皮、澤瀉、山萸肉。

地黃、萸肉、山藥，補足三陰經。澤瀉、丹皮、茯苓，補足三陽經。臟者，藏精氣而不泄，以填塞濁陰為補；腑者，如府庫之出入，以通利清陽為補。復以肉桂，從少陽納氣歸肝。復以附子，從太陽納氣歸腎。加歸、芍者，養血生精，並可以柔桂、附之剛也。

【八味生脈湯】

治仝上。

熟地、人參、麥冬、山藥、萸肉、丹皮、茯苓、肉桂、熟附子、澤瀉、五味子。

先天無形之火，乃真陽之火，人身無此火，則神機滅息，生氣消亡矣。惟桂、附，能入腎命之間而補之，故加入六味中。復以人參、麥冬、五味，以收陰生脈而虛火歸經矣。

【六味歸芍湯】

治陰虛眩暈，壯水之主以生精血。

熟地、當歸、山藥、萸肉、炒白芍、茯苓、丹皮、澤瀉。

地黃，味苦入腎，固封蟄之本。澤瀉，味鹹入膀胱，開氣化之源。二者補少陰、太陽之精也。萸肉，味酸入肝，補罷極之勞。丹皮，味辛入膽，清中正之氣。二者補厥陰少陽之精也。山藥，味甘入脾，健消運之機；茯苓，味淡入胃，利入出之器，二者補太陰、陽明之精也。足經道遠，故制以大；足經在下，故治以偶。加歸、芍者，以生肝木之汁，熄內風也。

【六味生脈湯】

治仝上。

熟地、茯苓、山藥、萸肉、丹皮、澤瀉、人參、麥冬、五味子。

精不足者，補之以味。六味湯為補腎之聖藥，復以生脈散，得金水相生之妙用也。

【茯神湯】

治煎厥。

茯神（去木）、羚羊角（鎊片）、北沙參、棗仁（炒）、玉竹、五味子、遠志（去心）、龍骨。

〈生氣通天論〉曰「陽氣者，煩勞則張，精絕，辟積於夏，使人煎厥」，處方當從益陰為主，何則？目盲不可以視，肝精不交於陽也，以玉竹、羚羊角、北沙參、棗仁，涼肝熱，救陰精。耳閉不可以聽，腎精不承於陽也，以遠志，通調腎經不足之氣。五味子，收攝腎經耗散之精。茯神、龍骨，收肝腎散漫之陽。補救陰陽，纖悉畢貫矣。

【赤茯苓湯】

治薄厥。

赤苓、陳皮、麥冬、人參、桔梗、芍藥、檳榔、生薑。

〈生氣通天論〉曰「大怒則形氣絕，血鬱於上，使人薄厥」，薄者，氣血相薄也。用赤苓、陳皮、生薑，利肺經血分之鬱。用麥冬、桔梗，清肺經氣分之鬱。人參，固肺經之正氣，使之下續真陰。白芍，約肝經厥逆之氣。使以檳榔，導引至高之氣下行，其厥自平。

【益氣補腎湯】

治色慾傷腎，氣逆不能歸原，眩運，耳鳴，耳聾。

人參、炙黃芪、白朮（土炒）、茯苓、炙甘草、山藥（炒）、萸肉，加薑為引。

參、苓、朮、草，功專健脾和胃。復以黃芪，大補脾陽。山藥，大補脾陰。萸肉，味酸入肝，并可攝納腎氣。中土有權而氣逆自歸原矣。

【八珍湯】

治氣血兩虛，皮寒骨熱，煩躁作渴，飲食不進，小腹肫痛，眩暈，昏憒等證。

熟地、歸身、白芍（炒）、川芎、人參、茯苓、白朮（蒸）、甘草炙。

氣為衛屬陽，血為營屬陰，不可使其偏勝，不可使其失養者也。純用四物，則獨陰不長；純用四君，則孤陽不生，二方合用，則氣血有調和之益，陰陽無偏勝之虞，諸症悉退矣。若真陰內竭，虛陽外鼓者，則於本方加黃芪，以助陽固表，加肉桂，以引火歸元，名「十全大補湯」。

【竹葉石膏湯】

治實火眩運，仲景原治陽明汗多而渴，鼻衄，喜水，水入即吐，及暑熱煩躁等證。

石膏、人參、麥冬、半夏、甘草（炙）、竹葉、粳米，加棗煎。

此分走手足二經而不悖於理者，以胃居中焦，分行津液於各臟，補胃瀉肺，有補母瀉子之義也。竹葉、石膏、麥冬，瀉肺之熱。人參、半夏、炙草，平胃之逆。復以粳米，緩於中。使諸藥得成清化之功，是亦白虎、越婢、麥冬三湯變方也。

【二陳湯】

治痰飲嘔惡，風寒咳嗽，或頭眩心悸，或中脘不快，脾胃不和等證。

茯苓、陳皮、半夏、甘草（炙），薑、棗引。

半夏辛熱，能燥濕。茯苓甘淡，能滲濕。濕去則痰無由以生，所謂「治病必求其本」也。陳皮辛溫，能利氣。甘草甘平，能益脾。益脾則土足以制濕，利氣則痰無能留滯，益脾治其本，利氣治其標也。如渴而喜飲水者，宜去半夏之燥而易貝母之潤，渴而不能飲水者，雖渴猶宜半夏也。此濕為本，熱為標，非真像也。《宣明》加黃芩治熱痰。

【貝母瓜蔞散】

治肺火壅遏，頭眩。

貝母、瓜蔞霜、茯苓、橘紅、桔梗。

貝母、瓜蔞辛苦，以宣肺壅。茯苓、橘紅甘辛，以通肺氣。桔梗，上開肺鬱而痰飲自袪矣。

【六君子湯】

治虛痰眩運，脾胃虛弱，飲食少思，或久患瘧痢，或食飲難化，或嘔吐吞酸，或咳嗽喘促等證。

人參、白朮（土炒）、茯苓、廣皮、半夏、甘草（炙）。

四君子湯加廣皮以順氣，更能開胃進食。虛而有痰再加半夏，半夏雖燥，得參、朮、苓、草以和之，亦化為君子，故亦曰「六君子湯」。若虛火等症，須加炮薑，其功尤速。

【二陳四物去熟地加天麻湯】

治血少，痰多，眩暈。

陳皮、半夏、茯苓、當歸、白芍（炒）、天麻、川芎、甘草（炙），薑、棗煎。

二陳湯，化痰神劑也。四物湯，養血要藥也。去熟地之滯，加天麻之潤，故能治眩暈而效。

【左歸飲】

此壯水之劑也。凡命門之陰衰陽勝者，宜此方加減主之。

熟地、山藥、茯苓、枸杞子、萸肉、甘草（炙）。

熟地，滋陰養血。枸杞，色赤補陽。山萸，入肝腎以補精。炙草，和中而瀉火。山藥，健脾。茯苓，益胃。

燥證

治燥當分內外二因，秋傷於燥，冬生咳嗽，是外因也。水虧精弱，真陰日涸，是內因也。貴在生津潤燥，保肺救脾，滋養腎陰，思過半矣。

【炙甘草湯】（一名復脈湯）

原治心悸，王燾治肺痿，孫真人治虛勞，三者皆是津液燥淫之證。

炙甘草、桂枝（去皮）、人參、麻子仁、生地、阿膠、麥冬（去心）、生薑、大棗（擘），加清酒仝煎。

〈至真要大論〉云「燥淫於內，金氣不足，治以甘辛也」，第藥味不從心肺而主乎肝脾者，是陽從脾以致津，陰從肝以致液，各從心肺之母以補之也。人參、麻仁之甘，以潤脾津。生地、阿膠之鹹苦，以滋肝液。重用地、冬濁陰，恐其不能上升，故君以炙甘草之氣厚，桂枝之輕揚，載引地、冬，上承肺燥。佐以清酒，芳香入血，引領地、冬，歸心復脈。仍使以薑、棗和營衛，則津液悉上供於心肺矣。喻嘉言曰「此仲景傷寒門中之聖方也」。

【清燥救肺湯】

主治諸氣膹鬱，諸痿，喘，嘔。

桑葉（經霜者）、石膏、胡麻仁（炒研）、甘草、杏仁（炒黃）、人參、阿膠、麥冬、枇杷葉（去毛淨蜜炙）。

燥曰清者，傷於天之燥氣，當清以化之，非比內傷血燥，宜於潤也。肺曰救者，燥從金化，最易自戕肺氣，經言「秋傷於燥，上逆而咳，發為痿厥」。肺為嬌臟，不容緩圖，故曰救。石膏之辛，麥冬之甘，杏仁之苦，肅清肺經之氣。人參、甘草，生津補土，培肺之母氣。桑葉，入肺走腎。枇杷葉，入肝走肺。清西方之燥，瀉東方之實。阿膠、胡麻，色黑入腎，壯生水之源，雖亢火害金，水得承而制之，則肺之清氣肅而治節行，尚何有喘、嘔、痿厥之患哉！嘉言喻氏此方可謂補軒岐之不及。

【清燥養營湯】

治外燥，皮膚皴揭，筋爪枯。肝血虛，則風熱而金燥。

當歸、熟地、白芍（炒）、秦艽、防風、甘草、生地、黃芩。

證為血虛而水涸。當歸，潤燥養血為君。二地，滋腎而補肝。芍藥，瀉肝火而益血為臣。黃芩，清肺熱，能養陰退陽。艽、防，散肝風為風藥潤劑，又秦艽能養血榮筋，防風乃血藥之使。甘草，甘平瀉火，入潤劑則補陰血，為佐使也。

【活血潤燥生津飲】

治內燥，津液枯少。

當歸、白芍（炒）、熟地、天冬、麥冬、栝蔞根、紅花、桃仁（研泥）。

歸、芍、地黃，滋陰可以生血。栝蔞、二冬，潤燥兼能生津。桃仁、紅花，活血又可潤燥。

【生脈散】

治熱傷元氣，倦怠氣短，口渴汗出，金為火制，水失所生而致咳嗽喘促等證。

人參、麥冬、五味子。

人參甘溫，固其中氣。麥冬甘潤，保其肺氣。肺氣為火所乘，則散湧而不收，故以五味酸而斂之。若有兼症，以治變之法隨證加減可也。

【參乳湯】

人身之燥，非血不澤，此方救燥病之根。

人參、人乳。

人參，味甘益血。人乳，本血所化，味甘鹹入脾肺腎三經，補益精氣血，陰血充足則內燥平。

【益血潤腸丸】

治氣血兩虛，諸般秘證。

熟地、當歸、肉蓯蓉、麻仁、杏仁、枳殼、蘇子、橘紅、阿膠、荊芥。

氣虛則寒，血虛則熱，寒熱相搏而凝結之病。生地黃、當歸、阿膠、麻仁、杏仁、蓯蓉，補血而潤下者也。氣行則血行，故以橘紅、蘇子、枳殼以通之。荊芥，少去其胃臟之風。

咳嗽

咳嗽一證，外感內傷不同，陰陽虛實有別。治外感之症，升發肺氣，使邪從外達，疏通肌腠，使熱從表散。治內傷陰虛咳嗽，補陰斂陽，使肺氣充實，補水保元，使虛火歸源。治內傷陽虛咳嗽，溫補真元，使生氣上布，填助真火，使陰寒冰消，蓋肺屬辛金，生於己土，參、芪所宜急進，非徒清金而已。

【止嗽散】

治初感風寒，諸般咳嗽。

桔梗、荊芥、紫菀、百部、白前、甘草、陳皮，加生薑。

主以甘桔湯，復以荊芥，去上焦風熱。陳皮、生薑，宣通中焦。紫菀、百部、白前，潤肺而清熱，此通治也。

【瀉白散】

治肺氣熱盛，欬嗽而喘，面腫身熱。

桑白皮、地骨皮、生甘草、粳米。

肺氣本辛，以辛瀉之，遂其欲也。蓋喘咳面腫，氣壅熱鬱於上，治節不行，是肺氣逆也。經言「肺苦氣上逆，急食苦以泄之」，然肺虛氣逆，又非大苦大寒所宜。桑皮、甘草，其氣俱薄，不燥不剛，雖瀉而無傷於嬌臟。復以地骨皮之苦泄陰火，退虛熱而平肺氣。使以甘草、粳米，緩桑、骨二皮於上，以清肺定喘，非謂肺虛而補之以米也。

【加味甘桔湯】

治風火鬱熱初起，以此方消散之。

甘草、桔梗、荊芥、牛蒡子（炒）、土貝、薄荷。

荊芥、薄荷，消風。牛蒡、土貝，散熱。甘、桔，清火。風熱咳嗽最穩。

【清金湯】（新製）

治風溫不宜辛散，用苦降甘潤之法，自無變更。

甘草、桔梗、玉竹、川貝、黑豆衣、桑葉、地骨皮、甜梨、白粳米。

汪石來曰「此足陽明、手太陰藥也」。養胃即以清肺。甘草、粳米，緩中。王竹、貝母，甘潤，以治溫熱。桑葉、地骨，辛涼以平木火。蓋風必生燥，溫必傷津。甜梨，甘寒，用以清燥生津。黑豆衣，祛風。桔梗，載諸藥上行也。

【紫菀湯】

治勞熱久咳，吐血吐痰。

紫菀、阿膠、知母（鹽水炒）、貝母、桔梗、甘草、人參、茯苓、五味子。

勞而久咳，肺虛可知，即有熱症，皆虛火也。海藏以保肺為君，故用紫菀、阿膠。以清火為臣，故用知母、貝母。以參、苓為佐者，扶土生金也。以甘、桔為使者，載藥入肺也。五味，滋腎經不足之水，收肺家耗散之金，久咳者所必收也。

【四君子湯】

治脾胃虛弱，飲食少思，或大便不實，體瘦面黃，或胸膈虛痞，吞酸，痰嗽，善患瘧痢等證。

人參、白朮（土炒）、茯苓、甘草（炙），加薑、棗煎。

湯以君子名，功專健脾和胃，以受水穀之精氣而輸布於四臟，一如君子有成人之德也。入太陰、陽明二經，然其主治在脾，故藥品分兩皆用偶數。白朮健脾陽，復人參保脾陰，炙草和胃陰，復茯苓通胃陽，大棗悅脾，生薑通胃理運，陰陽剛柔相濟，誠為生化良方。加黃芪、扁豆，治脾胃氣虛。

【金沸草飲】

治風熱壅肺，咳嗽，吐血，兼治傷風，頭目昏痛，咳嗽多痰等證。

旋覆花、前胡、赤芍、製半夏、赤苓、荊芥穗。

風熱盛即氣壅，氣壅則痰上，痰上則咳嗽，因而唾血者，皆風熱使之然也。但用輕揚之劑，疏其風而熱自解。旋覆、前胡，治風而兼行痰。荊芥，消風而兼行氣。半夏，治痰兼破氣逆。赤芍，調血兼能制急。赤苓，引下行兩手經而諸症安矣。

【補肺阿膠散】

治肺虛有火，嗽無津液而氣硬者。

阿膠、馬兜鈴、甘草、杏仁、牛蒡子、糯米。

馬兜鈴，清熱降火。牛蒡子，利膈滑痰。杏仁，潤燥散風，降氣止咳。阿膠，清肺滋腎，益血補陰。氣順則不硬，液補則津生，火退而嗽息矣。土為金母，故加甘草、糯米益脾。

【麥門冬湯】（金匱）

治火逆上氣，咽喉不利，救燥生津，止逆下氣。

麥冬、半夏、人參、甘草、粳米、大棗。

嘔、咳、上氣、喘者，陰氣在下，陽氣在上，諸陽氣浮無所依從，故嘔、咳、上氣、喘也。仲景另闢門戶，用人參、麥冬、甘草、粳米、大棗，大生胃津，救金之母氣，以化兩經之燥。獨復半夏一味之辛溫，利咽止逆，通達三焦，桑土綢繆，誠為扼要之法。

【補肺湯】

治肺虛咳嗽。

人參、黃芪（炙）、五味子（炒）、紫菀、桑皮（炙）、熟地。

參、芪，脾胃藥也，肺虛而益脾胃，乃虛則補其母也。地黃，滋腎藥也，肺虛而益腎，恐其失養而盜氣於母也。五味，酸收藥也，咳多必失氣，故用酸以收之。紫菀，涼肺中之血。桑皮，清肺中之氣。所謂隨其實而瀉之也。益其所利，去其所害，則肺受益矣，故曰「補肺」。

【四陰煎】

保肺清金之劑，四從金數，曰「四陰」也。

熟地、麥冬、茯苓、甘草（炙）、百合、白芍（炒）、沙參。

百合、沙參，保肺清金。生地、麥冬，潤燥除煩。芍藥，收斂肺經之氣。茯苓，制伏燥金之權。甘草，和中益胃。

【瓊玉膏】（申先生製）

滋液救焚，使補力直行下焦，不助上熱，治虛勞乾咳。

生地、茯苓、人參、白蜜，熬膏。

以地黃為君，令水盛而火自消也。損其脈者，益其氣，故用人參，以鼓生發之元。虛補其母，故用茯苓，以培萬物之本。白蜜為百花之精，味甘為脾性，潤悅肺且緩燥急之火。四者皆溫良和厚之品，誠堪寶重，珍賽瓊瑤。

【外臺杏仁煎】

治勞役表疏，寒襲於肺，上氣乾咳，肺痿，聲啞，忌諸肉。

杏仁一觔（去皮尖，搗熬作酪）、白蜜五合、酥油五合（以牛乳煎成者）、生薑汁三合。

右四味，以水三升，內杏仁酪，煎攪可減半，內薑汁煎如稀糖，內酥蜜，煎令如稠糖。每服一匙，日三服夜一服。一方加貝母八合（別篩末）、蘇子汁一升（以七小合蘇子研和水濾取汁）。一方加生地汁三合、麥冬汁五合。

杏仁入肺，功專降逆定喘，臣以蜂蜜之利，酥油之滑，即佐以薑汁之上升，性皆同氣相求者。逗留中焦，和脾胃，生肺津而乾咳自止。加蘇子、貝母者，降氣分之火。加地黃、麥冬者，清血分之火。審證取舍，推學者裁之。

吐血（衄血附）

血者，統於心，藏於肝，生化於脾，宣布於肺，施泄於腎。凡咳血、咯血、唾血、吐血，皆五志之火，奔迫上衝，致血外溢，治宜壯水以制火，而寒涼不可輕投，宜補陽以生陰而反治，多有奇效，且土為萬物之母，有生化精血之能，胃為五臟之本，有灌溉一身之力，脾土健運則陰生於陽矣。

【人參養營湯】

治脾肺俱虛，惡寒，發熱，肢體瘦倦，食少作瀉，口乾，心悸，自汗等證。

人參、白芍（炒）、黃芪（炙）、當歸、白朮（土炒）、熟地、甘草（炙）、茯苓、遠志、五味子、桂心、陳皮，薑、棗為引。

養營者，調養營氣，循衛而行，不使其行之度數疾於衛也。故於十全大補湯中減川芎行血之品，獨用血分填補收斂之藥，則營行之度緩。於氣分藥中加廣皮行氣之品，則衛行之度速。觀其一加一減，便能調平營衛，使其行度不愆。復遠志、五味者，經言「營出中焦，心經主之」，以遠志通腎，使陰精上奉於心。佐以五味收攝神明，一通一斂，則營有所主而長養矣。

【四物湯】

治一切血虛、血熱、血燥諸證。

當歸、熟地、川芎、白芍（酒炒）。

張璐玉曰「四物為陰血受病之專劑，非調補真陰之的方」，方書咸謂四物補陰，遂以治陰虛發熱，火亢失血等證，蒙害至今。先輩治上下失血過多，一切血藥置而不用，獨推獨參湯童便以固其脫者，以有形之血不能速生，無形之氣所當急固也。昔人有言「見血無治血，必先調其氣」，又云「四物湯不得補氣藥，不能成陽生陰長之功」，誠哉言也！然余嘗謂「此湯傷寒火邪解後，餘熱留於血分，至夜微熱不除，或合柴胡，或加桂枝，靡不應手輒效，不可沒其功也」。

【七珍散】

治久咯血成癆等證。

人參、白朮（蒸）、茯苓、甘草（炙）、山藥、黃芪（炙）、黃粟米。

此純是氣藥，今以治血者，以久病傷脾肺，雖用血藥，恐滋潤之品益足損脾。脾為金母，故祇以脾為重也。虛則補其母且培其土，能不作瀉，縱咯血甚尚可調治，若滋陰藥多，病雖似減，倘一旦食少作瀉，則不可知矣。故血證必用脾肺藥收功，亦不易之法也。

【玉女煎】

治水虧火盛，六脈浮洪滑大，煩熱，乾渴，頭痛，牙痛，失血等證。

石膏、熟地、麥冬、知母、牛膝。

陽明水虧火盛，非石膏，不能瀉火，非熟地、麥冬，不能養陰，知母可少除煩，牛膝又能降下。

【鎮陰煎】

治陰虛於下，陽格於上，真陽失守，大吐大衄，六脈細脫，手足厥冷，危在頃刻者。

熟地、牛膝、澤瀉、肉桂、製附子、甘草（炙）。

熟地，養營以鎮陰，滋水以補陰。牛膝下降，收攝腎肝之火。澤瀉，佐牛膝而下行，可以納氣歸原。甘草，緩以守中。桂、附，溫以引火。此陰中求陽，坎離交治之法也。

【大造丸】

治虛損勞傷，咳嗽，潮熱。

紫河車一具、敗龜版二兩（童便浸，酥炙）、黃柏（鹽酒炒）、杜仲（酥炙）各兩半，牛膝（酒浸）、天冬（去心，清水浸淡）、麥冬（去心）、人參各一兩，地黃二兩（茯苓、砂仁六錢同煮，去之）。

夏加五味子，酒米糊丸。

女人去龜版加當歸，乳煮糊丸。

此手太陰、足少陰藥也。河車，本血氣所生，大補氣血為君。敗龜，得陰氣最全，黃柏，稟陰氣最厚，滋陰補水為臣。杜仲，潤腎補腰。牛膝，強筋壯骨。地黃，養陰退熱，製以茯苓、砂仁，入少陰而益腎精。二冬，降火清金，合之人參、五味，能生脈而補肺氣。大要以金水為生化之源，合補之以成大造之功也。

【犀角地黃湯】

治吐衄，便血，婦人血崩赤淋。

生地、白芍（炒）、丹皮、犀角（鎊片）。

此足陽明、厥陰藥也。血屬陰本靜，因諸經火逼，遂不安其位而妄行。犀角大寒，解胃熱而清心火。芍藥酸寒，和陰血而瀉肝火。丹皮苦寒，瀉血中之伏火。生地大寒，涼血而滋水。以共平諸經之逆也。

︽醫貫︾曰「犀角地黃湯乃衄血之的方。蓋犀，水獸也，可以分水，可以通天。鼻衄之血從任督而至巔頂，入鼻中，惟犀角能下入腎水，引地黃滋陰之品由腎脈而上，故為對症」。

王晉三曰「按本草犀角地黃能走心經，專解營熱，余因革去丹皮、赤芍，易以連翹入心散客熱，生甘草入心和絡血，以治溫熱證熱邪入絡之方，於理無悖」。

【生地黃飲子】

治吐血、衄血、下血、溺血皆屬熱證。

生地、熟地、枸杞子、黃芪（炙）、白芍（炒）、天冬、甘草、地骨皮、黃芩。

二地並用，熟以益陰，生以涼血。黃芪、甘草補氣，所謂「有形之血不能速生，無形之氣所當急固」也。天冬，清上。白芍，斂肝。枸杞、地骨，退熱除蒸。黃芩，平諸熱。蓋血得熱則妄行也。

【清肺補陰湯】

治陰虛內熱，法當用甘寒，不當用苦寒之劑。

天冬、麥冬、桑白皮、貝母、批杷葉、地骨皮、五味子、白芍（炒）、鱉甲、蘇子、車前子。

肺為嬌臟，少陰火旺必剋辛金。天、麥二冬，清心保肺。桑皮、地骨，能瀉肺熱。貝母，潤燥。五味，收陰。枇杷葉、蘇子，治火上逆，可降肺氣。白芍，和脾。鱉甲，制肝。車前子，甘能益脾，脾氣散精，上輸於肺，則肺氣清肅矣。

【六味回陽飲】

治陰陽將脫等證。

人參、甘草(炙)、炮薑、附子(製)、當歸、熟地。

人參、熟地，兩補陰陽。當歸，味甘補血。炙甘草，緩中回陽。附子，溫下焦都會之元陽。乾薑，理中焦陰寒之不足。

【黃芩芍藥湯】

治陰火載血上行，衄而不止者。

黃芩（酒炒）、白芍、甘草。

黃芩能降火，芍藥能收陰，甘草能緩急，陰火自不上逆矣。此即仲景黃芩湯治「熱痢，腹痛，後重，身熱，膿血稠粘」而去大棗者。王晉三曰「黃芩湯，太陰少陽合病，自利，邪熱不從少陽之樞外出，反從樞內陷，故舍陽而治陰也」。芍藥、甘草、大棗，一酸二甘，使酸化甘，中以和太陰，則腸胃得博厚之通而利止矣。

【逍遙散】

治肝脾血虛，鬱怒傷肝，血少目暗，發熱，脇痛等證。

柴胡、當歸、白芍（炒）、甘草、白朮（土炒）、茯苓。

《莊子》內七篇以逍遙名其首，蓋鬱為情志之病，丹溪雖論六鬱，然思、憂、怒致鬱者多。思則氣結於心，傷於脾。憂則神志不遂，精氣消索，心脾日以耗損。含怒未發，肝氣內鬱，乘勝於脾，治以柴胡，肝欲散也。佐以甘草，肝苦急也。當歸，以辛補之。白芍，以酸瀉之。治以白朮、茯苓，脾苦濕也。佐以甘草，脾欲緩，用苦瀉之，甘補之也。治以白芍，心苦緩以酸收之。佐以甘草，心欲耎以甘瀉之也。加薄荷、生薑，入煎即濾，統取辛香散鬱也。薛立齋加山梔，清氣分鬱火，丹皮，瀉血分鬱熱，其理甚通，宜遵之。

【止衄散】

治飢困勞役，動其虛火，致衄不止等證。

黃芪、阿膠、生地、當歸、白芍（炒）、赤苓。

虛火可補，故用黃芪、當歸、阿膠甘溫之品以補之。赤茯苓，能導丙丁之火從小水而下行。白芍，能收陰氣。生地，能涼血熱。三物者，去血中之熱，自是沖和，虛火宜此。

【茜根散】

治陰虛衄血。

茜根、生地、阿膠、黃芩、側柏葉、炙甘草。

腎陰虛則陽偏勝，故載血上行而致衄。是方也，阿膠，能補虛。黃芩，能養陰。甘草，能緩急。茜根、側柏、生地，則皆去血中之熱，能生陰於火亢之時者也。

【秦艽鱉甲散】

治風勞，骨蒸壯熱，肌肉削瘦等證。

秦艽、鱉甲、歸身、知母、烏梅、青蒿、柴胡、地骨皮。

秦艽、柴胡，風藥也，能治肌骨之風。地骨、知母，寒品也，能療肌骨之熱。鱉，陰類也。甲，骨屬也。甲以及骨，則能為諸藥之嚮導。陰以養陰，則能退陰分之骨蒸。烏梅味酸，能引諸藥入骨而收其熱。青蒿苦辛，能從諸藥入肌而解其蒸。復以當歸，一以養血，一以導諸藥入血，而除熱於陰耳。

【聖愈湯】

治一切失血，或血虛煩熱，燥渴，睡臥不安，五心煩熱作渴等證。

熟地、當歸、白芍（酒炒）、川芎、人參、黃芪（炙）。

柯韻伯曰「經曰『陰在內，陽之守也；陽在外，陰之使也』，故陽中無陰，謂之孤陽；陰中無陽，謂之死陰」。此方取參、芪配四物，以治陰虛血脫等症，蓋陰陽互為其根，陰虛則陽無所附，所以煩熱燥渴而陽亦亡。氣血相為表裏，血脫則氣無所歸，所以睡臥不安而氣亦脫。然陰虛無驟補之法，計在存陽；血脫有生化之機，必先補氣。此陽生陰長，血隨氣行之理也。此方得仲景白虎加人參之義而擴充者乎！凡治陰虛用八珍、十全卒不獲效者，因甘草之甘，不達下焦；白朮之燥，不利脾腎；茯苓滲泄，礙乎生升；肉桂辛熱，動其虛火，此六味皆醇厚和平而滋潤，服之則氣血疏通，內外調和，合於聖度矣。

喘證

喘有內傷、外感之分，陰虛、陽虛之異。面赤、口渴、大便秘，屬陰虛；面白、口不渴、大便泄，屬陽虛。外感邪入而為喘，屬肺受風寒，其來暴；內傷乃肺腎受病而為喘，其來漸。然陰虛作喘而補陰是矣，第陰中有陽。陽虛作喘而補陽是矣，第陽中有陰。惟取陰陽相濟之義斯可耳。

【六安煎】

治風寒欬嗽，痰滯氣逆等證。

茯苓、半夏、甘草炙、陳皮、白芥子（炒研）、杏仁，加生薑煎。

杏仁，潤肺散風。芥子，消痰定喘。陳、夏，祛痰。苓、草，和中。生薑，通陽達表。而痰喘自安也。

【加味甘桔湯】

治喘定哮。

甘草、桔梗、川貝母、百部、白前、橘紅、茯苓、旋覆花。

甘、桔，以開肺鬱。橘紅、茯苓，以利肺氣。旋覆，鹹降。川貝，甘潤。百部，清肺熱。白前，通肺竅。此手太陰藥也。

【麻杏甘石湯】

治溫熱內發，表裏俱熱，頭痛身疼，不惡寒，反惡熱，無汗而喘，大煩大渴，脈陰陽俱浮者，用此發汗而清火。

麻黃、杏仁、石膏、甘草。

喘者，作桂枝湯加厚朴杏子，治寒喘也。今以麻黃、石膏加杏子，治熱喘也。麻黃，開毛竅。杏仁，下裏氣。而以甘草，載石膏辛寒之性，從肺發泄，俾陽邪出者出，降者降，分頭解散。喘雖忌汗，然此重在急清肺熱以存陰，熱清喘定，汗即不輟而陽亦不亡矣。觀二喘，一寒一熱，治法仍有營衛分途之義。

【八味湯加減】

治陽虛作喘。

熟地、茯苓、山藥、萸肉、丹皮、澤瀉、杜仲、肉桂、熟附子、人參、枸杞、菟絲子、鹿角膠。

益火之原，以消陰翳，八味湯為主。復以人參、枸杞、菟絲、杜仲、鹿膠，群隊甘溫之品，專入足少陰經，大補真火而陽虛之喘定矣。

【六味湯加減】

治陰虛作喘。

熟地、茯苓、山藥、萸肉、丹皮、澤瀉、麥冬、沙參、玉竹、苡仁、阿膠。

壯水之主，以鎮陽光，六味湯為主。復以麥冬、沙參、玉竹、苡仁、阿膠，群隊甘平之品，專入手太陰經，大補真水而陰虛之喘治矣。

【黃芩半夏湯】

專治寒包熱，兼治表裏。

黃芩（酒炒）、半夏、紫蘇、桔梗、枳殼、杏仁、甘草。

半夏，以解肺寒。黃芩，以泄肺熱。枳殼，寬膈。杏仁，消痰。紫蘇，疏腠。甘、桔，取其辛苦散寒，甘緩除熱也。

【金水六君煎】

治肺腎虛寒，水泛為痰，或年邁陰虛，氣血不足，外受風寒，咳嗽多痰，嘔惡，喘滿等證。

當歸、熟地、茯苓、陳皮、半夏（炒）、甘草（炙），加生薑煎。

陳、夏、苓、草，上達乎肺金，有祛痰補氣之功。當歸、熟地，下滋乎腎水，有養營納氣之力。再藉生薑，大力拔其虛陷之邪，和其表裏之用也。

【徙薪飲】

治三焦凡火，一切內熱漸覺而未甚者。

陳皮、黃芩、麥冬、芍藥、黃柏、茯苓、丹皮。

黃芩清肺，麥冬潤肺，此清潤上焦之火也。芍藥瀉脾，茯苓滲脾，此滲瀉中焦之火也。黃柏降腎中之火，丹皮瀉君相之火，此滋降下焦之火也。少用陳皮，通行三焦之氣，宣達鬱悶之痰耳。

【三才丹】

治脾肺虛勞欬嗽。

天門冬、熟地、人參。

天冬，以補肺生水。人參，以補脾益氣。熟地，以補腎滋陰。以藥有天地人之名，而補亦在上下中之分，使天地位育參贊居中，故曰「三才」也。喻嘉言曰「加黃柏，以入腎滋陰。砂仁，以入脾行滯。甘草，以少變天冬、黃柏之苦，俾合人參建立中氣，以伸參兩之權，殊非好為增益成方之比也」。

【五味異功散】

治脾胃虛寒，飲食少思，嘔吐或久患欬嗽，面浮氣逆，腹滿等證。

人參、白朮（土炒）、茯苓、甘草、炙陳皮。

【右歸飲】

此益火之劑也。凡命門之陽衰陰勝者宜之。

熟地、肉桂、熟附子、萸肉、枸杞子、山藥、杜仲、甘草（炙）。

熟地、枸杞、炙甘草，左歸飲也。易茯苓淡滲，使其不走真陽。加杜仲溫平，佐補肝腎益陰。加桂、附，溫命門之火以歸源。則陽衰助其陽，陰弱養其陰。

【人參胡桃湯】

治喘急不能臥。

人參、胡桃（連衣炒）、玉竹（一方無玉竹）。

人參，大補肺氣。胡桃，可解膈內之痰飲，膈間痰化而嗽止聲清，連皮能收肺經耗散之氣，連膈能通命門之火，勿去之，喘即定。

【羊肉湯】

鎮逆固脫，仲景救逆湯之復方也。

左牡蠣、龍骨、川桂枝、炒白芍、熟附子、當歸、精羊肉、生薑。

韓祇和曰「救逆不應，當復羊肉，為效甚速。蓋以陽盛於上而衰於下者，與以羊肉有情之品，比類從陽。先為眷戀在下欲脫之陽，然後重鎮降逆，則在上失守之陽知有所歸宿矣」。

肺癰

清肺之熱，救肺之氣，則肺不致焦腐。散其火結，滌其壅遏，以分散其勢於大腸。日漸下移，因勢利導，乃不易良法也。

【千金葦莖湯】

治肺癰。

葦莖、苡仁、桃仁、瓜瓣。

葦，蘆之大者。莖，幹也。病在鬲上，越之使吐也。蓋肺癰由於氣血混一，營衛不分，以二味涼其氣，二味行其血分，清營衛之氣，因勢涌越，誠為先著。其瓜瓣當用絲瓜者良，絲瓜經絡貫串房隔聯屬，能通入脈絡臟腑，消腫化痰，治諸血病，與桃仁有相須之理。苡仁下氣，葦莖上升，一升一降，激而行其氣血，則肉之未敗者不致成膿，癰之已潰者能令吐出。今時用嫩葦根，性寒滌熱，冬瓜瓣，性急趨下，合之二仁，變成潤下之方，借以治肺痺，其義頗善。

【甘桔黑豆湯】

初發宜此湯解毒開提。

甘草、桔梗、黑大豆。

甘草，和中解毒。黑豆，散熱解毒。桔梗，開提肺氣。初發用之，毒自解散。

【百合固金湯】

治肺傷，咽疼，喘欬，瘼血等證。

生地、熟地、麥冬、貝母、百合、當歸、白芍、元參、桔梗、生甘草。

此手太陰、足少陰藥也。金不生水，火炎水乾，故以二地助腎，滋水退熱為君。百合，保肺安神。麥冬，清熱潤燥。元參，助二地以生水。貝母，散肺鬱而除痰。歸、芍，養血兼以平肝。甘、桔，清金成功上部。皆以甘寒培元清本，不欲以苦寒傷生發之氣也。李士材曰「蕺菴此方殊有卓見，然土為金母，清金之後亟宜顧母，否則金終不可足也」。

【通壅湯】

治肺癰，咳嗽，吐膿血，咳引胸中痛。

桔梗、白芨、橘紅、貝母、甜葶藶、苡仁、甘草節、金銀花。

苡仁甘寒，益胃補肺，銀花甘平，除熱解毒，用以為君。川貝母，辛散肺鬱，甘草節，甘瀉肺火，用以為臣。白芨苦平，肺損可以復生，葶藶甘辛，肺閉可以疏洩，桔梗開提，橘紅宣通，用以為佐使，共成化毒之功。

肺痿

貴在補腎水以鎮陰火，生津液以潤肺燥，所謂「補其肺者，益其氣，補其腎者，益其精」，庶可起垂危於萬一也。

【人參養肺湯】

治欬吐痰涎色白，委頓，脈大無力，肺虛之證。

人參、茯苓、炙甘草、炙黃芪、阿膠、五味子。

肺痿一證，大抵君火灼於上，腎氣不相顧，土氣不相救而陰液內耗。以參、芪、炙草補脾，大建中氣，阿膠清肺，五味斂氣歸腎，茯苓以通陽明。如是則胃津大生，以救肺燥，金水相生而清肅令行矣。

【人參平肺湯】

治肺痿。

人參、天冬、橘紅、知母、甘草、茯苓、地骨皮、桑白皮，薑水煎。

委靡之象，無非木火炎上，肺臟之真氣全泄而白血外溢。人參、甘草，益氣。天冬，清金。知母、地骨，養胃生津。桑皮，瀉燥。生薑、橘紅，辛通。茯苓，味甘和脾，氣平和肺。津生燥平，金得保全矣。

【保和湯】

治肺痿。

知母（蒸）、貝母、天冬、麥冬、苡仁、甘草、桔梗、北五味、馬兜鈴、百合、阿膠（蛤粉炒成珠）、薄荷，服入飴糖一匙。

知母、天冬，能清肺火。麥冬、貝母，能潤肺燥。馬兜鈴，降肺氣。五味子，斂肺氣。百合、阿膠，補陰清熱。甘草、桔梗，和中利膈。苡仁，肺痿肺癰要藥。少入薄荷，藉以開鬱。

消渴

消渴一證責在於下，腎水虧則龍火無所依而遊行於中上，在胃則善食易飢，在肺則口渴喜飲，在腎則小水如膏。治法，壯水生津，制火保元，而尤重於救脾胃，蓋水壯則火熄，土旺則精生，真火歸原則不渴不飢矣。徜補陰不應，不得不從反佐之治，「益火之源以消陰翳」也。

【易簡地黃飲子】

治消渴，咽乾，面赤，浮躁。

人參、生地、熟地、黃芪（炙）、天冬、麥冬、澤瀉、石斛、枇杷葉（拔去毛淨，蜜炙）、甘草（炒）。

此手足太陰陽明藥也。喻嘉言曰「此方生精補血，潤燥止渴，佐以澤瀉，瀉膀胱之火，使小腑清利則心火下降，宿熱既除，其渴自止矣」。

【二冬湯】

治上消。

天冬、麥冬、天花粉、黃芩、知母、人參、甘草。

人參、甘、麥冬甘，以復胃津。天冬、花粉苦甘，以清肺熱。黃芩、知母苦降，以洩肺胃之火。

【生地八物湯】

治中消。

生地、山藥、知母、麥冬、黃芩、黃連、黃柏、丹皮。

生地、丹皮，以涼心火。麥冬、知母，以清肺熱。山藥，以養肺陰。三黃，大苦大寒，所謂「以苦泄之，以甘緩之」也。

【黃芪湯】

治心移寒於肺，飲一溲二，謂之死陰。

黃芪(炙)、人參、五味子、枸杞子、熟地、桂枝、生乾薑，河間原製有麥冬。

王晉三曰「飲少溲多者，飲入於胃，上輸於脾，脾氣不能散精，而精捍二氣統歸於肺，肺亦統輸膀胱，水精仍不能四布，有下而不上，有柔而無剛，竟成一派死陰。方中用人參、枸杞、熟地，以足經藥治手經病，從陰中和陽，深中肯綮。獨以麥冬、桑皮，瀉心肺二經之邪，於理未切，因率管見，損此二味，增以桂枝、乾薑，蓋桂枝、人參，能和心經之陽，乾薑、五味，可攝膀胱之氣，治足經而手經亦得其功，移寒之邪可解矣」。

【麥冬飲子】

治心移熱於肺，傳為膈消，亦死陰也。

麥冬、知母、人參、甘草(炙)、生地、茯神、栝蔞實、葛根，加竹葉數片。

熱久消渴，煩心短氣，津液日耗，漸成危證。治以人參、甘草，和胃生津。麥冬、知母，救肺陰。生地、茯神，清心熱。葛根，升胃津。栝蔞，止消渴。危證立方，止求無過，治本之圖不為迂矣。

【竹葉黃芪湯】

專治肺經熱消。

淡竹葉、石膏(煅)、麥冬、人參、黃芪(炙)、甘草(炙)、半夏(製)、生地、當歸、白芍(炒)、川芎、黃芩(炒)。

四方互復，獨以竹葉黃芪標而出之者，明其力專治肺經熱消，非概治二陽結之消渴者也。竹葉石膏湯為輕清之劑，復以生地、黃芩，濁陰之品，清肺與大腸之火。四物湯為濁陰之劑，復以竹葉、石膏，清燥之品，清肝膽之火。補中益氣湯，人參、黃芪、甘草，除煩熱之聖藥，復以石膏、白芍，清脾胃之火。黃芩湯，治後天太陰之劑，復以生地、麥冬，壯水之品，清腎中之火。竹葉石膏湯不去半夏，藉以通氣分之竅；四物湯不去川芎，藉以通血分之竅。養正袪邪誠為良劑。

不寐

內虛不寐，乃營衛之偏勝，陰陽之離合。凡肝腎陰虧者，陽浮於上，營衛不交，神明擾亂，求其得寐也難矣。又有初睡之時，忽然似驚而醒，此非心虛膽怯，蓋營弱衛強，契合淺而脫離快，升者復升，降者復降，而斯時復寐矣。明乎此，則壯水、益火二法，在所必用耳。

【天王補心丹】

定心神，固精血，強志力，去煩熱，除驚悸，清三焦，解乾渴，育養心氣。

生地、棗仁(炒)、天冬、麥冬、當歸、人參、元參、丹參、茯神、桔梗、遠志、柏子仁、五味子，燈心引。其方有四，惟此道藏者通。

補心者，補心之用也。心藏神，而神之所用者，魂魄意智精與志也。補其用而心能任物矣。〈本神篇〉曰「隨神往來者謂之魂」，當歸、柏子仁、丹參，流動之藥，以悅其魂。心之所憶謂之意，人參、茯神，調中之藥，以存其意。固思慮而處物謂之智，以棗仁，靜招乎動而益其智。並精出入者謂之魄，以天冬、麥冬、五味子，靜謐之藥而安其魄。生之來謂之精，以生地、元參，填下之藥，定其精。意之所存謂之志，以遠志、桔梗，動生於靜而通其志。若是，則神之陽動而生魂，魂之生而為意，意交於外而智生焉。神之陰靜而生魄，魄之生而為精，精定於中而志生焉。神之為用不窮矣，故曰「補心」。

【溫膽湯】

治熱嘔，吐苦，虛煩，驚悸不眠，痰氣上逆。

陳皮、半夏（炒）、枳實、竹茹、甘草（炙）、茯苓、生薑。

溫膽湯，隔腑求治之方也。熱入足少陽之本，膽氣橫逆，移於胃而為嘔苦不眠，乃治手少陽三焦，欲其旁通膽氣，退熱為溫，而成不寒不燥之體，非以膽寒而溫之也。用二陳，專和中焦胃氣。復以竹茹，清上焦之熱。枳實，泄下焦之熱。治三焦而不及於膽者，以膽為生氣所從出，不得以苦寒直傷之也。命之曰「溫」，無過泄之戒辭。

【金匱酸棗仁湯】

治虛勞虛損不得眠。

棗仁(炒)、甘草、知母、茯苓、川芎。

虛煩，胃不和，膽液不足，三者之不寐，是皆虛陽溷擾中宮，心火炎而神不定也。故用補母瀉子之法，以調平之。川芎，補膽之用，甘草，緩膽之體，補心之母氣也。知母，清胃熱，茯苓，泄胃陽，瀉心之子氣也。獨用棗仁至二升者，取酸以入心，大遂其欲而收其緩，則神自凝而寐矣。

【酸棗仁湯】

治病後氣血俱虛，內亡津液，煩熱，諸虛不眠。

棗仁(炒)、人參、麥冬、竹茹。

人參、麥冬，大生胃津。棗仁，能補肝虛。竹茹，清上焦之熱。如是，則神明之擾亂可安矣。

【王荊公妙香散】

治有夢之遺精，令人安臥。

人參、益智仁、五花龍骨、茯神、茯苓、甘草、遠志肉、硃砂、木香、麝香。

右為末，空心每服二錢，溫酒調服。

經言「手足少陰之厥，令人妄夢」，夫精之藏蓄在腎，統攝在脾，至疏泄之時，則惟聽命於心。故用茯苓、遠志通腎，以泄邪火。人參、益智固脾，以攝真精。茯神安神，硃砂定氣，龍骨秘精，三者皆安鎮心經之藥。炙甘草，調和陰陽，則心有所主而精不搖矣。良方加木香、麝香，通其神明，使人不夢，淫邪泮釋，自無精泄之患，其妙在於二香，又烏可闕之。

【維陽感召湯】（新制）

治陰不維陽，達旦不寐。

人參、天冬、麥冬、熟地、生地、茯神、犀角(鎊)、羚羊角(鎊)、琥珀(研)、龍齒(煅)、珍珠(研)、龜版(炙)、龍眼肉引。

經曰「陽不入於陰，則不能寐」，人參、天冬、二地，乃三才丹，以補手足太陰、足少陰。麥冬、茯神入心，所謂「熱淫於內，以清勝之」。犀角、羚羊，獸類之靈，涼心清肝。龍齒、龜版，介類之靈，鎮心潛陽。琥珀、松脂，入土而成實。珍珠、老蚌，感月而結胎。故能安魂魄，定心神。龍眼肉，甘以悅脾，此方專用純甘之味，復以物之靈引人之靈，兩相感召也。

【甘麥大棗湯】

治婦人臟躁，喜悲傷欲哭，象如神靈所作，數欠伸。

甘草、小麥、大棗。

小麥，苦穀也，經言「心病宜食麥」者，以苦補之也。心系急則悲，甘草、大棗，甘以緩其急也。緩急則云「瀉心」，然立方之義，苦生甘是生法而非制法，故仍屬補心。

【獺肝丸】

葛雅川治尸疰、鬼疰。仲景治冷勞。

獺肝一具，陰乾，為末，水服二錢，日三服，以瘥為度。

獺肝丸，奇方也。按獺肝性溫，能驅陰邪而鎮肝魂，不使魂遊於上而生變動之症。蓋疰者，邪注於臟也，若注於肝，則肝為善變之臟。邪與魂相合，症變便有二十二種，其蟲三日一食，五日一退，變見之症無非陰象，而獺肝一月生一葉，又有一退葉，是其性亦能消長出入，以殺隱見變幻之蟲，真神品也。

【養心湯】

治心神不足，夢寐不安，驚悸健忘等證。

白芍、當歸、人參、遠志、麥冬、黃芩、山藥、芡實、蓮鬚、棗仁、茯神、石蓮子。

《難經》云「心不足者，調其營衛」，營衛者，血脈之所出而心主之，故養心者，莫善於調營衛也。然營衛並出中州，營淫精於肝而濁氣歸心，衛氣通於肺而為心相，腎受心營肺衛之歸而又升精於離，以成水火既濟。是三藏者，皆心之助，而調營衛者所必出於是也。故調營衛，調其四藏而心養矣。是方，人參、茯神，以神養心。棗仁、歸、芍，以母養肝。山藥、麥冬、黃芩，以清養肺。蓮鬚、芡實、石蓮、遠志，以澀養精而升之。於是神明之主泰然於天鈞之上矣。此養心之旨也。

黃癉

有陽黃、陰黃之不同。陽黃，熱濕鬱在胃也，而其原本於脾虛；陰黃，寒濕蓄在胃也，而其原本於腎虛。非徒利濕清熱攻伐，多脾原敗而腎原虧矣。大抵虛熱者，救脾陰為急；虛寒者，救腎陽為先。

【茵陳五苓散】

治濕熱發黃，便秘，煩渴。

茵陳、豬苓、赤苓、白朮（土炒）、澤瀉、肉桂。

土虛則受濕，濕生熱，濕熱乘脾，中央之黃色乃見。酒亦濕熱，故並治之。茵陳，專理濕熱，發黃者所必用也。佐以澤瀉、豬苓，則水液分於膀胱。佐以白朮、茯苓，則土旺可以勝濕。桂之為用，能令諸藥直達熱所，蓋嚮導之兵也。

【梔子柏皮湯】

治陽黃，身黃發熱者。

梔子、黃柏皮、炙甘草。

梔子、柏皮，表劑也，以寒勝熱，以苦燥濕，已得治黃之要矣。乃緩以甘草，黃必內合太陰之濕化，若發黃者，熱已不瘀，於裏有出表之勢，故汗下皆所不必，但當奠安脾土，使濕熱二邪不能復合，其黃自除。梔子厚朴湯言熱，梔子乾薑湯言寒，治皆在裏，此治在表也。

【麻黃連軺赤小豆湯】

連軺即連翹根，表裏分解法。

麻黃、連軺、赤小豆、杏仁、生薑、生梓白皮、甘草、大棗。

先煮麻黃再沸，去上沬，潦水煎。

太陽之熱或陽明之熱，內合太陰之濕，乃成瘀熱發黃。病雖從外之內，而粘著之邪當從陰以出陽也。杏仁、赤小豆，泄肉理濕熱。生薑、梓白皮，泄肌表濕熱。仍以甘草、大棗，奠安太陰之氣。麻黃，使濕熱從汗而出太陽。連軺根，導濕熱從小便而出太陽。潦水，助藥力從陰出陽。經云「濕上甚為熱」，若濕下行則熱解，熱解則黃退也。

【茵陳大黃湯】

治身黃如橘子色，腹滿便閉者。

茵陳、梔子、大黃。

茵陳、梔子，寒勝熱，苦勝濕，在表之濕熱可除。若在裏便閉，非大黃不能蕩滌腸胃，下燥結而除汗熱也。

【加味枳朮湯】

治穀疸。傷食者，名穀疸。

白朮、枳實、陳皮、麥芽（炒）、山查、茯苓、神麴、連翹、茵陳、荷葉、澤瀉。

傷酒加葛根。

若便閉去白朮，加萊菔子、黃芩。

白朮，除胃中濕熱。枳實，消胃中停滯。荷葉，取之以升發胃中生氣，此東垣原法也。佐以麥芽、山查、神麴，大和中焦。茯苓、陳皮，以和脾土。連翹、茵陳，以散濕熱。澤瀉，功專利濕行水。此治穀疸者。

【理脾陰煎】（汪蘊谷製）

大補脾陰，治陽黃。

南沙參、白朮（土炒）、茯苓、山藥、扁豆（炒）、陳皮、甘草（炙）、茵陳、梔子、白芍（炒）、苡仁、穀芽（炒）。

五味異功散以沙參易人參，復以山藥、扁豆、苡仁，甘益坤土。白芍、穀芽，和脾。茵陳、梔子，清濕熱。

【培腎元煎】（汪蘊谷製）

大補腎元，治陰黃。

熟地、當歸、山藥、枸杞子、製附子、白朮（土炒）、茯苓、甘草（炙）、炮薑、黃芪（炙）、人參。

參、苓、朮、草，能補五臟之氣。熟地、歸、杞，分補腎經精血。黃芪、山藥，雙補脾臟陰陽。腎中真陽大虧，薑、附，可以回陽壯火。

【硝石礬石散】

治女勞黑癉。

硝石（芒硝之底沉凝者準）、礬石，燒等分。

右二味為散，以大麥粥汁和服方寸匕，日三服，病隨大小便去。小便正黃，大便正黑，是其候也。

消石礬石散，悍劑也。女勞黑癉腹滿者，死證也。讀仲景原文，當急奪下焦之瘀血，庶可幹全生氣，舍此別無良法可醫。惜乎後醫不解病情，惟知清熱去濕，隔靴搔癢，日漸困篤，迨至束手而斃，殊不知女勞傷其精而溺血，若血能流通則無發黃變黑之證矣。若精竭而血不行，鬱遏於膀胱少腹，必然陰虛火發而湧泉灼熱，明是真精耗竭，君相二火並炎，薰蒸於脾則身黃，燎原於腎則額黑，故《金匱》下文云「非水也」，其殆腎氣之所發也歟！治以消石，直趨於下，苦鹹入血，散火破瘀。礬石酸寒，佐消石下趨，清腎與膀胱之熱。《別錄》云「除錮熱在骨髓是也」，和以大麥粥汁服者，以方寸匕之藥，藉大麥下氣之性而助其功用也。《金匱》另有酒癉之黑，乃是濕熱瘀而不行，營血腐敗之色，又非消石散之所治矣。

【茵陳四逆湯】

治發黃，脈沉而遲，肢體冷逆，腰以上自汗。

茵陳、附子、乾薑、甘草炙、肉桂（去皮）。

此陰證發黃也。陰寒盛於下，則戴陽於上，故上體見陽症，下體見陰症。陰盛於下，故見陰脈之沉遲，兼陰症之四逆；陽戴於上，故見陽症之發黃，上體之自汗也。茵陳，治黃之要藥，故無分於寒熱而用之。附子、乾薑、炙甘草，回陽之要品也，故有陰寒則用之。然必冷服者，恐薑、附發於上焦陽盛之區而下部陰寒之分反不及也。

【五君子煎】

治脾胃虛寒，嘔吐泄瀉而兼濕者。

人參、茯苓、白朮（土炒）、甘草（炙）、乾薑。

四君，參、苓、朮、草，加乾薑，溫以通陽，安胃止嘔，健脾止瀉，培元養胃，實為司命之方也。

百合病

百合病者，百脈一宗，悉致其病也。意飲食，復不能食，常默默然，然欲臥不能臥，欲行不能行，飲食或有美時，或有不用聞食臭時，如寒無寒，如熱無熱，口苦，小便赤，諸藥不能治，得藥則劇吐利，如有神靈者，形神如和，其脈微數。

【百合知母湯】

百合七枚、知母三兩。

右先以水洗百合，漬一宿，當白沫出，去其水，更以泉水二升，煎取一升，去滓。別以泉水二升，煎知母取一升，去滓後，合和煎取一升五合，分溫再服。

【滑石代赭湯】

百合七枚、滑石三兩（碎綿裹）、代赭石如彈丸大一枚（碎，綿裹）。

右先以水洗百合漬一宿，當白沫出，去其水。更以泉水二升，煎取一升，去滓。別以泉水二升，煎滑石、代赭，取一升，去滓。後合和重煎，取一升五合，分溫再服。

【百合雞子湯】

百合七枚、雞子黃一枚。

右先以水洗百合，漬一宿，當白沬出，去其水，更以泉水二升，煎取一升，去滓，內雞子黃，攪勻，煎五分，溫服。

【百合地黃湯】

百合七枚，生地汁一升。

右以水洗百合，漬一宿，當白沫出，去其水，更以泉水二升，煎取一升，去滓，內生地汁，煎取一升五合，分溫再服，中病勿更服，大便當如漆。

通章言百合病百脈一宗，不但主於營衛而手足六經悉能致其病，汗吐下皆非所宜。

本文云「百脈一宗」，明言病歸於肺，君以百合，甘涼清肺，即可療此疾，故名「百合病」。再佐以各經清解絡熱之藥，治其病所從來，當用先後煎法，使不悖於手足經各行之理，期以六十日，六經氣復而自愈。若太陰、太陽無病，惟少陰、少陽、厥陰、陽明四經為病，期以四十日愈，若僅屬厥陰、陽明二經為病，期以二十日愈。讀第四章未經汗吐下者，治以百合地黃湯，中病勿更服，大便如漆，熱邪已洩，再服恐變症也。論症以溺時頭痛為辨，蓋百脈之所重在少陰、太陽，以太陽統六經之氣，其經上循巔頂，下通水道，氣化不行，乃下溺而上頭痛。少陰為生水之源，開闔澀乃溺而浙然。

若誤汗傷太陽者，溺時頭痛，以知母救肺之陰，使膀胱水藏知有母氣救肺，即所以救膀胱，是陽病救陰之法也。

誤下傷少陰者，溺時浙然，以滑石上通肺，下通太陽之陽，恐滑石通腑利竅，仍蹈出汗之弊，乃復代赭石，重鎮心經之氣，使無汗泄之虞，救膀胱之陽，即所以救肺之陽，是陰病救陽之法也。

誤吐傷陽明者，以雞子黃救厥陰之陰，以安胃氣，救厥陰即所以奠陽明，救肺之母氣，是亦陽病救陰之法也。

以百合一味引伸諸方，總不外乎補陰補陽之理，舉此可以類推。

〈卷二〉

遺精

夢而遺者，謂之遺精；不夢而遺者，謂之精滑。大抵有夢者，由於相火之強；不夢者，由於心腎之虛。正以心為君火，腎為相火，心有所動，腎必應之，故君火搖於上，相火熾於下，則水不能藏而精隨以泄。斯時也，精竭則陰虛，陰虛則無氣，以致為勞為損，可無畏乎！

【還少丹】

治脾腎虛寒，飲食少思，發熱，盜汗，遺精，白濁，氣血虧損等證。

熟地、枸杞子、肉蓯蓉、遠志、小茴、巴戟天、萸肉、山藥、石菖蒲、楮實子、牛膝、杜仲、茯苓、當歸身、大棗。

腎為先天根本，脾為後天根本，二本固則老可還少。熟地、枸杞、蓯蓉，味之厚者也，「精不足者，補之以味」是已。茴香、杜仲、巴戟，性之溫者也，「陽不足者，益之以溫」是已。遠志、菖蒲，辛以潤之也。萸肉、五味，酸入東方，腎肝同治也。杜仲、牛膝，直至少陰。山藥、茯苓，兼通脾土，此本腎藥，腎足則少火薰蒸脾胃，脾胃賴母以健運矣。命曰「還少」，不亦宜乎！

【柏子養心丸】

治心勞太過，神不守舍，合眼則夢，遺洩不常。

柏子仁、茯神、棗仁（炒）、生地、當歸、五味子、辰砂、犀角（鎊片）、炙甘草。

心勞則陽動，坎水不能上承，所謂「亢則害」也。以生地、犀角，涼心血。以當歸、棗仁，補心陽。以柏子、茯神，養心神。五味，斂心氣。辰砂，瀉心熱。甘草，和營。

【家韭子丸】

治少長遺溺及男子虛劇，陽氣衰敗，小便白濁，夜夢遺精。

家韭子（炒）、鹿茸（酥炙）、肉蓯蓉、牛膝、熟地、石斛、菟絲子、當歸、巴戟天、杜仲、桂心、乾薑。

此足少陰、厥陰藥也。腎陽虛，則封蟄不固；肝陽虛，則神魂不斂。韭子，補肝腎，助命門。鹿茸，添精髓，煖腎陽。蓯蓉、巴戟，以溫腎。杜仲、菟絲，以溫肝。當歸，和血。牛膝，強筋。熟地，滋腎水。川斛，益腎精。桂心，疏通血脈。乾薑，宣通衛陽。如是則肝腎陽充，神安而遺濁自愈矣。

【金鎖思仙丹】

治男子嗜慾太過，精血不固，此濇以去脫之劑。

蓮蕊鬚、芡實、石蓮子、金櫻膏。

慾熾則精竅滑，芡實、金櫻乃水陸二仙丹，甘能益精，濇能止脫，合之蓮子，交通心腎，蓮鬚濇精，皆所以治滑脫也。

【秘精丸】

有相火必生濕熱，則水不清，不清則不固。本方以理脾導濕為先，濕袪水清而精自止矣。

白朮、山藥、茯苓、茯神、蓮子肉、芡實、蓮花鬚、牡蠣、黃柏、車前子。

白朮、山藥、茯苓、蓮子、芡實，以補脾。且蓮、芡，得天陽地陰浹洽之氣。牡蠣，清熱補水。蓮鬚，濇精秘氣。茯神，養心。黃柏，苦以燥濕。車前，甘以利水。濕熱清，水道利，自無遺泄之患矣。

【保元湯】

治氣虛血弱之總方也。

黃芪、人參、甘草。

柯韻伯曰「保元者，保守其元氣之謂也」，氣一而已，主腎為先天真元之氣，主胃為後天水穀之氣者，此指發生而言也。又水穀之精氣行於經隧為營氣，水穀之悍氣行於脈外為衛氣，大氣之積於胸中而司呼吸者為宗氣。是分後天運用之元氣而為三也。又外應皮毛協營衛而主一身之表者，為太陽膀胱之氣。內通五藏，司治節，而主一身之裏者，為太陰肺經之氣。通行內外，應腠理，而主一身之半表半裏者，為少陽三焦之氣。是分先天運行之元氣而為三也。此方用黃芪護表，人參固裏，甘草和中，三氣治而元氣足矣。

【潤燥濇精湯】（黃錦芳製）

治遺精不時，懸飢，畏聞人聲，煩躁，昏倦，溺時作痛。

熟地、白芍（炒）、菟絲子、龍骨、山藥、麥冬、玉竹、龜版膠。

熟地，以滋腎陰。山藥，以補脾陰。麥冬，以養肺陰。白芍，以斂肝陰。菟絲，溫陰中之陽。玉竹，潤氣分之爍。龍骨性濇，以固精竅。龜膠質厚，以遏陰火。

【固陰煎】

治陰虛滑泄，帶濁，遺淋。

熟地、人參、山藥、萸肉、遠志、菟絲子、五味子、炙甘草。

人參、熟地，兩補氣血。山萸，濇精固氣。山藥，理脾固腎。遠志，交通心腎。炙甘草，補衛和陰。菟絲，強陰益精。五味，酸斂腎氣。陰虛精脫者，補以固陰也。

便血

血在便前者，其來近，或在廣腸，在肛門。血在便後者，其來遠，或在大腸，在胃。大抵有火者，多因血熱，迫血妄行；無火者，多因虛滑，或脾胃陽虛，或氣陷血亦陷。蓋脾統血，脾氣虛則不能收攝。脾化血，脾氣虛則不能運化也。

【黃土湯】

治先便後血。

甘草、白朮、附子、乾地黃、阿膠、黃芩、竈中黃土。

【赤小豆當歸散】

治先血後便。

赤小豆浸出芽、當歸。

《金匱》云「下血，先血後便，此近血也」，明指脾絡受傷，日滲腸間，瘀積於下，故大便未行而血先下，主之以赤小豆，利水散瘀。當歸，和脾止血。若先便後血，此遠血也，明指肝經別絡之血，因脾虛陽陷生濕，血亦就濕而下行，主之以竈心土，溫燥而去寒濕。佐以生地、阿膠、黃芩入肝，以治血熱。白朮、附子、甘草，扶陽補脾，以治本虛。近血內瘀，專力清利；遠血因虛，故兼溫補。治出天淵，須明辨之。

【地榆湯】

治結陰者，下瘀血。

地榆、甘草（半生半炙）、砂仁（炒）。

陰氣自結，不和於陽也。結則下瘀血，若瘀血去盡，而再結再下，三結三下，斷續不絕，亦危症也。治以地榆，身能止血，稍能行血。甘草生用，能行肝胃二經污濁之血，炙之入陰而溫散血中之結。煎時另入砂仁，香而能竄，內醒臟氣，引領二味，止血開結，此結之微乎內者，從裏解也。

【葛花解酲湯】

治飲酒太過，痰逆嘔吐，心神煩亂，胸膈痞塞，手足顫搖，飲食減少，小便不利，腸紅。

人參、白朮、茯苓、砂仁、白豆蔻、葛花、青皮、陳皮、豬苓、澤瀉、神麴、木香。

葛花，獨入陽明，令濕熱從肌肉而解，白蔻、砂化，皆辛散解酒，故以為君。神麴，解酒而化食。木香，調氣而溫中。青皮、陳皮，除痰而疏滯。二苓、澤瀉，能驅濕熱從小便出，乃內外分消之劑。飲多則中氣傷，故又加參、朮，以補其氣也。

【壽脾煎】

治脾虛不能攝血，凡憂思鬱怒，積勞，及中氣虧陷，神魂不安，大便血脫，婦人無火崩淋。

人參、白朮（土炒）、山藥、棗仁（炒）、遠志、當歸、甘草（炙）、乾薑、蓮肉。

參、朮、甘草，所以補脾。遠志、棗仁，所以補心。當歸，養血。乾薑，舒脾。山藥、蓮肉，補脾行滯，助參、朮，有陽生陰長之理。

【地骨皮飲】

治陰虛火旺，骨蒸發熱，日靜夜劇，婦人熱入血室，胎前發熱者。

熟地、當歸、川芎、白芍、地骨皮、丹皮。

柯韻伯曰「陰虛者陽必湊之，故熱」，仲景曰「陰弱則發熱」，陽氣下陷入陰中，必發熱。然當分三陰而治之，陽邪陷入太陰脾部，當補中益氣以升舉之，清陽復位而火自熄也。若陷入少陰腎部，當六味地黃丸以對待之，壯水之主而火自平也。陷入厥陰肝部，當地骨皮飲以涼補之，血有所藏而火自安也。四物湯為肝家滋陰調血之劑，加地骨皮，清志中之火，以安腎，補其母也。加牡丹皮，清神中之火，以涼心，瀉其子也。二皮涼而不潤，但清肝火不傷脾胃，與四物加柏之濕潤而苦寒者不同矣。故逍遙散治肝火之鬱於本藏者也，木鬱達之，順其性也。地骨皮飲治陽邪之陷於肝臟也，客者除之，勿縱寇以遺患也。二方皆肝家得力之劑。

【聖濟大建中湯】

治寃熱腹痛而出白液，病名曰蠱。

人參、黃芪（炙）、當歸、白芍（炒）、甘草（炙）、遠志、龍骨、澤瀉，加生薑五片煎。

風邪從肺，乘勝至脾，脾風傳腎，燥土之氣腎之所惡，真精不守，即《左傳》以喪志為蠱也。當此之時，雖云可按可藥，然邪及四臟，亦死期將至矣。治以人參、黃芪、當歸、白芍、甘草，柔脾之陽，以化燥氣。佐以遠志，強志益腎。澤瀉滌熱，止洩。龍骨，固守真精。處方在脾，主治在腎，二臟並治，故名「大建中」。

【化肝煎】

治因怒，氣逆動火，致為煩熱，脇痛脹滿，動血等證。

青皮、陳皮、白芍（炒）、丹皮、澤瀉、山梔炒、貝母。

青、陳，疏肝去脹。梔、芍，平肝瀉火。丹皮，除煩。土貝之用，袪痰止痛，療鬱結也。

溺血

溺孔之血，其來近者，出自膀胱，治宜清利膀胱之火。其來遠者，出自小腸，宜清臟腑致火之原。至於精道之血，必自精宮、血海而出於命門。何以辨之？病在小腸者，必從溺出；病在命門者，必從精出。治法不同。水道之血宜利；精道之血不宜利。濇痛不通者，亦宜利；血滑不痛者，不宜利也。

【五淋散】

治膀胱有火，水道不通，淋澀不出，或尿如豆汁，或成砂石，或如膏汁，或熱怫便血。

赤苓、赤芍、梔子、當歸、甘草，加燈心煎。

壯火食氣，則化源無藉，乃癃閉、淋澀、膏淋，豆汁、砂石、膿血而水道為之不利矣。總由化源之不清，非關決瀆之失職。故急用梔、苓，治心肺，以通上焦之氣，而五志火清。歸、芍，滋肝腎，以安下焦之氣，而五臟陰復。甘草，調中焦之氣，而陰陽分清，則太陽之氣自化而膀胱水潔矣。

【七正散】

治心經蘊熱，小便赤濇，淋閉不通，及血淋等證。

車前子、木通、滑石、山梔、瞿麥、扁蓄、甘草，加燈心引。

通可以去滯，瀉可以去秘，滑可以去著。故用木通、瞿麥、扁蓄，通其滯。用山梔，瀉其秘。用車前、滑石，滑其著。用甘草梢，取其堅實能瀉熱於下。

【阿膠散】

心主血，心氣熱則遺熱於膀胱，陰血妄行而溺出焉。

阿膠、丹參、生地、山梔、血餘、丹皮、麥冬、當歸。

阿膠甘平，滋腎補陰，止血去瘀，故以為君。生地，瀉心之火。丹皮，瀉血中伏火。山梔，色赤入心，瀉心肝之邪熱由小便出。丹參、麥冬，清心熱。當歸，和血。血餘，止血。治其標也。

【人參固本丸】

治脾虛煩熱，金水不足，及肺氣燥熱作渴作嗽，或小便短少赤色，濇滯如淋，大便燥結，此陰虛有火之聖藥也。

人參、天冬、麥冬、生地、熟地。

肺主氣，而氣根於丹田；肺畏火，而制火必本於腎水，故肺腎為子母之臟。用人參，大補元氣。二冬，清肺熱。二地，益腎水。劑之為丸，用之於下，所謂「壯水之主，以制陽光」是也。非固本而何？

【清肺飲】（黃錦芳製）

治肺熱移於小腸，溺血，飲食如故。

黃芩、生地、阿膠、甘草梢。

黃芩，以清肺熱。阿膠，以潤肺燥。生地，以瀉心火。甘草梢，以通小腸。直入血分，不雜氣藥。

【導赤散】

治心火並溺血等證。

生地、竹茹、木通、甘草。

生地、竹茹，可以涼心。佐以木通、甘草，則直入小腸、膀胱矣。曰「導赤」者，導丙丁之火由溺而出也。

【茅根散】

治驚氣動心，溲赤如血。

人參、茯神、生地、茅根、車前子、髮灰。

人參、茯神，定心，治病之本。生地，瀉心之火。茅根、車前，瀉小腸之火。髮灰，止血，治其標也。

【白茯苓散】

治遺溺。

茯苓、龍骨、乾薑、製附子、肉桂、熟地、續斷、甘草（炙）、桑螵蛸。

小便不禁者，膀胱虛寒也。補之以桂、附、乾薑、熟地、甘草。收之以龍骨、螵蛸。引之以續斷、茯苓。壯水之主而氣化流行也。

【琥珀散】

治氣淋、血淋、膏淋、砂淋等證。

琥珀、木通、當歸、木香、鬱金、扁蓄、滑石。

滑可以去著，故用滑石、琥珀。通可以去滯，故用木通、扁蓄。用當歸者，取其活血。用木香、鬱金者，取其利氣也。

【桑螵蛸散】

治陽氣虛弱，小便不禁。

桑螵蛸（炒）、鹿茸（酥炙）、黃芪（炙）、牡蠣（煅）、人參、赤石脂。

人參、黃芪，大補元氣。氣虛則小便數，以牡蠣、螵蛸固之。石脂，濇以止脫。鹿茸，溫煖腎陽。

【苓朮菟絲丸】

治脾腎虛損，不能收攝，以致夢遺、精滑、困倦等證。

茯苓、菟絲子、白朮、蓮肉、山藥、甘草（炙）、五味子、杜仲。

苓、朮、蓮肉、山藥，以補脾。杜仲、菟絲，以固腎。五味，收攝腎氣。炙甘草，和中益陽。

暑證

靜而得之者，為陰暑；動而得之者，為陽暑。陰暑宜溫補；陽暑宜清熱。喜食瓜果者，脾胃寒而吐利作；勞苦烈日者，真陰傷而渴汗生。蓋暑熱傷氣，益氣而暑自消；暑熱傷陰，益陰而暑自退。值此陽氣外泄之時，其氣必虛耳。

【五物香薷飲】

治一切暑毒，腹痛，霍亂吐瀉，或頭痛昏憒等證。

香薷、茯苓、扁豆（炒）、厚朴（薑汁炒）、甘草（炙）。

香薷，辛溫香散，能入脾肺氣分，發越陽氣，以散皮膚之蒸熱。厚朴辛溫，除濕散滿，以解心腹之凝結。茯苓、扁豆甘淡，能消脾胃之暑濕，降濁而升清。甘草，和中健脾。香薷，乃夏月解表之藥，如冬月之麻黃，氣虛者，尤不可服。

【益元散】

治中暑，表裏俱熱，煩躁，口渴，小便不通，瀉痢，熱瘧，霍亂，吐瀉。

滑石飛六兩、生甘草一兩、辰砂飛淨三錢。

滑石，氣輕能解肌，質重能清降，寒能瀉熱，滑能通竅，淡能行水，使肺氣降而下通膀胱，故能祛暑住瀉，止煩渴而利小便也。加甘草者，補其中氣，又以緩滑石之寒滑也。加辰砂者，以鎮心神而瀉丙丁之邪熱也。其數六一者，取天一生水地六成之義也。

【藿香正氣散】

治外感風寒，內停飲食，頭疼，寒熱，或霍亂吐瀉，痞滿，嘔逆，及四時不正之氣等證。

藿香、砂仁、厚朴、茯苓、紫蘇、陳皮、白芷、半夏、桔梗、甘草（炙），加薑、棗煎。

吳鶴皋曰「四時不正之氣，由鼻而入，不在表而在裏，故不用大汗以解表，但用藿香，芬芳利氣之品主之。蘇、芷、陳、砂、桔、朴，皆氣勝者也，故足正不正之氣。苓、夏、甘草，則甘平之品，所以培養中氣者矣。若病在太陽，與此湯全無相干。傷寒脈沉發熱與元氣本虛之人並夾陰發熱者宜戒，又金不換正氣散即平胃散加半夏、藿香，凡受山嵐瘴氣及出遠方不服水土，吐瀉下利者主之。蓋平胃散可以平濕土而消瘴。半夏之燥，以醒脾。藿香之芬，以開胃。名曰『正氣』」，謂能正不正之氣耳」。

【人參飲子】

治暑月衄血。

人參、黃芪、麥冬、當歸、白芍（炒）、五味子、炙甘草。

︽內經︾云「必先歲氣，無伐天和」，故時當暑月，則肺金受剋，令人乏氣之時也。理宜清金益氣，清金故用麥冬、五味，益氣故用參、芪、甘草。白芍之酸，所以收其陰。當歸之辛，所以養其血。此亦虛火可補之劑也。

【漿水散】

治夏月暴瀉，亡陽，汗多，腹冷，氣少脈微。

桂枝、乾薑、熟附子、半夏、良薑、炙甘草，土漿二盞，煎。

土漿水，功專去暑濕解渴熱，故以名方。君以桂枝、乾薑、附子，迎三焦之陽，內返中焦。臣以炙甘草、土漿水，奠安陰氣，俾微陽有所歸附。仍佐以半夏通經，良薑通絡，為之交通上下，旋轉陰陽，庶陽氣有運行不息之機，而使元神可復。

【白虎湯】

治表有熱，裏有邪，宜用此以解內外之熱，及一切中暑煩熱，熱結，斑黃，狂躁，大渴等證。

石膏（杵碎綿裹）、知母、甘草（炙）、粳米。

白虎湯治陽明經表裏俱熱，與調胃承氣湯為對峙。調胃承氣導陽明腑中熱邪，白虎泄陽明經中熱邪。石膏，泄陽。知母，滋陰。梗米，緩陽明之陽。甘草，緩陽明之陰。因石膏性重，知母性滑，恐其疾趨於下，另設煎法，以米熟湯成，俾辛寒重滑之性，得粳米、甘草，載之於上，逗遛陽明，成清化之功。名曰「白虎湯」，虎為金獸，以明石膏、知母之辛寒，肅清肺金，則陽明之熱自解，實則瀉子之理也。

【清暑益氣湯】

長夏濕熱蒸人，四肢因倦，精神減少，身熱氣高，煩心，便黃，渴而自汗，脈虛者主之。

人參、黃芪（炙）、甘草（炙）、白朮（土炒）、蒼朮、神麴（炒）、青皮、升麻、乾葛、麥冬、五味子、當歸、黃柏、澤瀉、陳皮。

清暑益氣湯，東垣治脾胃虛衰所生受病之方也。夏月襲涼飲冷，內傷脾胃，抑遏真陽而外傷暑濕，上焦心肺先受之，亟宜益氣，不令汗泄以亡津液。人參、黃芪、炙草之甘，補元氣，退虛熱。麥冬之寒，滋水源，清肺熱。五味之酸，瀉肝火，收肺氣。白朮、澤瀉，上下分消其濕熱。廣皮、青皮，理脾氣而遠肝邪。升麻、葛根、蒼朮，助辛甘之味，引清氣以行陽道，俾清氣出於脾，右遷上行，以和陰陽。濕勝則食不消，用炒神麴，以消痞滿。熱勝則水涸，用黃柏，補水虛，以滋化源。

吳鶴皋曰「暑令行於夏至，長夏則兼濕令矣。此方兼而治之。酷暑則表氣易泄，兼濕則中氣不固，黃芪所以實表，白朮、神麴、甘草所以調中。大暑橫流，肺金受病，人參、五味、麥冬所以補肺、斂肺、清肺，經所謂「扶其所不勝也」。火盛則水衰，故以黃柏、澤瀉，滋其化源。津液亡則口渴，故以當歸、乾葛，生其胃液。清氣不升，升麻可升。濁氣不降，二皮可理。蒼朮之用，為兼長夏濕也」。

程郊情曰「人知清暑，我兼益氣，以暑傷氣也。益氣不獨金能敵火，凡氣之上騰而為津為液者，回下即腎中之水。水氣足，火淫自卻也」。

【十味香薷飲】

治伏暑，身體倦怠，神昏，頭重，吐瀉。

香薷、人參、黃芪（炙）、白朮（土炒）、茯苓、陳皮、厚朴（薑汁炒）、扁豆（炒）、木瓜、甘草（炙）。

即五物香薷飲，加參、芪者，所以補肺益氣，加白朮、陳皮者，所以助脾調中。木瓜酸溫，利濕收脫，能於土中瀉木，平肝而和脾。此外感而兼內傷之症，故用香薷清暑解表，而以諸藥專調中宮也。然勞倦內傷必用清暑益氣，內熱大渴必用人參白虎，若用香薷，是重虛其表而反濟以內熱矣。

【理陰煎】

治真陰虛弱，脹滿，嘔噦，痰飲，惡心，吐瀉，腹痛及婦人經遲血滯等證。

當歸、熟地、甘草炙、肉桂、乾薑。

歸、地，填少陰之精，為補營血之品。乾薑，固陽以配陰。炙甘草，和中以煖陰。加肉桂，大能陰中補陽，有雲騰化雨之妙也。

【大順散】

治避暑廣廈，食生冷，襲涼風，抑遏陽氣，而為吐瀉者。

甘草三兩，乾薑、杏仁（去皮尖）、肉桂各四兩。每服二三錢。

祖仲景大青龍湯以肉桂易桂枝而變為裏法，病由暑濕傷脾，故先將甘草同白砂炒微黃，白砂即河砂，次入生乾薑同炒，令薑裂，辛甘化陽以快脾欲，再入杏仁同炒，令杏仁不作聲為度，去白砂利肺氣，以安吐逆。白砂，本草主治絞腸痧，痛用之拌炒以燥脾濕。復以肉桂，合為散，俾芳香入陰，升發陽氣，以交中焦，去脾之濕，濕去而陽氣得升，三焦之氣皆順矣。

【抑扶煎】

治氣冷陰寒，暴傷生冷，致成瀉痢脹痛嘔惡等證。

豬苓、澤瀉、陳皮、厚朴、烏藥、吳茱萸、黑薑、甘草（炙）。

陳、朴，燥脾去濕。豬、澤，分消水邪。烏藥、甘草，和中快胃。黑薑、吳茱萸，暖中溫寒。

【輔陽飲】（黃錦芳製）

治外冒陰暑，內滯不消，口渴喜熱而不喜冷，大汗如雨，止在上半一身。

茯苓、半夏、杏仁、熟附子、生薑、砂仁。

茯苓、半夏，通陽。杏仁，能利肺氣。砂仁，可和中焦。附子，挽回失散之元陽，并可收斂營液。生薑，辛以宣其陰凝。此元氣不振，邪乘其腠理不密而襲之也。

【白虎加人參湯】

治赤斑，口渴，煩渴，暑熱脈虛。

石膏、知母、甘草（炙）、粳米、人參。米熟，湯成，煎。

陽明熱病化燥，用白虎加人參者何也？石膏辛寒，僅能散表熱，知母甘苦，僅能降裏熱，甘草、粳米，僅能載藥留於中焦，若胃經熱久傷氣，氣虛不能生津者，必須人參，養正回津，而後白虎湯乃能清化除燥。

濕證

雨露水土，外因之濕也。酒酪瓜果，內因之濕也。濕熱可清可利，寒濕宜燥宜溫。且內濕有屬陰虛者，須用壯水補陰；有屬陽虛者，須用益火補陽。

【栝蔞根桂枝湯】

治太陽痙濕病。

栝蔞根、桂枝、芍藥、甘草、生薑、大棗。

風濕混擾於太陽，陽氣為濕邪所滯，不得宣通，非寒邪之沉遲脈也，治以栝蔞根桂枝湯者。風則用桂枝湯成法，濕則君以栝蔞根，酸苦入陰，內走經絡，解天行時熱以降濕。合之桂枝，和營衛而治痙，是表法變為和法也。

【防己茯苓湯】

通治風濕、皮水二證。

防己、黃芪、桂枝、茯苓、甘草。

漢防己，太傷入裏之藥，泄腠理，療風水。《金匱》汗出惡風者，佐白朮。水氣在皮膚聶聶動者，佐桂枝。一以培土，一以和陽。同治表邪，微分標本，蓋水濕之陽虛，因濕滯於裏而汗出，故以白朮培土，加薑、棗和中。胃不和，再加芍藥。皮水之陽虛，因風水襲於表，內合於肺，故用桂枝，解肌散邪，兼固陽氣。不須薑、棗以和中也。太陽腰髀痛，添用兩方，如鼓應桴。

【四苓散】

治脈浮，小便不利，熱微，消渴者。發汗已，脈浮數，煩渴者。中風發熱，六七日、不解而煩，有表裏證，渴欲飲水，水入即吐者。

澤瀉、豬苓、茯苓、白朮（土炒），加肉桂即五苓散。

苓，臣藥也。二苓相輔，則五者之中可為君藥矣，故曰「五苓」。豬苓、澤瀉相須，藉澤瀉之鹹以潤下。茯苓、白朮相須，藉白朮之燥以升精，脾精升則濕熱散而小便利，即東垣「欲降先升」之理也。然欲小便利者，又難越膀胱一腑，故以肉桂，熱因熱用，內通陽道，使太陽裏水引而竭之，當知是湯，耑治留著之水滲於肌肉而為腫滿，若水腫與足太陰無涉者，又非對症之方。

程郊倩曰「標邪傳入膀胱，是謂犯本，其人必消，必小便不利，宜可消水矣。乃一症以水入則拒而吐，一症以水入則消。何居？膀胱為津液之府，熱入而蓄邪水，致小便不利也。是則水氣挾熱而上升，必至格水，此渴欲飲水，水入即吐也。用五苓者，取其開結利水也。水泉不致留結，邪熱從小便出矣。若熱微消渴，是則熱入膀胱而燥其津液，乃成消渴，此膀胱無邪水之蓄，亦用五苓者，以化氣回津也。使膀胱之氣騰化，故渴亦止而病愈，然症必以脈浮數煩渴為脈表症，裏知非陽明之裏而仍為太陽之裏，故以五苓主之也」。

趙羽皇曰「人身之水有二，一為真水，一為客水。真水者，即天一之所生；客水者，即食飲之所溢。故真水惟欲其升，客水惟欲其降。若真水不升，則水火不交而為消渴；客水不降，則水土相混而為腫滿。五苓散一方為行膀胱之水而設，亦為逐內外水飲之首劑也。蓋水液雖注於下焦，而三焦俱有所統，故肺金之治節有權，脾土之轉輸不怠，腎關之開闔得宜，則溲溺方能按時而出。若肺氣不行，則高源化絕；中州不運，則陰水泛流；坎藏無陽，則層冰內結。水終不能自行，不明其本而但理其標可乎！方用白朮以培土，土旺而陰水有制也。茯苓以益金，金清而通調水道也。桂味辛熱，且達下焦，味辛則能化氣，性熱專主流通，州都溫煖，寒水自行。再以澤瀉、豬苓之淡滲佐之，禹功可奏矣」。

羅東逸曰「傷寒之用五苓，允為太陽寒邪犯本，熱在膀胱，故以五苓利水瀉熱。然用桂枝者，所以宣邪而仍治太陽也。雜症之用五苓者，特以膀胱之虛，寒水為壅，茲必肉桂之厚以君之，而虛寒之氣始得運行。宣泄二症之用稍異，不可不辨」。

五苓與真武對看，五苓行客水之有餘，真武護真水之不足，皆所以行水也。不可不知。

【大分清飲】

治積熱閉結，小水不利，濕熱疸黃，蓄血淋濁等證。

梔子（炒）、豬苓、茯苓、澤瀉、木通、枳殼、車前子。

二苓，滲濕。車前、澤瀉，通閉。木通，利水通淋。黑梔，消除疸濕。枳殼，破結逐瘀。水道大分利之。

【小分清飲】

治小便不利，濕熱腫脹，不能受補者。

茯苓、澤瀉、苡仁、豬苓、枳殼、厚朴。

二苓、枳、澤，利濕滲水。厚朴、苡仁，燥濕而消水腫。小分利之。

【茱萸六一散】

治濕熱吞酸之證。

滑石、甘草、吳茱萸。

滑石，寒而淡，寒能勝熱，淡能導利，故以之勝濕熱。吳茱萸，味辛性熱，能反佐以從事。甘草，性溫氣平，能和中而瀉火。

【理中湯】

治中氣不運，腹中不實，口失滋味，病久不食，臟腑不調，與傷寒直中太陰，自利不渴，寒多而嘔等證。

人參、白朮（土炒）、炮薑、甘草（炙）。

加熟附子，即名附子理中湯。

理中者，理中焦之氣，以交於陰陽也。上焦屬陽，下焦屬陰，而中焦則為陰陽相偶之處。仲景立論，中焦熱則主五苓以治太陽，中焦寒則主理中以治太陰。治陽用散，治陰用丸，皆不及於湯，恐湯性易輸易化，無留戀之能，少致和之功耳。人參、甘草，甘以和陰也。白朮、乾薑，辛以和陽也。辛甘相輔以處中，陰陽自然和順矣。

程郊倩曰「陽之動始於溫，溫氣得而穀精運，穀氣升而中氣贍，故名曰『理中』，實以燮理之功與中焦之陽也。若胃陽虛，即中氣失宰，膻中無發宣之用，六腑無灑陳之功，猶如釜薪失焰，故下至清穀，上失滋味，五臟凌奪，諸症所由來也。參、朮、炙草，所以固中州。乾薑，辛以守中，必假之以焰釜薪而騰陽氣，是以穀入於陰，長氣於陽，上輸華蓋，下攝州都，五臟六腑皆以受氣矣。此理中之旨也。若水寒互勝，即當脾腎雙溫。附子之加而命門益，土母溫矣」。

【佐關煎】

治生冷傷脾，瀉痢未久，腎氣未損，宜此以去寒濕，安脾胃。

肉桂、陳皮、甘草（炙）、厚朴、扁豆（炒）、豬苓、山藥（炒）、澤瀉、乾薑。

山藥、扁豆，健脾。陳、朴，快胃。豬苓、澤瀉，滲濕止瀉。肉桂、乾薑，溫理中寒。炙甘草，煖中調和胃氣也。

【聖朮煎】

治飲食偶傷，吐瀉，胸膈痞悶，脇肋疼痛，過用剋伐等證。

白朮（土炒）、乾薑、肉桂、陳皮。

白朮，健脾。乾薑，溫胃。肉桂，驅寒。陳皮，快氣。健脾而食自消，和胃而瀉自止。

【萎甤湯】

治濕溫傷人，久久不已，發熱身痛等證。

萎蕤一兩、茯苓三錢。

萎蕤甘平，不寒不燥，可代人參，但性緩耳。去風熱濕溫，退蒸解熱，佐以茯苓，發熱身痛俱得痊矣。久病最宜。

【河間桂苓甘露飲】

消暑，去濕，解熱。

茯苓、豬苓、澤瀉、甘草、白朮、肉桂、滑石、石膏、凝水石，生薑湯調下。

五苓，去濕。三石，解熱。濕熱既去，一若新秋甘露，降而暑氣潛消矣。夫濕為陰邪，全賴太陽氣化，以利小便，莫若五苓散為當。若熱在濕下者，則為粘著之邪，又當寒燥以勝之，莫妙於三石之功捷速。滑石，性雖重而味淡，故能上利毛腠之竅，以清水濕之源。石膏，辛寒入胃，辛能發汗，寒以勝熱，故能泄中焦之熱，出走膀胱。凝水石，辛鹹入腎，為鹽之精，故能涼血滌熱從小便而出。

泄瀉

濕多成五瀉，瀉之屬濕也明矣。然有濕熱，有寒濕，有食積，有脾虛，有腎虛，皆能致瀉，宜分而治之。凡治瀉須利小便，然有食積未消者，正不宜利小便，必俟食積既消，然後利之。是以瀉多亡陰，亡其陰中之陽耳。

【香砂六君子湯】

治氣虛腫滿，痰飲結聚，脾胃不和，變生諸證者。

人參、白朮（土炒）、茯苓、甘草（炙）、陳皮、半夏（炒）、砂仁、木香。

柯韻伯曰「經曰『壯者氣行則愈，怯者著而為病』，蓋人在氣交之中，因氣而生，而生氣總以胃氣為本。食入於陰，長氣於陽，晝夜循環，周於內外，一息不運，便有積聚，或脹滿不食，或生痰留飲，因而肌肉消瘦，喘咳嘔噦諸症蜂起，而神機化絕矣。四君子，氣分之總方也。人參，致沖和之氣。白朮，培中宮。茯苓，清治節。甘草，調五臟。諸氣既治，病安從來，然撥亂反正，又不能無為而治，必舉夫行氣之品以輔之，則補品不至泥而不行，故加陳皮，以利肺金之逆氣。半夏，以疏脾土之濕氣而痰飲可除也。加木香，以行三焦之滯氣。縮砂，以通脾腎之元氣，膹鬱可開也。四君得四輔而補力倍宣，四輔有四君而元氣大振，相須而益彰者乎」！

【益黃散】

治脾胃不足，火不生土。

人參、黃芪（炙）、陳皮、黃連、白芍（炒）、甘草（炙生各半）。

土色黃，脾胃應之，不直補土而從土中瀉火，清金制木，以遠客邪，故曰「益黃」。此東垣治脾為不足，火不生土而反抗拒，是至而不至者為病之方也。經言「熱淫於內，以甘瀉之」，人參、黃芪、炙甘草，瀉虛熱，以補土之原也。經言「熱淫於內，以酸收之」，芍藥酸寒，能瀉肝而收肺陰。黃連、生甘草，入心而瀉脾熱。金旺火衰而肝風自熄，脾胃受益矣。以之治小兒慢脾風，真神品也。

【錢氏白朮散】

治脾虛泄瀉。

人參、白朮（土炒）、茯苓、甘草（炙）、木香、乾葛、藿香葉。

虛者補之，故用四君子湯為君。虛而不醒，用藿香、木香以運之。虛而下陷，用葛根以升之。

【溫脾湯】

主治錮冷在腸胃間，泄瀉腹痛，宜先取去，然後調治，不可畏虛，以養病也。

乾薑、肉桂、熟附子、枳實、厚朴、大黃、炙甘草。

倣仲景溫下之法，以下腸胃之冷積。夫脾既寒矣，腸既瀉矣，而又下之者，以錮冷之積滯，久留腸胃而不去，徒用溫補無益於病也。故必以通因通用之法，先去其滯而後調補，勿畏虛以養血，如仲景云「太陰病，脈弱不利，設當行大黃、芍藥者，宜減之，以其人胃氣易動，故也」，今叔微用乾薑、肉桂、附子為君，復以大承氣。大黃止用四錢，謂非得仲景之遺意哉！

【大和中飲】

治飲食留滯，積聚。

厚朴、陳皮、砂仁、枳實、麥芽、山查、澤瀉。

陳皮、厚朴，消積袪痰。厚朴、砂仁，散滿行氣。山查、麥芽，消油膩而去痰積。澤瀉，滲水邪而分清濁。

【小和中飲】

治胸膈脹悶，胎氣滯滿。

厚朴、陳皮、山查、茯苓、扁豆（炒）、甘草（炙）、生薑。

陳皮、厚朴、山查，寬胸利氣。甘草、茯苓、扁豆，健脾養胃。薑，能快胃。小和中氣耳。

【加味七神丸】

治腎泄如神。

肉荳蔻（麵裹煨）、吳茱萸、廣木香、補骨脂、白朮（土炒）、茯苓、車前子。

此足少陰太陰藥也。補骨脂，辛苦大溫，能補相火，以通君火，火旺乃能生土，故以為君。肉荳蔻辛溫，能行氣消食，煖胃固腸。吳茱萸辛熱，除濕燥脾，能入少陰、厥陰氣分而補火。白朮、茯苓苦甘，補土所以防水。木香辛苦，功專調氣散滯。車前子味甘，滲濕治瀉。蓋久瀉皆由腎命門火衰，不能專責脾胃，故大補下焦元陽，使火旺土強，則能制水而不復妄行矣。

【調中散】

治一陽發病，少陰嗽洩，三焦不利，上咳下瀉，其動若掣。

桂枝、乾薑、五味子、白朮（土炒）、人參、當歸、赤茯苓、炙甘草。

仲景云「太陽膀胱嗽不止者，當加五味子、乾薑」，王宇泰云「三焦嗽者，用異功散」，劉守真因之，主調中散，以桂枝、乾薑、五味，開太陽，以參、朮、炙草，闔陽明，而獨倍加桂枝，佐以當歸、赤苓、炙草，是不獨治三焦，意專重於榮養心陽，以安動掣，則咳瀉自止。

【參苓白朮散】

治脾胃虛弱，飲食不進，嘔吐泄瀉，或久瀉，或大病後調助脾胃。

人參、白朮（土炒）、茯苓、甘草（炙）、山藥（炒）、扁豆（炒）、苡仁（炒）、蓮肉（炒）、陳皮、砂仁、桔梗。

治脾胃者，補其虛，除其濕，行其滯，調其氣而已。人參、白朮、茯苓、甘草、扁豆、蓮肉，皆補脾之藥也。然茯苓、山藥、苡仁，理脾而兼能滲濕。砂仁、陳皮，調氣行滯之品也，茲合參、朮、苓、草，煖胃而又能補中。桔梗，能載諸藥上浮，又能通天氣於地，使氣得升降而益和，且以保肺，防燥藥之上僭也。

【八珍糕】

健脾養胃。

人參、山藥、茯苓、苡仁、扁豆、芡實、蓮肉、炙甘草，磨末作糕，少和白糖。

【赤石脂禹餘糧湯】

主治久利不止，大腸虛脫，服理中而利益甚者。

仲景治下焦利重用固濇者，是殆以陽明不闔，太陽獨開，下焦關閘盡撤耳。若以理中與之，從甲己化土，復用開法，非理也。當用石脂，酸溫斂氣，餘糧，固濇勝濕，取其性皆重墜，直走下焦，從戊己化土，闔法治之。故開太陽以利小便亦非治法，惟從手陽明攔截穀道，修其關閘，斯為直捷痛快之治。

【桃花湯】

治少陰腹痛，小便不利，下利不止，便膿血者。

赤石脂、乾薑、粳米。

桃花湯，非名其色也，腎臟陽虛用之，一若寒谷有陽和之致，故名。石脂，入手陽明經。乾薑、粳米，入足陽明經，不及於少陰者。少陰下利便血，是感君火熱化太過，閉藏失職，關閘盡撤，緩則亡陰矣。故取石脂一半，同乾薑、粳米留戀中宮，載住陽明經氣，不使其陷下。再內石脂末方才匕，留藥以沾大腸，截其道路，庶利血無源而自止，其腎臟亦安矣。

痢疾

積熱在中，或為外感風寒所閉，或為飲食生冷所遏，以致火氣不得舒伸，逼迫於下，裏急而後重也。所以行血則便膿自愈，調氣則後重自除。若日久脾虛者，清而補之；氣虛下陷者，升而提之。若邪熱塞於胃脘，嘔逆不食者啟之；若久痢變為虛寒，四肢厥冷，腎必受傷，不為溫煖元陽，誤事者眾矣。

【升麻葛根湯】

治陽明表熱下利，兼治痘疹初發。

升麻、葛根、芍藥、甘草（炙）。

柯韻伯曰「此為陽明初病，解表和裏之劑，可用以散表熱，亦可用以治裏虛，一方而兩擅其長也。《內經》所謂『暴注下迫，皆屬於熱也』，下利正是胃實之兆，故太陽陽明合病必自下利，仲景製葛根湯以表散之，是從陰引陽法，此方即倣其義，去薑、桂之辛熱，以升麻代麻黃，便是陽明表劑而非太陽表劑矣。葛根，稟性甘涼，可以散表實，協升麻以上升，則使清陽達上而濁陰降下可知。芍藥，收斂陰精。甘草，緩急和裏，則下利自止可知。治裏仍用表藥者，以表實下利而非裏實故也。痘疹自裏達表，出於少陰而發於太陽，初起則內外皆熱，故亦宜於涼散耳」。

【白朮湯】

治飧泄食不化而出清穀，用溫固升清之法。

白朮（土炒）、厚朴（薑汁炒）、當歸（去苗）、龍骨（煅）、艾葉（炒熟）。

經言「熱氣生清，清氣在下則生飧泄」，是清濁交錯矣。白朮，健脾消穀。厚朴，平胃散結，即《傷寒論》下焦利從胃主治之義。龍骨，止下利，固大腸之脫。艾葉，震亨謂其「入藥服則氣上行」，時珍曰「轉肅殺之氣為融和，能回垂絕之元陽」。當歸，病因熱而轉生清者，血分必傷，用以調血也。

【芍藥湯】

治滯下赤白、便膿血、後重諸證。

芍藥、當歸、黃連、檳榔、木香、甘草、肉桂、黃芩。

服痢不減加大黃。

羅東逸曰「本方註云『溲而便膿血，知氣行而血止也』。夫滯下本太陰病，長夏令行，土潤溽暑，太陰本虛，暑濕不攘，土濕則木鬱，木鬱則傷土。太陰失健運，少陽失疏達，及飲食失節不化，至秋金收令行，火用不宣，鬱蒸之久而滯下之症作矣。是始為暑傷氣，繼為氣傷血，因而為白，為赤，為兼赤白，下迫窘急，腐穢不去，以成後重。方以芍、草為君，用甲己化土法，先調脾，即於土中升木。顧濕熱必傷大腸，黃連，燥濕清熱厚腸胃。黃芩，清大腸火為臣。久積必中氣逆滯，疏滯以木香，下逆以檳榔。當歸，和氣血為佐。桂補命門，實土母，反佐溫而行之，恐芩、連之勝令也。斯少陽達，太陰運矣。若大實痛者，用仲景芍藥湯加大黃法，以蕩腐穢無留行矣。是方允為滯下本方也」。

【治痢散】（程鍾齡製）

專治痢疾初起，不論赤白皆效。

葛根、苦參（酒炒）、陳皮、赤芍（酒炒）、麥芽（炒）、山查（炒）、陳松蘿茶。

本方加川連尤效。

方用葛根為君，鼓舞胃氣上行也。陳茶、苦參為臣，清濕熱也。麥芽、山查為佐，消宿食也。赤芍、陳皮為使，所謂「行血則便膿自愈，調氣則後重自除」也。加黃連者，厚腸胃也。

【補胃湯】（黃錦芳製）

治除中，胃陽空虛，思食自救，凡病痢之後都有是症。

山藥（炒）、扁豆（炒）、甘草（炙）、飴糖。

胃陰空虛，仲景謂其胃虛本不能食，反能食者為除中，此即中氣將除之謂。若復進用苦寒，則胃已虛而成莫治之症。此方重用山藥、扁豆，能養胃陰，炙草、飴糖，能復脾陽，但用稼穡作甘之旨，如是則中氣建矣。

【溫六丸】

治白痢。

滑石、甘草、乾薑。

滑石、甘草，益元散也。白痢非寒，因熱傷氣分耳。滑石淡而寒，清六腑之熱。甘草平而甘，調五臟之氣。故可以益元氣。今加乾薑之辛溫，則胃氣調而臟腑各得其宜矣。有加紅麴五錢，名清六丸，治赤痢，並可治傷暑水瀉，同此義也。

【樸黃丸】

治痢疾初起，腹中實痛不得手按，此有宿食也，宜下之。

陳皮、厚朴（薑汁炒）各拾貳兩、大黃（酒蒸）貳拾兩、廣木香四兩。

荷葉水疊丸，如綠豆大，每服三錢，小兒一錢，開水下。

大黃，味苦下洩，則閉者通。厚朴苦溫，苦可以泄溫，可以行。木香，辛溫益胃。陳皮，苦辛調氣。

【導氣湯】

治氣痢初起，下白後重甚者。

木香、檳榔、川連、大黃、黃芩、枳殼、芍藥、當歸。

下白後重，此氣痢也。調氣而後重自除，故用木香、檳榔、枳殼。用芩、連、大黃，以清氣分之火。芍藥、當歸，以補血分之傷，則氣血和平而痢痊矣。

【桃仁承氣湯】

治熱邪內蓄，血不得行，腹痛甚者。

桃仁、桂枝、大黃（酒浸）、芒硝、甘草。

桃仁承氣治太陽熱結解而血復結於少陽樞紐間者，必攻血通陰，乃得陰氣上承。大黃、芒硝、甘草，本皆入血之品，必主之以桃仁，直達血所，攻其急結，仍佐桂枝，泄太陽隨經之餘熱，內外分解，庶血結無留戀之處矣。

【開噤散】

治嘔逆，食不入，虛人久痢用此。

人參、黃連（薑汁炒）、石菖蒲、丹參、茯苓、陳皮、石蓮子（去殼）、冬瓜仁（去殼）、荷葉蒂、陳米。

書云「食不得入，是有火也」，大腸為庚金之府，心火乘之，則津液化成膿血，痛而下痢矣。主以黃連，寒以清火，苦以洩熱。人參、陳米，益氣甦胃。腸胃屬手足陽明經，石菖蒲，辛溫為陽，陽充則腸胃溫也。石蓮子，甘平益脾。荷葉蒂，芳香，升發胃中陽氣。茯苓、陳皮，和中。丹參，氣寒則清熱，味苦則燥濕。冬瓜子甘平，主療腸毒。

【真人養臟湯】

治瀉痢日久，赤白已盡，虛寒脫肛，亦治赤白下痢，臍腹疼痛。

人參、白朮（土炒）、白芍（炒）、肉桂、訶子（煨）、生甘草、罌粟殼（去蒂蜜炙）、肉荳蔻（麵裹煨）、木香。

藏寒甚加附子。

此手足陽明藥也。脫肛由於虛寒，故用參、朮、甘草，以補其虛。肉桂、肉蔻，以祛其寒。木香，溫以調氣。芍藥，酸以收斂。訶子、罌殼，則濇以止脫也。

【黃金湯】（汪蘊谷製）

解疫毒而救胃氣。

黃土五錢、扁豆（炒）四錢、穀芽貳錢、茯苓一錢、黑豆三錢、生甘草八分、炒白芍一錢五分、金銀花三錢、五穀蟲（炒研）貳錢、生薑三片、扁豆花十枝。

體實受邪者，加黃連一味。

黑豆、銀花，解毒。甘草、白芍，理太陰腹痛。茯苓、扁豆，醒脾開胃。穀芽，消滯和中。扁豆花，清暑。黃土，治洩痢，冷熱，赤白，腹內熱毒絞痛。五穀蟲，止毒痢，且藉其穢以入大腸。生薑，暢胃口而下食。是方可云寓平淡於神奇矣。

【人參八味湯】

治陰盛格陽，內真寒而外現假熱。宜反佐從治，俾虛陽斂而陰寒現，真元復而外邪退矣。

熟地、山藥（炒）、茯苓、人參、丹皮、萸肉、附子、肉桂、澤瀉。

痢症體虛，餘邪不下，虛陽不斂者，宜八味地黃湯加人參，以復真元。蓋虛寒體受邪，則為虛寒痢也。

【回陽救急湯】

治三陰中寒，初病身不熱，頭不痛，惡寒戰慄，四肢厥逆，引衣自蓋，踡臥沉重，腹痛吐瀉，口中不渴或指甲唇青，口吐涎沬或無脈，或脈沉遲無力。

熟附子、乾薑、肉桂、人參、白朮（土炒）、茯苓、半夏（炒）、陳皮、甘草（炙）、五味子，加薑煎。

無脈加豬膽汁。嘔吐加薑汁。吐涎沬加吳茱萸。

此足三陰藥也。寒中三陰，陰盛則陽微，故以附子、薑、桂，辛熱之藥，袪其陰寒，而以六君，溫補之藥，助其陽氣。五味合人參可以生脈。入麝三厘者，通其竅也。

戰慄有屬陰者，陽微陰勝，邪氣內爭而正不勝，故心寒足踡，鼓頜厥冷，而一身戰搖也。有屬陽者，真陽來復，正氣鼓動，外爭而勝，故身為振搖，遂大汗以解也。

【胃關煎】

治脾腎虛寒作瀉，甚至久瀉腹痛不止，冷痢等證。

熟地、甘草（炙）、山藥（炒）、白朮（土炒）、吳茱萸（炒）、扁豆（炒）、乾薑。

熟地，補陰養津液。白朮、山藥，健脾而止痢。扁豆，和脾。炙草，緩中。乾薑，溫脾中之濕。吳茱萸，煖下焦之陽。此脾腎交治也。

【收陰養胃煎】（黃錦芳製）

治痢，陰已受傷，日夜煩躁，口渴唇紅，脈細而數。

人參、烏梅、麥冬、白芍（炒）、山藥、製首鳥、伏龍肝、粳米。

六陰皆虛，非用純陰，不能以救其逆。人參、麥冬、粳米，甘以生津。烏梅，酸以止渴。首烏、白芍、山藥，毓陰以除煩躁。伏龍肝，去濕。如是則胃陰旺而真元復矣。

【調胃承氣湯】

治陽明證口渴便秘，譫語腹滿，中焦燥實及傷寒吐後腹脹滿者。

大黃（酒浸）、甘草（炙）、芒硝。

調胃承氣者，以甘草緩大黃、芒硝，留中泄熱，故曰「調胃」。非惡硝、黃傷胃而用甘草也。泄盡胃中無形結熱，而陰氣亦得上承，故亦曰「承氣」。其義亦用制勝，甘草制芒硝，甘勝鹹也。芒硝制大黃，鹹勝苦也。去枳實、厚朴者，熱邪結胃劫津，恐辛燥重劫胃津也。

【白頭翁湯】

治厥陰熱利下重，渴欲飲水者。

白頭翁、黃連、黃柏、秦皮。

白頭翁湯治厥陰熱利後重者，太陰、少陰下利屬寒，惟厥陰下利主熱，以厥陰司相火也。故以白頭翁，涼陽明血分之熱。秦皮，收厥陰之濕。黃連，勝中焦之熱。黃柏，燥下焦之濕。四者皆味苦性寒，直入下焦，堅陰止利。

柯韻伯曰「三陰俱有下利證。自利不渴者屬太陰，是藏有寒也。自利渴者屬少陰，以下焦虛寒，津液不升，故引水自救也。惟厥陰下利屬於熱，以厥陰主肝而司相火，肝旺則氣上撞心，火鬱則熱利下重，濕熱穢氣奔逼廣腸，魄門重滯而難出。《內經》云『暴注下迫者』是矣。脈沉為在裏，弦為肝脈，是木鬱之徵也。渴欲飲水，厥陰病則消渴也。白頭翁，臨風偏靜，長於驅風，用為君者，以厥陰風木，風動則木搖而火旺，欲平走竅之人，必定搖動之風。秦皮，木小岑高，得清陽上升之象，為臣，是木鬱達之，所以遂其發陳之性也。黃連瀉君火，可除上焦之渴，是苦以發之。黃柏瀉相火，可止下焦之利，是苦以堅之也。治厥陰熱利有二，初利用此方以升陽散火，是謂下者舉之，寒因熱用法。久利則用鳥梅丸之酸以收火，佐以苦寒，雜以溫補，是謂逆之從之，隨所利而行之，調其氣使之平也」。

腫脹

大約腫本乎水，脹由乎氣。腫分陽水、陰水；脹辦在臟、在腑。必其人腎氣虛而失開闔之權，肺氣虛而失清肅之令，脾氣虛而失健運之常，表氣虛而外邪易入，於是在肌肉則腫，在臟腑則脹，腫有形而脹無形。脹者，腫之漸，內傷者居多；腫者，脹之劇，外感者無與。內傷有脹而亦有腫，外感有腫而卻無脹。治腫脹無餘蘊矣。

【金匱腎氣湯】

治脾腎陽虛，肚腹腫脹，四肢浮腫，喘急痰盛，已成鼓證，其效如神。

熟地、茯苓、山藥、萸肉、澤瀉、丹皮、附子、肉桂、牛膝、車前子。

張景岳曰「水腫乃脾、肺、腎三臟之病。蓋水為至陰，故其本在腎；水化於氣，故其標在肺；水惟畏土，故其制在脾。肺虛，則氣不化精而化水；脾虛，則土不制水而水泛；腎虛，則水無所主而妄行。以致肌肉浮腫，氣息喘急。病標上及脾肺，病本皆歸於腎，蓋腎為胃之關，關不利，故聚水而不能出也。膀胱之津由氣化而出，氣者陽也，陽旺則氣化，而水即為精；陽衰則氣不化，而精即為水。水不能化，因氣之虛，豈非陰中無陽乎！故治腫者必先治水，治水者必先治氣，若氣不能化，水道所以不通，先天元氣虧於下，則後天胃氣失其本，由脾及肺，治節不行，此下為胕腫腹大，上為喘呼不得臥，而標本俱病也。

惟下焦之真氣得行，始能傳化；真水得位，始能分清。必峻補命門，使氣復其元，則五臟皆安矣。故用地黃、山藥、丹皮，以養陰中之真水。山萸、桂、附，以化陰中之陽。茯苓、澤瀉、車前、牛膝，以利陰中之滯，能使氣化於精，即所以治肺也。補火生土，即所以治脾也。壯水利竅，即所以治腎也。補而不滯，利而不伐，治水諸方更無有出其右者，然當因此擴充，隨症加減，若其人因大病之後脾氣大虛而病水脹者，服此雖無所礙，終不見效。余熟計之，元氣大傷而藥兼滲利，未免減去補力，元氣不復，病必不除。遂悉去利水之劑，專用朮、桂、附，三大劑而足脛漸消，十餘劑而腹脹退，此後凡治中年之後脾腎皆虛者，悉用此法，蓋氣虛者不可復行氣，腎虛者不可復利水，溫補即所以化氣，塞因塞用之妙，顧在用之者何如耳」。

【犀角湯】

治結陽者，腫四肢。

犀角（鎊）、升麻、元參、連翹、射干、麥冬、芒硝、柴胡、沉香（磨汁）、木通、炙甘草。

所謂陽者，胃脘之陽也。故用犀角、升麻，解散陽明之結熱。元參、連翹，肅清樞機，引領清氣上下，以散結熱。射干、麥冬，解上焦之結熱。芒硝、沉香，破下焦之結陽。柴胡，升清氣，則樞機自轉。木通，通心竅，則經絡流行。甘草，以和諸藥之性。此結之見乎外者，從表散也。

【桂苓朮甘湯】

治心下有痰飲，胸脇支滿，目眩。

茯苓、桂枝、白朮（土炒）、甘草（炙）。

此太陽、太陰方也。膀胱氣鈍則水蓄，脾不行津液則飲聚。白朮、甘草，和脾，以運津液。茯苓、桂枝，利膀胱，以布氣化。崇土之法，非但治水寒上逆，并治飲邪留結，頭身振搖。

喻嘉言曰「茯苓，治痰飲，伐腎邪，滲水道。桂枝，通陽氣，開經絡，和營衛。白朮，燥痰水，除脹滿，治風眩。甘草得茯苓，則不資滿而反泄滿。此症為痰飲阻抑其陽，故用陽藥以升陽而化氣也」。

趙以德曰「《靈樞》謂『心胞絡之脈動，則病胸脇支滿』者，謂痰飲積於心胞，其病則必若是。目眩者，痰飲阻其胸中之陽，不能布水精於上也。夫短氣有微飲，此水飲停蓄，呼吸不利而然也。《金匱》并出二方，妙義益彰，呼氣之短，用苓桂朮甘湯之輕清，以通其陽，陽化氣則小便能出矣；吸氣之短，用腎氣丸之重降，以通其陰，腎氣通則關門自利矣」。

【大安丸】

治飲食傷脾成鼓脹者，此方主之。

山查肉（炒）、白朮（土炒）、神麴（炒）、製半夏、茯苓、陳皮、萊菔子（生炒各半）、連翹。

鼓脹者，腹皮虛大，鼓之堅急而有聲也。飲食過其分量則傷脾，脾傷則不能運化，積其穀氣，虛大而鼓脹矣。故用山查之酸，以消肥甘。神麴之腐，以化焦炙。用連翹之苦，以磨積熱。用陳皮之香，以開腐穢。用半夏之燥，以勝土濕。用茯苓之淡，以利水飲。用萊菔子之利，以行食滯。用白朮之氣，以勝五味。五味能勝則脾不傷，脾不傷則中氣運行而無鼓脹矣。

【實脾散】

凡水氣肢體浮腫，口不渴，二便利者，陰水也。此方主之。

白朮（土炒）、炮薑、厚朴（薑汁炒）、茯苓、大腹子、製附子、炙甘草、草果（煨）、木香、木瓜。

脾胃虛寒不能制水則水妄行，故肢體浮腫。以無內熱，故口不渴而二便利。茲以朮、苓、炙草之甘溫，補其虛。用薑、附之辛熱，溫其寒。用木香、草果之辛溫，行其滯。用厚朴、大腹子之下氣，攻其邪。用木瓜之酸溫，抑其所不勝，名曰「實脾散」者，實土以防水也。

【大橘皮湯】

治濕熱內攻，腹脹，小便不利，大便滑泄等證。

陳皮、木香、滑石、檳榔、豬苓、澤瀉、白朮（土炒）、肉桂。

濕熱內攻，故令腹脹。小便不利，故令大便溏泄。陳皮、木香、檳榔，行氣藥也，氣行則濕行。滑石、甘草，六一散也，用之以治濕熱。二苓、澤瀉、朮、桂，五苓散也，用之以利水道。

【小半夏加茯苓湯】

半夏、茯苓、生薑。

小半夏湯、小半夏加茯苓湯、《外臺》茯苓飲，三者皆小制之方，從脾胃二經，分痰飲立治法。蓋胃之支脈有飲，則胃逆為嘔而不渴。主之以半夏，辛溫泄飲。生薑，辛散行陽，獨治陽明，微分表裏。若卒嘔吐，鬲間水悸，則飲邪瀰漫於胃矣，仍用前方，加茯苓一味，滲泄水氣，并可使腎邪不干。

前二方是飲邪深淺之治法也。若胸中有停痰，自吐宿水，不能食，此不獨胃中有飲，而脾經亦有痰矣，小半夏湯不能治也。仲景引伸《外臺》茯苓飲，取四君子有調元贊化之功，加枳實、陳皮，下氣消痰，專治脾經，功兼及胃。

趙以德曰「嘔為痰飲動中，湧而出之。嘔盡本當渴，渴則可徵支飲之全去，今反不渴，是其飲尚留，去之未盡也。用半夏之辛溫，生薑之辛散，散其欲出之飲，則所留之邪自盡矣。半夏、生薑皆味辛，可治膈上痰、心下堅、嘔逆、目眩。然悸必心受水凌，必加茯苓以去水，伐腎邪，安心神也。後方加人參、枳實、陳皮，此由上中二焦氣弱，水飲入胃，脾不能輸歸於肺，肺不能通調水道，以致停積為痰，為宿水。吐之，則下氣因而上逆，是為虛氣，滿不能食。當補益中氣，以人參、白朮為君。茯苓，逐宿水。枳實，調諸氣為臣。開脾胃，宣揚上焦，發散凝滯，則陳皮、生薑為使也。其積飲既去而虛氣塞滿其中，不能進食，此證最多」。

【升陽除濕湯】

治陰囊腫大，陰汗不絕。

柴胡、羌活、蒼朮、黃芪、防風、升麻、藁本、甘草、蔓荊子、當歸、獨活。

腎氣虛則濕勝而下流，故腎囊腫大，陰汗常濕。《內經》曰「下者舉之」。風能勝濕。故以柴胡、羌活、蒼朮、藁本、蔓荊子、獨活，皆味辛而氣清，風藥而升清者也，可以去濕，可以升陽。再以黃芪，托其下陷之氣。甘草，培其脾土之原。當歸，潤其陰分之血而疝氣自消矣。

【熱鬱湯】

治陰火灼肺，金氣膹鬱，喘咳壅塞而脹。

熟地、麥冬、沙參、阿膠、五味子、胡桃。

熟地，補益真陰。麥冬，保肺。肺氣敢而不收，以五味斂之。沙參、阿膠，以宣膹鬱。胡桃，定喘。

【燥濕消中飲】

治濕熱在脾胃而脹，熱因於濕，燥濕而熱自除。

白朮（土炒）、陳皮、茯苓、半夏、苡仁、扁豆（炒）。

白朮苦溫，燥濕健脾。茯苓、苡仁甘淡，滲濕和胃。扁豆，降濁升清。陳皮、半夏，通陽利氣。

【平中飲】

治瘀血在中焦作脹。

人參、白朮（土炒）、丹參、瓦楞子（醋研淬）、桃仁、炮薑。

桃仁苦甘，瓦楞鹹寒，功專破瘀。丹參，去瘀生新。參、朮，補氣。所謂攻補兼行者，炮薑除胃冷而守中。

【消胃飲】

治氣滯食阻在陽明而作脹。

半夏（炒）、陳皮、神麴、厚朴（薑汁炒）、砂仁、萊菔子（炒）、穀芽，加煨薑，煎。

厚朴，苦瀉實滿。砂仁，辛快結滯。神麴，消食。穀芽，開胃。半夏，散痞。陳皮，理氣。菔子，寬膨。煨薑，和中。

【壯火溫脾湯】

治腎火衰微，中土虛寒，脾元不運化而脹。

白朮（土炒）、甘草（炙）、山藥（炒）、陳皮、芡實（炒）、茯苓、製附子。

少陰火衰，則太陰脾土未有不虛者。以苓、朮、山藥、芡實，溫補脾陽。附子，以溫腎陽。陳皮、炙草，和中調氣。

【五皮飲】

治病後身面四肢浮腫，小便不利，此由諸氣不能運行，散漫於皮膚之間，故令腫滿，此藥最宜。

大腹皮（黑豆汁洗）、茯苓皮、陳皮、桑白皮、生薑皮。

仲聖云「腰以上腫宜發汗」，加紫蘇、秦艽、荊芥、防風；「腰以下腫宜利小便」，加赤小豆、赤茯苓、澤瀉、車前子、萆薢、防己。若大便不通，宜下之，加大黃、葶藶。腹中脹滿，加萊菔子、厚朴、陳皮、麥芽、山查。體虛者，加人參、茯苓。審是陰水，加附子、乾薑、肉桂。審是陽水，加連翹、黃柏、黃芩。挾痰者，加半夏、生薑。既消之後，宜用理中湯健脾實胃，或以金匱腎氣丸溫煖命門。

此足太陽、太陰藥也。大腹，下氣行水。茯苓，滲濕健脾。陳皮，和中利氣。桑皮，清肺消腫。生薑，辛散助陽。於散瀉之中，猶寓調補之意。皆用皮者，水溢皮膚，以皮行皮也。

感證

感證，大抵邪之所感，必先皮毛而後經絡，由經絡而入臟腑，而十二臟腑之中，惟胃為水穀之海，最虛而善受，故六經之邪皆能入之，邪入則胃實矣，胃實則津液乾矣。故人之感者，有虛實新久之各異，而病之見也，有本症、變症、兼症之殊致。學者宜深考。

【越脾湯】

治風水，惡風，一身悉腫，脈浮，不渴，續自汗出，又治裏水，一身面目黃腫，脈沉，小便不利。

麻黃、石膏、生薑、大棗、甘草。

口渴惡風，加白朮、附子。

喻嘉言曰「越脾湯示微發表於不發之方，取其通調營衛。麻黃、石膏，一甘熱，一甘寒，合而用之。脾偏於陰，則和以甘熱；胃偏於陽，則和以甘寒。乃至風熱之陽、水寒之陰，凡不和於中土者，悉得用之，何者？中土不和則水穀不化，其精悍之氣以實營衛，營衛虛，則或寒或熱之氣，皆得壅塞其隧道，而不通於表裏。所以在表之風水用之，而在裏之水兼渴而小便自利者咸必用之，無非欲其不害中土耳」。

趙以德曰「五臟各一其陰陽，獨脾胃居中而兩屬之。故土不獨成四氣，土亦從四維而後成，不惟火生而已。於是四方有水寒之陰，即應於脾；風熱之陽，即應於胃。飲食五味之寒熱，凡入於脾胃者亦然，一有相干則脾氣不和，胃氣不清而水穀不化其精微，以行營衛，以實陰陽也。甘者，是土之本味，所以脾氣不和，和以甘熱，胃氣不清，清以甘寒。麻黃之甘熱，走手足太陰經，達於皮膚，行氣於三陰，以祛陰寒之邪。石膏之甘寒，走手足陽明經，達於肌肉，行氣於三陽，以祛風熱之邪。既用其味甘以入土，用其寒熱以和陰陽，用其性善走以發越脾氣，更以甘草和中緩急，調二藥相協而成功。大棗之甘，補脾中之血。生薑之辛，益胃中之氣。越脾之名不亦宜乎」！

【麻黃附子細辛湯】

治少陰病始得之，發熱，脈沉，無裏證者。

麻黃、熟附子、細辛。

少陰得太陽之熱而病者，用麻黃，發太陽之表汗，細辛，散少陰之浮熱，相須為用，欲其引麻黃入於少陰，出太陽陷入之邪，尤藉熟附，合表裏以溫經，外護太陽之剛氣，內固少陰之腎根，則津液內守而微陽不致外亡，此從裏達表，由陰出陽之劑也。

柯韻伯曰「《內經》云『逆冬氣則少陰不藏，腎氣獨沉』，故身雖熱而脈則沉也。所以太陽病而脈反沉，便用四逆以急救其裏，此少陰病而表反熱，便於表劑中加附子以豫固其裏。何以故？腎為坎象，二陰不藏則一陽無蔽，陰邪始得以內侵，孤陽因之以外越耳。夫發熱無汗，太陽之表不得不開。沉為在裏，少陰之樞又不得不固。設用麻黃開腠理，細辛散浮熱，而無附子以固元陽，則少陰之津液越出，太陽之微陽外亡，去生便遠。惟附子與麻黃並用，則寒邪散而陽不亡，精自藏而陰不傷，此裏症及表脈沉而當發汗者，與病在表，脈浮而發汗者逕庭也。若表微熱則受寒亦輕，故以甘草易細辛而微發其汗，甘以緩之，與辛以散之者，又少間矣」。

【九味羌活湯】

四時發散之通劑。

羌活、防風、川芎、白芷、細辛、蒼朮、黃芩、甘草、生地，加生薑三片、蔥白三莖。

【活人敗毒散】

治傷寒溫疫，風濕，風眩，拘踡，風痰，頭疼，目眩，四肢痛，憎寒，壯熱，項強，睛疼。

羌活、獨活、前胡、柴胡、川芎、枳殼、茯苓、桔梗、人參、甘草，加生薑三片。

煩熱口渴，加黃芩。

趙羽皇曰「東南地土卑濕，凡患感冒，輒以傷寒二字混稱。不知傷者，正氣傷於中。寒者，寒邪客於外。未有外感而內不傷者也。仲景醫門之聖，立法高出千古，其言『冬時嚴寒，萬類深藏，君子固密，不傷於寒，觸冒之者，乃名傷寒』，以失於固密而然，可見人之傷寒悉由元氣不固而膚湊之不密也。昔人常言傷寒為汗病，則汗法其首重矣，然汗之發也，其出自陽，其源自陰，故陽氣虛則營衛不和而汗不能作，陰氣弱則津液枯涸而汗不能滋，但攻其外，不顧其內，可乎？表汗無如敗毒散、羌活湯，其藥如二活、二胡、芎、蒼、辛、芷，群隊辛溫，非不發散，若無人參、生地之大力者居乎其中，則形氣素虛者，必至亡陽，血虛挾熱者，必至亡陰而成痼疾矣。是敗毒散之人參與羌活湯之生地，人謂其補益之法，我知其托裏之法。蓋補中兼發，邪氣不致於流連；發中帶補，真元不至於耗散。此古人制方之妙也」。

【防風黃芪湯】

治中風不能言，脈沉而弱者。

防風、黃芪等分，水煎服。

黃芪畏防風，畏者，受彼之制也。然其氣皆柔，皆主乎表，故雖畏而仍可相使，不過黃芪性鈍，防風性利，鈍者受利者之制耳。惟其受制，乃能隨防風以周衛於身而固護表氣，故曰「玉屏風」。

一方有白朮者，名曰白朮防風湯。

柯韻伯曰「夫風者，百病之長也。邪風之至，急如風雨，善治者，治皮毛，故用防風，以驅逐表邪。邪之所湊，其氣必虛，故用黃芪，以鼓舞正氣。黃芪得防風，其功愈大者，一攻一補，相須相得之義也。今人治風，惟以發散為定法，而禁用參、芪，豈知目盲不能視，口噤不能言，皆元氣不足使然耳！誰知補氣可以禦風，正勝而邪卻之理耶！神而明之，存乎其人信哉」！

【桂枝加芍藥加大黃二湯】

本太陽病醫反下之，因爾腹滿時痛者，屬太陰也。桂枝加芍藥湯主之。大實痛者，桂枝加大黃湯主之。

桂枝、芍藥、甘草、生薑、大棗。

此用陰和陽法也。其妙即以太陽之方求治太陰之病。腹滿時痛，陰道虛也，將芍藥一味倍加三兩，佐以甘草，酸甘相輔，恰合太陰之主藥，且倍加芍藥，又能監桂枝深入陰分，升舉其陽，辟太陽陷入太陰之邪，復有薑、棗為之調和，則太陽之陽邪不留滯於太陰矣。

柯韻伯曰「腹滿為太陰、陽明俱有之證，然位同而職異。太陰主出，太陰病則腐穢之出不利，故滿而時痛；陽明主納，陽明病則腐穢燥而不行，故大實而痛。大實痛是陽明病，不是太陰病，仲景因表症未解，陽邪已陷入於太陰，故倍芍藥，以益脾而除滿痛，此用陰和陽法也。若表邪未解而陽邪陷入於陽明，則加大黃，以潤胃而除其大實痛，此雙解表裏法也。凡妄下必傷胃氣，胃氣虛則陽邪襲陰，故轉屬太陰；胃液涸則兩陽相搏，故轉屬陽明。屬太陰則腹滿時痛而不實，陰道虛也；屬陽明則腹大實而痛，腸道實也。滿而時痛，是下利之兆；大實而痛，是燥屎之徵。故加芍藥，小變建中之劑。加大黃，微示調胃之方」。

【桂枝湯】

治風寒在表，脈浮弱，自汗出，頭痛，發熱，惡風，惡寒，鼻鳴，乾嘔等證。雜證自汗，盜汗，虛瘧，虛痢最宜。若脈浮緊，汗不出者，禁用。酒客亦不可用。

桂枝、芍藥、生薑、甘草、大棗。

桂枝湯，和方之祖，故列於首。〈太陽篇〉云「桂枝本為解肌」，明非發汗也。桂枝、甘草，辛甘化陽，助太陽融會肌氣。芍藥、甘草，酸甘化陰，啟少陰奠安營血。薑通神明，佐桂枝行陽。棗泄營氣，佐芍藥行陰。一表一裏，一陰－陽，故謂之和。加熱粥，內壯胃陽，助藥力行衛，解腠理鬱熱，故曰「解肌」。邪未入營而用白芍者，和陽解肌，恐動營發汗，病反不除，觀此足以貫通全部方法變化，生心非仲聖，其孰能之。

【小青龍湯】

治傷寒表不解，心下有水氣，乾嘔，發熱而欬，或渴，或利，或噎，或小便不利、少腹滿，或喘者，及雜病膚脹水腫證，用此發汗而利水。

桂枝、芍藥、甘草、麻黃、細辛、乾薑、半夏、五味子。

小青龍湯治太陽表裏俱寒，方義迥異於大青龍之治裏熱也。蓋水寒上逆，即涉少陰腎虛，不得已而發表，豈可不相綰照，獨泄衛氣，立剷孤陽之根乎！故於麻桂二湯內，不但留芍藥之收，拘其散表之猛。再復乾薑、五味，攝太陽之氣，監制其逆。細辛、半夏，辛滑香幽，導綱藥深入少陰，溫散水寒，從陰出陽。推測全方是不欲發汗之意，推原神妙亦在乎陽劑而以斂陰為用。偶方小制，故稱之曰「小青龍」。

柯韻伯曰「寒熱不解而咳，知內有水氣射肺。乾嘔，知水氣未入於胃而在心下也。心不為火位，水火相射，則水氣之變幻不可拘，如下而不上，則或渴或利，上而不下，則或噎或喘。留於腸胃，則小便不利而少腹因滿矣。惟發熱而欬為定證，故於桂枝方去大棗之泥，加麻黃，以開腠理。細辛，逐水氣。半夏，除嘔。五味、乾薑，以除欬。若渴者，是心火盛，故去半夏之燥熱，加栝蔞根以生津。若微利與噎，小便不利與喘者，病機偏於向裏，故去麻黃之發表，加附子以除噎，芫花、茯苓以利水，杏仁以定喘耳。兩青龍俱治有表裏證，皆用兩解法，大青龍是裏熱，小青龍是裏寒，故發表之藥相同而治裏之藥則殊也」。

【柴胡加龍骨牡蠣湯】

傷寒，八九日，下之，胸滿煩驚，小便不利，譫語，一身盡重不可轉側者。

柴胡、黃芩、人參、生薑、茯苓、鉛丹、桂枝、龍骨、牡蠣、大黃、半夏、大棗。

足經方治手經病者，參、苓、龍、牡、鉛丹，入足經而可轉行於手經者也。手少陰煩驚從足太少陽而來，故仍從柴、桂立方，邪來錯雜不一，藥亦錯雜不一以治之。柴胡，引陽藥升陽。大黃，領陰藥就陰。人參、炙草，助陽明之神明，即所以益心虛也。茯苓、半夏、生薑，啟少陽三焦之樞機，即所以通心機也。龍骨、牡蠣，入陰攝神，鎮東方甲木之魂，即所以鎮心驚也。龍、牡，頑鈍之質，佐桂枝即靈。邪入煩驚，痰氣固結於陰分，用鉛丹即墜。至於心經浮越之邪，借少陽樞轉出於太陽，即從茲收安內攘外之功矣。

柯韻伯曰「妄下後，熱邪內攻，煩驚譫語者，心主不明而神明內亂也。小便不利者，火盛而水虧也。一身盡重者，陽內而陰反外也。難以轉側者，少陽之樞機不利也。此下多亡陰與火逆亡陽不同。是方，取柴胡之半，以除胸滿心煩之半裏。加鉛丹、龍、牡，以鎮心驚。茯苓，以利小便。大黃，以止譫語。桂枝者，甘草之誤也，身無熱無表症，不得用桂枝去甘草，則不成和劑矣。心煩譫語而不去人參者，以驚故也」。

【升陽益胃湯】

治脾胃虛，怠惰嗜臥，四肢不收，時值濕熱，體重節痛，口乾舌燥，飲食無味，大便不調，小便頻數，食不消，兼見肺病，灑淅惡寒，慘慘不樂，面色不和。

羌活、防風、柴胡、獨活、黃連、白芍、黃芪、甘草（炙）、人參、白朮、茯苓、廣皮、半夏、澤瀉，加生薑五片，棗二枚，煎。

升陽益胃湯，東垣治所生受病，肺經之方也。蓋脾胃虛衰，肺先受病，金令不能清肅下行，則濕熱易攘，陽氣不得伸，而為諸病。當以羌活、柴胡、防風，升舉三陽經氣。獨活、黃連、白芍，瀉去三陰鬱熱。佐以六君子，調和脾胃，其分兩獨重於人參、黃芪、半夏、炙草者，輕於健脾而重於益胃。其升陽之藥銖數少則易升，仍宜久煎，以厚其氣，用於早飯午飯之間，籍穀氣以助藥力，纔是升胃中之陽耳。至茯苓、澤瀉，方後註云「小便利不淋勿用」，是滲泄主降，非升陽法也。

吳鶴皋曰「脾土虛弱不能制濕，故體重節痛。不能運化精微，故口乾無味。中氣既弱，傳化失宜，故大便不調，小便頻數也。灑淅惡寒，肺弱表虛也。面色不樂，陽氣不伸也。是方，半夏、白朮，能燥濕。茯苓、澤瀉，滲之。二活、防風、柴胡，能升舉清陽之氣。黃連，療濕熱。陳皮，平胃氣。參、芪、甘草，以益胃。白芍酸收，用以和營而協羌、防、柴胡辛散之性。蓋古人用辛散必用酸收，所以防其峻厲，猶兵家之節制也」。

【歸柴飲】

治營虛不能作汗，真陰不足，外感寒邪難解等症。

當歸、柴胡、甘草（炙）、生薑。

當歸，養營。柴胡，解表。甘草，有和中之用。生薑，有宣散之能。此補托散邪之劑也。

【參胡三白湯】

治汗下後，虛微少氣，發熱，口燥。

人參、柴胡、白朮（土炒）、白芍（炒）、白茯苓，加薑、棗。

柯韻伯曰「汗下後裏氣既虛，當求之於三陰，而表熱復發，又當責之三陽。三陽以少陽為樞，其方以小柴胡；三陰以少陰為樞，其方以真武。法當參合為治，然此熱是少陽之虛，不得仍作火治，故於柴胡方中去黃芩。口燥而不嘔，故去半夏。少氣而反去甘草者，欲其下達少陰也。於真武湯不取附子，欲其上通少陽也。所籍惟人參，故用為君。佐白朮，以培太陰之母。白芍，滋厥陰之血。茯苓，清少陰之水。生薑，助柴胡散表邪。大棗，助人參補元氣。信為大病後調理之聖劑，至當而可法者也。若營衛不和，則去柴胡，用桂枝。口渴心煩，加麥冬、五味，輔人參，生津止渴。心下痞，用黃連、枳實瀉心。不得臥，加竹茹泄木。陰熱如無表熱，并去柴胡。名『人參三白湯』，純乎調內矣」。

〈卷三〉

瘧疾

經曰「陰陽相摶，謂之瘧」，陰摶陽而為寒，陽摶陰而為熱，陰陽互相勝負，故寒熱並作也。然而寒熟往來總在少陽，久而不愈總不離乎脾胃。蓋胃虛亦惡寒，脾虛亦發熱也。疏理少陽，扶助脾胃，治瘧無餘蘊矣。至三日瘧，乃邪伏募原之深界而離肌腠之路遠，須宜陽分助氣之藥，加血藥引入陰分，方可掣起。初發宜升其陷於陰經之邪，久發腎陰虛宜補其真水，腎陽虛宜補其真火，脾胃虛宜補其脾土。如是則氣血大盛，邪不攻而自走，所謂邪正不兩立也。

【小柴胡湯】

治寒熱往來，胸脇苦滿，默默不欲飲食，心煩，喜嘔，耳聾，脈數，此是少陽半表半裏之證。

柴胡、半夏、人參、黃芩、甘草（炙）、生薑、大棗。

若胸中煩而不嘔，去半夏、人參，加栝蔞實。

若渴者，去半夏，加人參，加栝蔞根。

若腹中痛，去黃芩，加芍藥。

若脇下痞鞭，去大棗，加牡蠣。

心下悸，小便不利者，去黃芩，加茯苓。不渴，外有微熱者，去人參，加桂枝溫覆取微汗。

欬者，去人參、大棗、生薑，加五味子、乾薑。

程郊倩曰「方以小柴胡名者，配乎少陽而取義。至於制方之旨及加減法，則所云『上焦得通，津液得下，胃氣因和』，盡之矣。何則？少陽脈，循脇肋，在腹陽背陰兩岐間，在表之邪欲入裏，為裏氣所拒，故寒往而熱來。表裏相拒而留於岐分，故胸脇苦滿。神識以拒而昏困，故默默。木受邪則妨土，故不欲食。膽為陽木而居清道，為邪所鬱，火無從泄，逼炎心分，故心煩。清氣鬱而為濁，則成痰滯，故喜嘔，嘔則木火兩舒，故喜之也。此則少陽定有之症，其餘或之云者，以少陽在人身為遊部，凡表裏經絡之罅，皆能隨其虛而見之不定之邪也。據症皆是太陽經中所有者，特以五六日上見，故屬之少陽半表半裏兼而有之方。是小柴胡證，方中柴胡以疏木，使半表之邪得從外宣。黃芩清火，使半裏之邪得從內徹。半夏，能開結痰，豁濁氣，以還清。人參，能補久虛，滋肺金，以融水。甘草和之，而更加薑、棗助少陽生發之氣，使邪無內向也。若煩而不嘔者，火成燥實而逼胸，故去人參、半夏，加栝蔞實。渴者，燥已耗液而逼肺，故去半夏，加栝蔞根。腹中痛，木氣散入土中，胃陽受困，故去黃芩以安土，加芍藥以戢木。脇下病鞭者，邪既留則木氣實，故去大棗之甘而緩，加牡蠣之鹹而軟也。心下悸，小便不利者，土被侵則木氣逆，故去黃芩之苦而伐，加茯苓之淡而滲也。不渴，身有微熱者，半表之寒尚滯於肌，故去人參，加桂枝以解之。欬者，半表之寒湊入於肺，故去人參、大棗，加五味子，易生薑為乾薑以溫之，雖肺寒不減黃芩，恐木寡於畏也。總之邪在少陽，是表寒裏熱，兩鬱不得升之，故小柴之治，所謂升降浮沉則順之也」。

柴胡湯不從表裏立方者，仲景曰「少陽病，汗之則譫語，吐下則悸而驚」，故不治表裏而以升降法和之。蓋遵經言，少陽行身之側，左升主乎肝，右降主乎肺。柴胡升足少陽清氣，黃芩降手太陰熱邪，招其所勝之氣也。柴、芩，解足少陽之邪，即用參、甘，實足太陰之氣，截其所不勝之處也。仍用薑、棗和營衛者，助半夏和胃而通陰陽，俾陰陽無爭則寒熱自解。經曰「交陰陽者，少和其中也」。去渣再煎，恐剛柔不相濟，有礙於和也。七味主治在中不及下焦，故稱之曰「小」。

【加減小柴胡湯】（程鍾齡製）

治瘧證之通劑。

柴胡、秦艽、赤芍（炒）、甘草（炙）、陳皮。

熱多者，加黃芩。寒多者，加炮薑。

口渴甚者，加知母、栝蔞根。

嘔惡加半夏、茯苓、砂仁、生薑。

汗少者，加荊芥、川芎、當歸。

汗多者，去秦艽，減柴胡，加人參、白朮、何首烏。

停滯，加麥芽、神麴、厚朴、山查。

柴胡，少陽引經藥。甘草、陳皮，辛甘和陽。赤芍，酸寒和陰。秦艽，主寒熱邪氣。此推廣仲景之意也。

【柴胡桂薑湯】

治夏月暑邪，先傷在內之伏陰，至秋復感涼風，更傷衛陽，其瘧寒多微熱。

柴胡、桂枝、乾薑、黃芩、栝蔞根、牡蠣、甘草。

瘧為寒多微熱，顯然陰陽無爭，是營衛俱病矣。故和其陽，既當和其陰。用柴胡和少陽之陽，即用黃芩和裏。用桂枝和太陽之陽，即用牡蠣和裏。用乾薑和陽明之陽，即用天花粉和裏。使以甘草，調和陰陽。其分兩，陽分獨重柴胡者，以正瘧不離乎少陽也。陰藥獨重花粉者，陰虧之瘧，以救液為急務也。

【清脾飲】

治痰積成瘧，但熱不寒，或熱多寒少，口苦咽乾，小便赤濇。

厚朴（薑汁炒）、青皮、白朮（土炒）、草果、柴胡、茯苓、黃芩、半夏、甘草（炙），加薑、棗煎。

脾不曰健而曰清者，太陰受病，清少陽所勝之邪也。蓋少陽太陰為順乘之臟腑。太陰瘧，寒熱者，必兼少陽而來，故以小柴胡和少陽之樞紐。復以厚朴、青皮，蕩滌膜原之邪。獨是柴胡湯中去人參用白朮者，恐人參助氣。取白朮，燥土以勝濕痰，不助少陽之熱。《濟生方》有草果，雖散太陰滯氣，若熱鬱者，非清脾之謂也。

柯韻伯曰「瘧為少陽病，治分六經，邪留於募原，有遠近之殊。其發有虛實先後之異，而此湯之治瘧，實以痰積名之。清脾者，究其因而治其本也。先哲云「無痰不成瘧，無積不成瘧」，是脾為生痰之源，而積之不磨者，亦因脾之不運也。胃主納，脾主消，而胃為脾之表，凡欲清脾必先平胃。青皮、厚朴、草果，皆氣味兼厚之品，取以倒陽明之倉，正以利太陰之輸也。然宿痰留結，更有藉於茯苓、半夏之淡滲辛散，是恐奇之不去則偶之。所以攻脾之實者，平胃除痰每相須耳。積因於寒，痰因於熱，是寒熱往來為瘧之標而實為痰積之本矣。必用芩、柴以清之，更合於少陽之治，然此為土中瀉火，不是直攻少陽，乃清脾之義也。火土平而無以善其後，則瘧之因實而成者，未免因虛而劇，甘、朮之必須，又防微杜漸法耳」。

【達原飲】

治瘧發間日，邪犯募原之分。

常山、檳榔、草果、厚朴、黃芩、知母、青皮、甘草、石菖蒲，露一宿，發後溫服。

瘧邪內薄，則邪不在表，非但隨經上下，其必橫連於膜，深入於原矣。膜謂鬲間之膜，原謂鬲肓之原，亦衝脈也。《靈樞經》云「邪氣客於腸胃之間，膜原之下」，則膜原又有屬於腸胃者。治以常山，滌鬲膜之痰。檳榔，達肓原之氣。草果、厚朴，溫除腸胃之濁邪。黃芩、知母，清理腸胃之熱邪。復以菖蒲，透膜。青皮，達下。甘草，和中而瘧自解。

【柴胡白虎煎】

治陽明溫熱，表邪不解等證。

柴胡、石膏、麥冬、甘草（生）、黃芩、竹葉。

柴胡，疏達流通，散邪外出。黃芩，清肺胃火，裏熱內徹。麥冬，清潤止渴。甘草，瀉熱和中。竹葉之加，又倣仲景竹葉石膏湯之製，外托表邪，內清裏熱。

【桂枝白虎湯】

治溫瘧，但熱無寒，骨節疼痛，時嘔。

知母、甘草（炙）、石膏、梗米、桂枝。

趙以德曰「陰不與陽爭，故無寒骨節。此痺不與陽通則疼痛。火氣上逆則時嘔，用白虎治其陽盛也。加桂枝，療骨節痺痛，通血脈，散瘧邪，和陰陽以取汗也」。

【柴平湯】

治濕瘧，一身盡痛，手足沉重，寒多熱少，脈濡之證。

柴胡、黃芩、人參、甘草、半夏、陳皮、厚朴、蒼朮，薑、棗同煎。

上件皆濕證也，故用小柴胡以和解表裏，平胃散以健脾制濕。二方合而為一，因名之曰「柴平」云。

【補中益氣湯】

治勞倦傷脾，中氣不足，清陽不升，外感不解，體倦食少，寒熱瘧痢，氣虛不能攝血者。

人參、黃芪（炙）、當歸、白朮（土炒）、升麻、柴胡、陳皮、甘草（炙），薑、棗同煎。

氣者，專言後天之氣。出於胃，即所謂清氣、穀氣、衛氣、營氣、運氣、生氣、陽氣、春升之氣，後天三焦之氣也。分而言之則異，其實一也。東垣以後天立論，從《內經》「勞者溫之，損者益之」，故以辛甘溫之劑，溫足太陰厥陰，升足少陽陽明。黃芪、當歸，和營氣以暢陽，佐柴胡，引少陽清氣，從左出陰之陽。人參、白朮，實衛氣以填中，佐升麻，引春升之氣從下而上達陽明。陳皮，運衛氣。甘草，和營氣。原其方不特重參、芪、歸、朮，溫補肝脾，義在升麻、柴胡，升舉清陽之氣，轉運中州，故不僅名「補中」，而復申之曰「益氣」。

楊雲峰法「汗出不止，加白芍、五味子。痢疾腹痛已除，瀉猶未止，是胃氣下陷也，加酒炒白芍三錢。瘧疾發久，加半夏。有外感，加黃芩。胎前氣虛，以致胎動不安、小產、崩漏或產後血虛發熱，俱加酒炒白芍二錢。至於三陰瘧治法，惟太陰，用補中益氣湯加半夏、茯苓，或理中湯加肉桂。若少陰厥陰，非八味地黃丸不效」。

柯韻伯曰「仲景有建中、理中二法，風木內干中氣，用甘草、飴、棗，培土以禦風，薑、棗、芍藥，驅風而瀉木，故名曰「建中」。寒水內凌於中氣，用參、朮、甘草，補土以制水，佐乾薑而生土以禦寒，故名曰「理中」。至若勞倦，形氣衰少，陰虛而生內熱者，表證頗同外感，惟東垣知其為勞倦傷脾，穀氣不盛，陽氣下陷陰中而發熱，製補中益氣之法，謂風寒外傷其形為有餘，脾胃內傷其氣為不足，遵《內經》『勞者溫之，損者益之』之義，大忌苦寒之藥，選用甘溫之品，升其陽以行春生之令。凡脾胃一虛，肺氣先絕，故用黃芪，護皮毛而開腠理，不令自汗。元氣不足，懶言，氣喘，人參以補之。炙甘草之甘，以瀉心火而除煩，補脾胃而生氣。此三味，除煩熱之聖藥也。佐白朮，以健脾。當歸，以和血。氣亂於胸，清濁相干，用陳皮以理之，且以散諸甘藥之滯。胃中清氣下沉，用升麻、柴胡，氣之輕而味之薄者，引胃氣以上騰，復其本位，便能升浮，以行生長之令矣。補中之劑得發表之品而中自安，益氣之劑賴清氣之品而氣益倍，此用藥有相須之妙也。是方也，用以補脾，使地道卑而上行，亦可以補心肺，『損其肺者，益其氣；損其心者，調其營衛』也。亦可以補肝，『木鬱則達之』也。惟不宜於腎，陰虛於下者不宜升，陽虛於下者更不宜升也。凡東垣治脾胃方，俱是益氣，去當歸、白朮，加蒼朮、木香，便是調中。加麥冬、五味輩，便是清暑。此正是醫不執方，亦是醫必有方」。

趙養葵曰「後天脾土非得先天之氣不行，此氣因勞而下陷於腎肝，清氣不升，濁氣不降，故用升、柴以佐參、芪。是方所以補益後天中之先天也。凡脾胃喜甘而惡苦，喜補而惡攻，喜溫而惡寒，喜通而惡滯，喜升而惡降，喜燥而惡濕，此方得之」。

陸麗京曰「此為清陽下陷者言之，非為下虛而清陽不升者言之也。倘人之兩尺虛微者，或是癸水銷竭，或是命門火衰，若再一升提，則如大木將搖而撥其本也」。

周慎齋曰「下體痿弱虛弱者，不可用補中，必當以八味丸治之。凡內傷作瀉，藏附子於白朮中，令其守中，以止瀉也。表熱，藏附子於黃芪中，欲其走表，以助陽也」。

【截瘧七寶飲】

治已發三五次，邪漸退而脈弦滑浮大，用吐之可止。

常山（醋炒）、厚朴（薑汁炒）、青皮（炒）、陳皮、檳榔、草果、甘草（炙），酒水各半煎，露一宿服。

三四發後，已經服解散之劑，邪氣既衰，正可截之時矣。脈來弦為飲，浮為表，大為陽，故可吐。況無痰不作瘧，瘧痰為患。常山，善吐。檳榔，善墜。草果，善消。厚朴、青皮，理氣行痰之藥。陳皮、甘草，為消痰調胃之品。此惟實者與之，虛者勿與也。虛人宜參、薑各一兩，服之即止。如貧無參，用白朮代之。血虛，加當歸。

【人參養胃湯】

治因飲食飢飽傷胃而成者，名曰「胃瘧」。

人參、茯苓、半夏、甘草、蒼朮、陳皮、厚朴、藿香、烏梅、草果。

飢飽皆足以傷胃，胃傷則營衛虛而穀氣乖，乖則爭，爭則邪正分，寒熱作，而成瘧矣。藥以參、苓、甘草之甘溫，可以補胃之不足。以陳、朴、蒼朮之辛溫，可以平胃氣之有餘。半夏之辛，可使醒脾。藿香之香，可使開胃。烏梅之酸，可使收陰。草果之溫，可使消滯。

【何人飲】

截瘧如神，凡氣血俱虛，久瘧不止者，宜此主之。

人參、製首鳥、當歸、陳皮、煨薑，酒煎服。

人參，補氣。當歸，和血。陳皮，利痰。首烏，截瘧。生薑，溫煖中氣。水酒，達表通陽。

【四逆湯】

治脈沉厥逆等證。

甘草（炙）、乾薑、生附子。

四逆者，四肢逆冷，因證以名方也。凡三陰一陽證中有厥者皆用之，故少陰用以救元海之陽，太陰因以溫臟中之寒。厥陰薄厥陽，欲立亡，非此不救。至於太陽誤汗亡陽，亦用之者，以太少為水火之主，非交通中土之氣，不能內復真陽，故以生附子、生乾薑，徹上徹下，開闢群陰，迎陽歸舍，交接於十二經。反復以炙草監之者，亡陽不至於大汗，則陽未必盡亡，故可緩制留中，而為外召陽氣之良法。

通脈四逆，少陰格陽面赤，陽越欲亡，急用乾薑、生附，奪門而入，驅散陰霾。甘草監制薑、附烈性，留頓中宮，扶持太和元氣。藉蔥白入營通脈，庶可迎陽內返。推仲景之心，祗取其脈通陽返，了無餘義矣。至於腹痛加芍藥。嘔加生薑。咽痛加桔梗。利不止加人參。或涉太陰，或干陽明，或陰火僭上，或穀氣不得，非格陽症中所必有者也，故仲景不列藥品於主方之內，學者所當詳審。

王又原曰「仲景真武湯一方，於水中補火。四逆與通脈四逆二方，是於水中溫土。二方用藥無異，分兩不同，主治又別。所以然者，前方脈沉為陽氣不鼓，四逆為陽微不周，然真陽未盡亡也。君以炙草之甘溫，溫養微陽。臣以乾薑、附子之辛溫，通關節，走四肢，此因內陽微而外寒甚，故制為陽氣外達之劑。後方裏寒外熱，渾是腎中陰寒逼陽於外，故君以乾薑，樹幟中宮。臣以國老，主持中外。更以附子，大壯元陽，共招外熱返之於內。蓋此時生氣已離，存亡俄頃，若以柔緩之甘草為君，何能疾呼外陽，故易以乾薑，然必加甘草與乾薑等分者，恐喪亡之餘，薑、附之猛，不能安養。夫元氣，所謂『有制之師』也。陽微於裏，主以四逆；陽格於外，主以通脈。若內外俱寒，則又為附子湯證而非二方所主矣。其加減法內，面色赤者加蔥，後人遂以蔥白為通脈四逆，不知陽亡於外，更用蔥以助其散，則氣從汗出，而陽無由內返也。豈不誤耶？蓋白通立名，因下利脈微，用蔥白以通上下之陽，此裏寒外熱，用通脈以通內外之陽，故主方不用蔥也。宜詳辨之」。

【拯陰湯】（黃錦芳製）

治瘧疾，陰虛夜發，熱多寒少，口渴，不嘔，喃喃錯語，飲食如故。

當歸、川芎、熟地、知母、紅花（酒炒）、升麻。

邪入血分，若不從陰提出，必致陰受熱損而陰益竭。熟地補陰，以沃血之源。當歸入心，以攝血之本。川芎，行血中之氣。知母，清血分之熱。紅花，破瘀。升麻，升陽。

【四味回陽飲】

治元陽虛脫，危在頃刻者。

人參、製附子、炮乾薑、炙甘草。

附子，陽中之陽，助人參有回元之功。甘草守中，佐參、附，有補陽之力。炮薑，溫欲脫之陽，合參、附、甘草，回虛脫之氣也。

霍亂

霍亂一證，上吐下瀉而揮霍撩亂，此寒邪傷臟之病也。或內傷飲食，或寒濕傷脾，或旱潦誤中沙毒之氣。邪在中焦，上出為吐，下出為瀉，治此者，必宜以和胃健脾為主。轉筋霍亂，以足腹之筋拘攣急痛最為重候也。

【平胃散】

治濕淫於內，脾胃不能尅制，有積飲痞膈中滿者。

厚朴（薑汁炙）、陳皮、蒼朮（炒）、甘草（炙）。

胃為水土之臟，生於申。水穀之入於胃也，分為三隧，其糟粕一隧，下入小腸，傳於大腸，全賴燥火二氣變化傳送，若火不溫而金不燥，失其長生之氣，上雖有心陽以扶土，而下焦川瀆失利，則胃中泛隘而成卑濕之土，為濕滿，為濡瀉。治以蒼朮辛溫，助胃行濕，升發穀氣。厚朴苦溫，辟陰去濁，溫胃滲濕。甘草，調和小腸。陳皮，通理大腸。胃氣安常，大小腸處順，故曰「平胃」。

柯韻伯曰「《內經》以土運太過曰『敦阜』，其病腹滿；不及曰『卑監』，其病留滿痞塞。張仲景製三承氣湯，調胃土之敦阜；李東垣製平胃散，平胃土之卑監也。培其卑者而使之平，非削平之謂。猶溫膽湯用涼劑而使之溫，非用溫之謂，後之註本草者曰『敦阜之土宜蒼朮以平之，卑監之土宜白朮以培之』。若以濕土為敦阜，將以燥土為卑監耶？不審敦阜、卑監之義，因不知平胃之理矣。二朮苦甘，皆燥濕健脾之用，脾燥則不滯，所以能健運而得其平。朮，白者柔而緩，蒼者猛而悍，此取其長於發汗，迅於除濕，故以蒼朮為君耳，不得以白補赤瀉之說，為二朮拘也。厚朴，色赤苦溫，能助少火以生氣，故以為佐。濕因於氣之不行，氣行則愈，故更以陳皮佐之。甘先入脾，脾得補而健運，故以炙甘草為使。名曰『平胃』，實調脾承氣之劑歟」！

【縮脾飲】

清暑氣，除煩渴，止吐瀉，霍亂及暑月酒食所傷。

砂仁、草果（煨去皮）、烏海、甘草（炙）、扁豆（炒）、乾葛。

此足太陰陽明藥也。暑必兼濕而濕屬脾土，暑濕合邪，脾胃病矣，故治暑必先去濕。砂仁、草果，辛香溫散，利氣快脾，消酒食而散濕。扁豆，專解中宮之暑而滲濕。葛根，能升胃中清陽而生津。烏梅，清熱解渴。甘草，補土和中。

【六和湯】

治夏秋暑濕傷脾，或飲冷乘風，多食瓜果，以致客寒犯胃，食留不化，遂成痞膈、霍亂等證。

半夏（炒）、人參、甘草（炙）、砂仁、杏仁、白朮（土炒）、赤苓、扁豆（炒）、藿香、厚朴、木瓜，加薑、棗煎。

傷暑加香薷，傷冷加紫蘇。一方無白朮，一方有蒼朮。六腑不和，故用六和湯以和之也。食飲不消，和以砂仁。挾涎吐逆，和以半夏。膈氣不利，和以杏仁。胃氣不調，和以參、朮。中氣不快，和以藿香。伏暑傷脾，和以扁、朴。轉筋為患，和以木瓜。三焦蓄熱，和以赤苓。氣逆急吐，和以甘草。

【冷香飲子】

治霍亂，陰陽睽隔，煩躁，脈伏者。

附子（炮）、陳皮、甘草（炙）、草果（仝吳茱萸炒黃黑）、生薑。

井水頓冷服。

草果、陳皮，溫脾去濕定嘔。炙草、生薑，奠安脾經陰陽。以炮附子，通行經絡，交接上下。用飲子者，輕清留中也。冷服者，緩而行也。

【枇杷葉散】

治中暑伏熱，煩渴引飲，嘔噦惡心，頭目昏眩者。

枇杷葉（去毛蜜炙）、陳皮（去白焙）、丁香、厚朴（去皮薑汁炙）、白茅根、麥冬、木瓜、甘草、香薷。

胃為濕所竊據而濁穢，故用香薷。枇杷葉、丁香、白茅根之辛香，以安胃而去胃所惡之臭。

【大黃龍丸】

治中暑身熱，頭疼，狀如脾寒，或煩熱，嘔吐，昏悶不食。

舶上硫黃、硝石一兩，白礬、雄黃、滑石五錢，白麵四兩。

五味研末，入麵和勻，滴水丸如梧子大，每服三十丸，新汲井水下。

暑風一證，其卒倒類乎中風，而不可從風門索治。百一選方雖有大黃龍丸，初不為暑風立法，管見從而贊之曰「有中暍昏死，灌之立甦」，則其方亦可得暑風之一斑矣。倘其人陰血素虧，暑毒深入血分，進以此丸，豈不立至危殆乎！良方復有地榆散。

【地榆散】

治中暑，昏迷不省人事欲死者，并治傷暑煩躁，口渴，舌乾，頭痛惡心及血痢。

地榆、赤芍、黃連、青皮（去瓤）。

等分為末，每服三錢，土漿水調服。

若血痢，水煎服。

用平常涼血之藥，清解深入血分之暑風，良莫良於此矣。後有用之屢效而美其名為「潑火散」者，知言哉！夫中天火運，流金爍石，而此能潑之，益見暑風為心火暴甚，煎熬陰血，舍清心涼血之外，無可撲滅耳。

【胃苓湯】

治中暑，傷濕停飲，夾食腹痛，泄瀉及口渴，便祕。

陳皮、厚朴、甘草（炙）、蒼朮、白朮、茯苓、澤瀉、豬苓、肉桂。

此上下分消其濕也。蒼、朴、陳、草，平胃散也，以之燥脾。白朮、茯苓、豬苓、澤瀉、桂，五苓散也，以之利濕健脾，濕利而瀉自止矣。然中氣弱者，宜補中為主。

【四君加味湯】

和胃健脾，溫撤寒邪。

人參、茯苓、白朮（土炒）、甘草（炙）、炮薑、附子（製）、厚朴（薑汁炙）。

參、苓、朮、草，四君子湯也，益胃健脾。復以薑、附者溫煖真陽。更加厚朴，和胃調中。

斑痧

斑者，有觸目之色，無礙手之質，即稠如錦紋，稀如蚊跡之象也。或佈於胸腹，或見於四肢，總以鮮紅起發者為吉，色紫成片者為重。黑者為凶，青者為不治。殆傷寒瘟疫諸證，失於宣解，邪蘊於胃腑而走入營中，每有是患耳。治法，火甚清之，毒甚化之，失表者，當求之汗，失下者，必取乎攻，酌以辛涼辛勝及甘寒苦寒鹹寒等法，此繆氏耑以肺胃論治為精也。

【涼膈散】

治心火上盛，中焦燥實，煩躁，口渴，目赤，頭眩，口瘡，唇裂，吐血，衄血，大小便秘，諸風瘛瘲，胃熱發斑發狂。

連翹、大黃、芒硝、甘草、山梔、黃芩、薄荷。

煎成，入白蜜一匙，微煎溫服。

膈者，膜之橫蔽心下，周圍相著，遮隔濁氣，不使上薰心肺者也，不主十二經。凡傷寒蘊熱內閉於膈，其氣先通心、肺，膻中火燔煩熱，自當上下分消。手太陰之脈，上膈，屬肺，足厥陰之脈，上貫膈，布脇肋，循喉嚨之後，以薄荷、黃芩從肺，散而涼之。腎足少陰之脈，上貫膈，入肺中，以甘草從腎，清而涼之。手少陰之脈，下膈，絡小腸，手太陽之脈，下膈，抵胃，屬小腸，以連翹、山梔，從心之少陽，苦而涼之。手少陽之脈，下膈，循屬三焦，手厥陰之脈，下膈，歷絡三焦，以山梔、芒硝，從三焦與心包絡，瀉而涼之。足太陰之脈，上膈，挾咽，連舌本，散舌下，以甘草、大黃從脾，緩而涼之。足少陽之脈，下貫膈，屬膽，以薄荷、黃芩從膽，升降而涼之。胃足陽明之支脈，下膈，屬胃，絡大腸，手陽明之脈，下膈，屬大腸，以大黃、芒硝，從胃與大腸，下而涼之。上則散之，中則苦之，下則行之，絲絲入扣，周遍諸經，庶幾燎原之場，頃刻為清虛之府。守真力贊是方為神妙，信哉！

【升麻鱉甲湯】

統治溫厲陰陽二病。

升麻、當歸、蜀椒、甘草、鱉甲、雄黃。

升麻，入太陰陽明二經，升清逐穢。如陽毒為病，面赤斑如錦紋；陰毒為病，面青身如被杖，咽喉痛。毋論陰陽二毒皆已入營矣。但升麻僅走二經氣分，故必佐以當歸，通絡中之血，甘草，解絡中之毒，微加鱉甲，守護營神，俾椒、黃猛劣之品，攻毒透表，不亂其神明。陰毒去椒、黃者，太陰主內，不能透表，恐反助厲毒也。《千金方》陽毒無鱉甲，有桂枝者，不欲其守，亦恐留戀厲毒也。

【神香散】

治乾霍亂。

丁香七粒、白豆蔻七粒。

右為末，清湯調下，如小腹痛者，加砂仁七粒。

神香散，景岳之新方也，以之治乾霍亂、痧脹、腹痛屬於寒濕凝滯脈絡者，殊有神功，與辰砂益元散治濕熱痧脹，可謂鍼鋒相對。夫痧者，寒熱之濕氣皆可以為患，或四時寒濕凝滯於脈絡，或夏月濕熱鬱遏於經隧，或鼻聞臭氣而阻逆經氣，或內因停積而壅塞府氣，則胃脘氣逆，皆能脹滿作痛，甚至昏憒欲死。西北人以楊柳枝蘸熱水鞭其腹，謂之「打寒痧」。東南人以油碗或油線括其胸背手足內胻，謂之「刮痧」。以碗鋒及扁鍼刺舌下、指尖及曲池、委中出血，謂之「鎙痧」。更服八砂丹以治其內，是皆內外達竅以泄其氣，則氣血得以循度而行，其脹即已，非另有痧邪也。

【腎溫湯】（黃錦芳製）

治春溫因暑熱動其內氣而作，一身灼熱，口渴飲冷。

熟地、山藥、丹皮、龜版、阿膠、防風、桂枝。

經曰「冬不藏精，春必病溫」，所以溫病兩感，止在太陽、少陰之內。熱邪在腎作擾，熟地、龜版入腎，以救真陰。丹皮、阿膠，以清血分之熱。防風、桂枝，以撤太陽之標。而溫邪解矣。

【風溫湯】（葉天士製）

治風溫發痧。

薄荷、連翹、杏仁、牛蒡子、桔梗、桑白皮、生甘草、黑山梔。

此手太陰、足陽明兩經藥也。風溫之邪，治以辛涼。薄荷、桔梗，以袪風。杏仁、桑皮，以宣肺。連翹、牛蒡，以散熱。梔子，解火鬱。甘草，養胃陰。

【表裏兩救湯】（汪石山製）

治胃虛發斑，失守之火遊行於外。

人參、黃芪（炙）、白朮（土炒）、乾薑、甘草（炙）、茯苓、陳皮。

胃司受納，胃虛則倉廩匱乏，真陽失守，溢於肌肉而為斑。以五味異功加黃芪實裏。乾薑，通陽。

【清解蘊熱湯】（葉天士製）

治伏氣熱蘊三焦，發熱，煩渴，遍體赤斑，夜躁不寐。

羚羊角、犀角、連翹心、元參心、鮮生地、金銀花、天花粉、石菖蒲。

煩渴屬胃。夜躁屬心。風溫內擾，營分不靜，用犀角、生地以涼血。連翹、羚羊以清心。花粉、銀花以養胃。元參心，瀉浮遊之火。石菖蒲，通膻中之陽。

【痧後清熱湯】（葉天士製）

治痧後伏火未清，內熱身痛。

玉竹、白沙參、地骨皮、川斛、麥冬、生甘草。

肺主清肅，胃主宗筋，伏火熏灼，故內熱身痛。以沙參、地骨皮、麥冬清肺。以玉竹、生甘草、川斛清胃。

頭痛

外感有頭痛，內傷亦有頭痛。外感頭痛，有痛在陽經，有痛在陰經。內傷頭痛，有痛在陰虛，有痛在陽虛。治外感頭痛，汗以表散，清在陽而溫在陰。治內傷頭痛，調其營衛，補其陰而益其陽。

【芍蘓散】

治外有頭痛，發熱惡寒，內有咳嗽，吐痰氣洶等證。

川芎、半夏、柴胡、茯苓、蘇葉、乾葛、桔梗、陳皮、枳殼、甘草。

川芎、蘇葉、乾葛、柴胡，解表藥也，表解則頭痛發熱惡寒自愈。桔梗、半夏、陳皮、枳殼、茯苓、甘草，和裏藥也，裏和則欬嗽吐痰氣洶自除。

【加味清震湯】

治雷頭風，頭痛而起核塊，或頭中雷鳴多屬痰火者主之。

升麻、蒼朮、青荷葉、甘草（炙）、陳皮、荊芥、蔓荊子、薄荷。

河間原方止有前三味。

此足陽明藥也。升麻，性陽味甘，氣升能解百毒。蒼朮辛烈，燥濕強脾，能辟瘴癘，此局方升麻湯也。荷葉，色青氣香，形仰象震，能助胃中清陽上行。用甘溫辛散之藥，以升發之，使邪從上越，且固胃氣，使邪不傳裏也。其加味則皆疏風和胃之意。

【清空膏】

治偏正頭痛，年深不愈者。善療風濕熱上壅頭目，及腦痛不止，若血虛頭痛者，非此所宜。

羌活、防風、柴胡、黃芩（半生半炒）、川芎、甘草（炙）、黃連（酒炒）。

此足太陽、少陽藥也。頭為六陽之會，其象為天，乃清空之位也。風寒濕熱干之，則濁陰上壅而作實矣。羌、防入太陽，柴胡入少陽，皆辛輕上升祛風勝濕之藥。川芎入厥陰，為通陰陽血氣之使。甘草入太陰，散寒而緩痛。辛甘發散為陽也，芩、連苦寒，以羌、防之屬升之，則能去濕熱於高巔之上矣。

【半夏白朮天麻湯】

治眩暈及痰厥頭痛。

半夏、白朮、天麻、陳皮、茯苓、甘草（炙）、蔓荊子，加薑、棗煎。

此足太陰藥也。痰厥頭痛，非半夏不能除。頭旋眼黑，虛風內作，非天麻不能定。白朮，甘苦而溫，可以除痰，亦可以益氣。茯苓，瀉熱導水。陳皮，調氣升陽。蔓荊，除風。甘草，和諸藥。合二陳意也。

【普濟消毒飲】

治大頭天行，初覺憎寒體重，次傳頭面腫盛，目不能開，上喘，咽喉不利，口渴，舌燥。

甘草（生）、桔梗、黃芩（酒炒）、黃連（酒炒）、馬勃、元參、橘紅、柴胡、升麻、連翹、牛蒡子、炒薄荷、殭蠶、板藍根。

程鐘齡加用貝母、人中黃、荷葉。體虛加人參。身半以上，天之氣也；身半以下，地之氣也。此邪熱客於心肺之間，上攻頭而為腫盛也。芩、連苦寒，瀉心肺之熱為君。元參苦寒，橘紅苦辛，甘草甘寒，瀉火補氣為臣。連翹、薄荷、鼠粘，辛苦而平，藍根甘寒，馬勃、殭蠶苦平，散腫消毒定喘為佐。升麻、柴胡苦平，行少陽、陽明二經之陽氣不得伸。桔梗辛溫，為舟楫，不令下行，為載也。

【導濕湯】（黃錦芳製）

治左腦頭痛，水氣上逆，痛如鍼刺，腹中覺有水響如雷。

茯苓、半夏、牛膝、車前子、熟附子、龍骨（煅）、炙龜版、厚朴、大腹皮。

此本陰勝，逆而上衝，凡一切假陰假陽，皆在此處見端。用茯苓、半夏，以洩脾濕之水。牛膝、車前，以引陰氣下行，而不上干清陽。水盛則火必衰，故附子在所必用。陰無陰物靜攝，則陽必上湊，故龜版、龍骨在所必投。而又慮其氣滯，故厚朴、大腹皮在所必施。

【救元補體湯】

治頭痛昏憒，心主不明則十二官危，此方救之。

熟地、人參、當歸、茯苓、麥冬、棗仁（炒）、附子（製）、鹿茸、五味子、桂圓肉、紫河車。

腎氣不充而髓海空虛者，以熟地、人參，兩儀陰陽，大補氣血。頭為諸陽之會，鹿茸稟天春升之木氣，味甘可以養血，氣溫可以導火。熟附，輔陽。當歸、棗仁，補肝血。茯苓、麥冬，清心神。五味，斂心氣。桂圓肉，味甘益脾。紫河車，味厚益陰，甘鹹培脾腎，氣溫暢肝氣，陰陽和諧而虛靈復矣。

【醒迷湯】

治頭痛厥逆，痰聚胞絡，目定口噤，手足冷過肘膝，陽氣虛寒者宜之。

人參、白朮（土炒）、當歸、茯苓、白芍（炒）、半夏（炒）、杜仲（炒）、陳皮、棗仁（炒）、甘草（炙）、附子（製）、煨薑、大棗。

腎陽不壯而寒氣通腦者，以陳、夏、苓、草，上達肺金，有祛痰理氣之功。參、朮健脾，脾旺而痰自化。歸、芍，和肝。棗仁，養心。附子辛熱，散寒濕。杜仲辛潤，堅筋骨。薑、棗，和營衛。如此則陽復而機關利，陰充而厥逆回矣。

【既濟豁痰湯】

治頭痛厥逆，痰聚胞絡，目定口噤，手足冷不過肘膝，陰虛有火者宜之。

生地、白芍（炒）、茯神、鉤藤、丹皮、當歸、柏子仁、棗仁（炒）、龜版（炙）、竹瀝。

腎陰不足而陰火衝逆者，以生地甘寒，瀉腎火。丹皮辛涼，瀉膽火。歸、芍益血，即以熄內風。茯神、柏子、棗仁，入心包絡。鉤藤、竹瀝，可以清熱緩急。病屬於火，火熾風生，以此主之。

【貞元飲】

治氣短似喘，呼吸急促，提不能升，嚥不能降，氣道噎塞，勢劇垂危者。

熟地、當歸、炙甘草。

此元海無根，虧損肝腎，子午不交，氣脫之侯。熟地，大補腎中元氣，滋培真陰以歸元。當歸，養肝腎之營血。甘草，和中補氣以歸根，氣虛喘急，真元失守者可復矣。

胃脘痛

胃與胞絡近。陽明中土，乃水穀之道路，多氣多血，運化精微，而痛有寒熱、氣血、食滯、內虛之不同，在男子又有虛火上逆，婦人又有肝陽上升。不知肝主疏泄，鬱則木不舒而侮所不勝。腎為胃關，虛則精氣耗而累及中土。至於氣分有餘之痛，香砂可用；不足之痛，參、附勿疑。血分有餘之痛，桃仁取效；不足之痛，歸、地奏功。此病原病情不可不察也。

【栝蔞薤白白酒湯】

治胸痺，喘息，欬唾，胸背痛，短氣。

栝蔞實、薤白、白酒。

【栝蔞薤白半夏湯】

治胸痺不得臥，心痛徹背。

栝蔞實、薤白、半夏、白酒。

【枳實薤白桂枝湯】

治胸痺，氣結在胸，胸滿，脇下逆搶心。

枳實、厚朴、薤白、桂枝、栝蔞實。

胸痺三方，皆用栝蔞實、薤白，按其治法，卻微分三焦。《內經》言「淫氣喘息，痺聚在肺」，蓋謂妄行之氣，隨各臟之內因所主而入為痺，然而病變有不同，治法亦稍異。止就肺痺喘息咳唾胸背有短氣者，君以薤白，滑利通陽。臣以栝蔞實，潤下通陰。佐以白酒，熟穀之氣，上行藥性，助其通經活絡而痺自開。若轉結中焦而為心痛徹背者，但當加半夏一味，和胃而通陰陽。若結於胸脇，更加逆氣上搶於心，非但氣結陽微，而陰氣并上逆矣，薤白湯無足稱也，須以枳實、厚朴，先破其陰氣，去白酒之醇，加桂枝之辛，助薤白、栝蔞，行陽開痺，較前法之從急治標，又兼治本之意焉。

喻嘉言曰「胸中陽氣，如離照當空，曠然無外，設地氣一上，斯窒塞有加。故知胸痺者，陰氣上逆之候也。仲景微則用薤白、白酒，以益其陽，甚則用附子、乾薑，以消其陰，世醫不知胸痺為何病，習用荳蔻、木香、訶子、三稜、神麴、麥芽等藥，至耗其胸中之陽，亦相懸矣」。

【補肝湯】

治寒厥心痛。

桃仁、桂心、柏子仁、茯苓、甘草、萸肉、細辛、防風、大棗。

〈舉痛論〉厥痛計一十三條，止有二條為熱，餘皆為寒。其寒熱厥氣犯胃而痛，惟肝臟為最多。熱厥痛者，用金鈴子散；寒厥痛者，用補肝湯，皆應手取愈。但寒厥不以辛散之而以辛補之者，以肝為剛臟，與之辛散剛劑，傷其陰，必動其厥陽，非治也。〈六元正紀大論〉曰「木鬱之發，民病胃脘痛，上支兩脇」，明示肝木鬱於胃土中也。當以辛潤補肝，瀉去胃中肝邪，痛乃止。桃仁、柏子仁辛潤，以補肝陰。肉桂、山萸辛溫，以補肝陽。甘草、大棗，甘能和胃，緩肝之急。防風，能於土中瀉木。細辛，益膽氣以泄肝。全方皆辛潤入絡之藥，補肝陰而利導之，得辛即可達鬱，非必以辛散為達木之鬱也。

【金鈴子散】

治熱厥心痛。

川楝子（去核）、延胡索。

為末，每服三錢，溫酒調服。

金鈴子散，一泄氣分之熱，一行血分之滯。《雷公炮炙論》云「心痛欲死，速覓延胡」。潔古復以金鈴治熱厥心痛。經言「諸痛瘡癢，皆屬於心」，而熱厥屬於肝逆，金鈴子非但泄肝，功專導去小腸膀胱之熱，引心包相火下行。延胡索，和一身上下諸痛，時珍曰「用之中的，妙不可言」，方雖小制，配合存神，卻有應手取愈之功，勿以淡而忽之。

【小陷胸湯】

治心痞，按之則痛，脈浮滑者。

黃連、半夏、栝蔞實。

結胸按之始痛者，邪在脈絡也，故小陷胸止陷脈絡之邪，從無形之氣而散。栝蔞生於蔓草，故能入絡。半夏成於坤月，故亦通陰。二者性皆滑利，內通結氣，使黃連直趨少陰，陷脈絡之熱，攻雖不峻，胸中亦如陷陣，故名「陷胸」。僅陷中焦脈絡之邪，不及下焦，故名「小」。

程扶生曰「此熱結未深者，在心下，不若大結胸之高在心上，按之痛，比手不可近為輕。脈之浮滑，又緩於沉緊，但痰飲素盛，挾熱邪而內結，所以脈見浮滑也。以半夏之辛，散之。黃連之苦，瀉之。栝蔞之苦，潤條之。所以除熱散結於胸中也。先煮栝蔞，分溫三服，皆以緩治上之法」。

【大無神朮散】

治發熱頭痛，傷食停飲，胸滿腹痛，嘔吐瀉利，並能解穢驅邪，除山嵐瘴氣。

蒼朮（土炒）、陳皮、厚朴（薑汁炒）、甘草（炙）、藿香、砂仁。

蒼朮之燥，克制其瘴霧之邪。厚朴之苦，削平其敦阜之氣。藿香、砂仁，辛香物也，能匡正而辟邪。陳皮、甘草，調脾藥也，能補中而泄氣。此方但用理脾之劑而瘴毒自解矣。

【安胃湯】（王晉三製）

治厥陰，飢不欲食證。

川椒（炒去汗）、安吉烏梅（去核）、人參、川黃連、枳實、生淡乾薑。

安胃者，毋使乘勝之氣犯胃也。倦不思食，無不由於脾胃為病，然揆其寒熱虛實，郤有盛衰，初無定理，惟就厥陰之「飢不欲食」一證，遵仲景甲己化土之論，忝東垣治脾胃之說為疏一方。川椒之辛，佐烏梅之酸，行陰以瀉肝。枳實、乾薑，助人參行陽道以益氣。黃連，於脾胃中瀉心火之亢，清脾胃生化之源。統論全方，辛酸同用，以化肝氣，酸甘相輔，以和胃氣，肝化胃和，自能進食。

【附子粳米湯】

治腹中寒氣，雷鳴切痛，胸脇逆滿，嘔吐，溫胃、通陽於腎之劑。

附子（製）、半夏（炒）、甘草（炙）、大棗（去核）、粳米。

腎虛，寒動於下，胃陽為寒凝窒，虛寒從下上也。治以附子之溫，半夏之辛，佐以粳米之甘，使以甘草、大棗緩而行之。上可去寒止嘔，下可溫經定痛。

【和陰理脾煎】（黃錦芳製）

治胃痛，陰火不收，胸中掣痛。

麥冬、白芍（炒）、伏龍肝、製首烏、牛膝、廣皮、茯苓。

脾有寒濕，肝有燥熱。茯苓、廣皮，以理脾濕。首烏、芍藥，以潤肝燥。麥冬，滋液。牛膝，收陰。伏龍肝，去濕。此方辛不致燥，涼不致寒，滋不致滯，所謂「運神奇於平淡」也。

【疏肝益胃湯】（新製）

治胃痛，嘔吐酸水。

人參、半夏（炒）、茯苓、廣皮、吳茱萸、白芍（炒）、淡乾薑、木瓜、烏梅肉。

人參，養胃。半夏、茯苓，通陽明。白芍、木瓜，泄厥陰。乾薑，煖胃。吳茱萸，溫肝。廣皮，辛通。烏梅，酸收。化肝和胃，自能已痛止嘔。

【攝陰湯】（黃錦芳製）

治陰維陽損，痛處喜按。

人參、當歸、鹿茸、茯苓、補骨脂、紫石英。

人身左陽右陰，病在心陰，陽浮陰沉。病在心陰之裏，正是陰維陽損，不能自持。諸陰，用人參，以補陰中之氣。當歸，以補陰中之血。鹿茸，以補陰中之陽。茯苓，以滲陰中之濕。紫石英醋煅，以降胸腹久聚之氣，下入至陰而從二便內出。補骨脂，能補命門相火，及降心腹之氣下行於右，故能統攝諸陰之脈，使之不至渙散無主也。

【通補血絡湯】（葉天士製）

治腹中徹痛，右脇蠕動，陽明脈絡空虛，衝任無貯。

人參、當歸、茺蔚子、香附（醋炒）、茯苓、小茴、生杜仲、白芍（炒）、肉桂。

人參、茯苓，通補陽明。歸身、白芍，柔和厥陰。香附、小茴，辛以走絡。肉桂、杜仲，溫以煖肝。茺蔚子活血順氣。

脇痛

傷寒脇痛，屬少陽經受邪。雜證脇痛，左為肝氣不和，右為肝移邪於肺。凡治實證脇痛，左用枳殼，右用鬱金。虛寒作痛，得溫則散，按之則止者，又宜溫補。大抵痛在氣分者，治在氣，血藥不宜用也。痛在血分者，治在血，氣藥不宜用也。痛而吐酸者，木淩脾也。痛而寒熱譫語者，婦人熱入血室也。蓋甘可緩中，則木氣調達，自然右降而左升矣。

【柴胡疏肝散】

治左脇肋疼痛，寒熱往來。

柴胡、陳皮、川芎、赤芍、枳殼、香附（醋炒）、炙甘草。

柴胡、川芎，分入少陽厥陰。枳殼，消刺痛。赤芍，瀉肝火。陳皮、香附，調和氣血。甘草，散結。

【推氣散】

治右脇痛。

枳殼、鬱金、桂心、甘草（炙）、桔梗、陳皮、薑、棗。

鬱金辛苦，以散肝鬱。肉桂辛甘，以療脇疼。枳殼，寬膈。桔梗，開提氣血。陳皮、甘草，和中。薑、棗，和營衛。

【大半夏湯】

痰飲兼治。

半夏、人參、白蜜。

水和蜜，揚之二百四十遍，煮藥。

大半夏湯，通補胃腑之藥，以人參、白蜜之甘，厚於半夏之辛，則能兼補脾臟，故名其方曰「大」。以之治胃反者，胃中虛冷，脾因濕動而不磨穀，胃乃反其常道而為朝暮吐。朝暮者，厥陰肝氣盡於戌，王於丑也。宿穀藉肝氣上升而乃吐出，主之以半夏，辛溫利竅除寒。人參，扶胃正氣。佐以白蜜，揚之二百四十遍，升之緩之，俾半夏、人參之性，下行不速，自可幹旋胃氣，何患其宿穀不消，肝氣僭升也乎！

【四磨飲】

治七情感傷，上氣喘急，妨悶不食。

人參、檳榔、沉香、烏藥。

王又原曰「七情隨所感，皆能為病。然愈於壯者之行，而成於弱者之著。愚者不察，一遇上氣喘急，滿悶不食，謂是實者宜瀉，輒投破耗等藥，得藥非不暫快，初投之而應，投之久而不應矣。夫呼出為陽，吸入為陰，肺陽氣旺則清肅下行歸於腎陰，是氣有所收攝，不復散而上逆，若正氣既衰，邪氣必盛，縱欲削堅破滯，邪氣必不伏，方用人參，補其正氣，沉香，納之於腎，而後以檳榔、鳥藥，從而導之。所謂實必顧虛，瀉必先補也。四品，氣味俱厚，磨則取其味之全，煎則取其氣之達，氣味齊到，效如桴鼓矣。其下養正丹者，煖腎藥也。本方補肺氣養正，溫腎氣鎮攝歸根，喘急遄已矣」。

【補腎湯】（黃錦芳製）

治右脇作痛，欬嗽，頭痛，嗽必努力，痰則清稀。

製附子、茯苓、半夏、木香、牛膝、補骨脂。

痰雖在脇、在胃、在脾而實歸於腎火之衰，故用附子，迅補真火以強土。茯苓、半夏，以除脾濕。木香，以疏中州濕滯之氣。牛膝，以引左氣，下行歸腎。骨脂，以引右氣，下行歸腎。藥雖數味，針芥不差。

【補肝散】

治肝無血養，脇痛因於虛者。

熟地、白朮（土炒）、棗仁（炒）、當歸、川芎、黃芪（炙）、山藥、五味子（炒杵）、萸肉、木瓜。

參、朮，補氣，益以山藥崇土，以培生血之源。熟地，甘以補肝。芎、歸，辛以補肝。棗仁、萸肉，酸以補肝。五味，滋腎水。木瓜，利筋骨。

【三陰煎】

治肝脾虛損，精血不足及營虛失血等證。三從木數，故曰「三陰」。

人參、熟地、當歸、白芍（炒）、棗仁（炒研）、甘草（炙）。

人參，大補元氣。熟地，大補真陰。當歸，止血。芍藥，平肝。炙甘草，調和營衛。棗仁，收攝脾元。

【左金丸】

治肝熱，左脇疼，欬嗽等證。

黃連（酒炒）、吳茱萸（鹽水炒）。

薑湯法丸。

經脈循行，左升右降，藥用苦辛肅降，行於升道，故曰「左金」。吳茱萸，入肝散氣，降下甚捷。川黃連，苦燥胃中之濕，寒勝胃中之熱。臟惡熱而用熱，腑惡寒而用寒，是謂「反治」，乃損其氣以泄降之，七損之法也。當知可以治實，不可以治虛，若勿論虛實而用之，則誤矣。

胡天錫曰「此瀉肝火之正劑。肝之治有數種，水衰而木無以生，地黃丸，癸乙同源是也。土衰而木無以植，參苓甘草散，緩肝培土是也。本經血虛有火，用逍遙散清火；血虛無水，用歸脾湯養陰。至於補火之法，亦下同乎腎，而瀉火之治，則上類乎心。左金丸，獨用黃連為君，從實則瀉子之法，以直折其上炎之勢。吳茱萸，從類相求，引熱下行，并以辛溫開其鬱結，懲其扞格，故以為佐。然必木氣實而土不虛者，庶可相宜。左金者，本從左而制從金也」。

【越鞠丸】

治藏府一切痰、食、氣、血諸鬱，為痛，為嘔，為脹，為利者。

香附、蒼朮、撫芎、山梔仁、神麴。

水法丸。

季楚重曰「《內經》論『木鬱達之』五句，前聖治鬱之法最詳。所謂鬱者，清氣不升，濁氣不降也。然清濁升降皆出肺氣，使太陰失治節之令，不惟生氣不升，收氣亦不降，上下不交而鬱成矣。故經云『太陰不收，肺氣焦滿』，又云『諸氣膹鬱，皆屬於肺』。然肺氣之布，必由胃氣之輸；胃氣之運，必本三焦之化。甚至為痛、為嘔、為脹、為利，莫非胃氣不宣，三焦失職。所致方中，君以香附，快氣調肺之怫鬱。臣以蒼朮，開發強胃而資生。神麴，佐化水穀。梔子，清鬱導火，於以達肺騰胃而清三焦，尤妙。撫芎之辛，直入肝膽，以助妙用。則少陽之生氣上朝而營衛和，太陰之收氣下肅而精氣化，此丹溪因五鬱之法而變通者也。然五鬱之中，金木尤甚，前人用逍遙散調肝之鬱，兼清火滋陰；瀉白散清肺之鬱，兼潤燥降逆。要以木鬱上衝，即為火；金鬱斂澀，即為燥也。如陰虛不知滋水，氣虛不知化液，是又不善用越鞠矣」。

吐蚘

邪熱在胃，蚘為熱迫，上逆而出，宜清熱逐邪，熱退而蚘自安。亦有胃寒者，蚘在胃而不在厥陰，即投理中湯。若邪傳厥陰，胃中寒冷，蚘亦不能自安，宜溫胃補肝腎，餘邪始退，蚘蟲亦安，此治厥陰虛寒大虛之吐蚘也。夫內傷吐蚘，責在脾而先責在腎；時令吐蚘，治在邪而先治在正。

【理中安蚘散】

治胃寒吐蚘。

人參、白木（土炒）、茯苓、乾薑、川椒、鳥梅。

川椒，通上焦君火之陽。人參、乾薑，溫中焦脾胃之陽。茯苓味淡，以勝白朮之苦。烏梅味酸，急瀉厥陰，不欲其緩而蚘自安矣。

【烏梅丸】

治傷寒厥陰證，寒厥吐蚘，亦治胃腑發欬，欬而嘔，嘔甚則長蟲出，亦主久痢。

烏梅、細辛、桂枝、附子、人參、黃柏、黃連、川椒、乾薑、當歸。

烏梅，漬醋益其酸，急瀉厥陰，不欲且緩也。桂、椒、辛、附、薑，重用辛熱，升達諸陽，以辛勝酸，又不欲其收斂陰邪也。桂枝、蜀椒，通上焦君火之陽。細辛、附子，啟下焦腎中生陽。人參、乾薑、當歸，溫中焦脾胃之陽。則連、柏瀉心滋腎，更無亡陽之患，而得厥陰之治法矣。合為丸服者，又欲其藥性逗留胃中以治蚘厥。俾酸以縮蚘，辛以伏蚘，苦以安蚘也。至於臟厥，亦由中土不得陽和之氣，一任厥陰肆逆也。以酸瀉肝，以辛散肝。以人參補土緩肝。以連、柏監制五者之辛熱，過於中焦而後分行於足三陰。臟厥雖危，或得溫之散之，補之瀉之，使之陰陽和平，焉有厥不止耶！

柯韻伯曰「六經惟厥陰為難治，其本陰，其標熱，其體木，其用火，必伏其所主而先其所因，或收或散，或逆或從，隨所利而行之，調其中氣，使之和平，是治厥陰法也。厥陰當兩陰交盡，又名『陰之絕陽』，宜無熱矣。第其具合晦朔之理，陰之初盡，即陽之初生，所以一陽為紀，一陰為獨使，則厥陽病熱是少陽使然也。火王則水虧，故消渴。氣上撞心，心中疼熱，氣有餘便是火也。木盛則剋土，故饑不欲食。蟲為風化，飢則胃中空虛，蚘聞食臭出，故吐蚘。仲景立方皆以辛甘苦味為君，不用酸收之品，而此用之者，以厥陰主肝木耳。〈洪範〉曰『木曰曲直作酸』，︽內經︾曰『木生酸，酸入肝』。君鳥梅之大酸，是伏其所主也。配黃連，瀉心而除疼。佐黃柏，滋腎以除渴。先其所因也。腎者，肝之母，椒、附以溫腎，則火有所歸而肝得所養，是固其本。肝欲散，細辛、乾薑，辛以散之。肝藏血，桂枝、當歸，引血歸經也。寒熱雜用，則氣味不和，佐以人參，調其中氣。以苦酒漬烏梅，同氣相求。蒸之米下，資其穀氣。加蜜為丸，少與而漸加之，緩則治其本也。蚘，昆蟲也，生冷之物與濕熱之氣相成，故藥亦寒熱互用，且胸中煩而吐蚘，則連、柏是寒因熱用也。蚘得酸則靜，得辛則伏，得苦則下，信為化蟲佳劑。久利則虛，調其寒熱，酸以收之，下利自止」。

【清熱安蚘湯】（汪蘊谷製）

治邪熱在胃，蚘為熱迫，不能自容，上逆而出。

麥冬、丹皮、貝母、黑豆、甘草、銀花、黃連、地骨皮、黃泥。

胃熱有餘而吐蚘，麥冬、貝母，以清胃。丹皮、地骨，以清熱。甘、豆、銀花、黃土，以解陽明熱邪。黃連大苦，制蚘且瀉心火。如此則胃和而蚘自安矣。

【溫胃理中湯】（汪蘊谷製）

治老稚體弱之人，邪傳厥陰，胃中寒冷，蚘不能安。

人參、白朮（土炒）、炮薑、甘草（炙）、附子（製）、肉桂、丁香、烏梅。

理中者，所以理中焦之陽氣也。參、朮、薑、草，溫胃以除寒。復以桂、附、丁香辛熱，大煖胃陽，以逐其錮冷沉寒之氣。如此則離照當空，陰霾潛消矣。烏梅味酸，安蚘止嘔。

【八味加味湯】（汪蘊谷製）

治厥陰虛寒大虛之吐蚘也。

熟地、萸肉、茯苓、山藥、丹皮、附子、肉桂、澤瀉、人參、黃芪（炙）、白朮（土炒）、菟絲子、枸杞。

八味地黃湯，益火以消陰翳。復以參、朮、芪，溫補脾陽。菟絲、枸杞，溫補肝腎之陽。胃中得溫而蚘自止。

【除濕清火湯】（黃錦芳製）

治蟲由木盛乘虛侮脾，晝時小腹苦痛，飲食不思。

廣皮、半夏、枳殼、厚朴、大黃、黃連、赤芍、丹皮。

痛本屬蟲而燥氣通之。便閉不解，用廣皮、半夏，以除脾濕。枳殼、厚朴，以除脾滯。大黃，以除久閉之熱。黃連、赤芍、丹皮，以清心肝二經之火。大便通而腹痛止矣。

【集效丸】

治蟲嚙腹痛，作止有時，或耕起往來。

大黃（炒）、鶴虱（炒）、檳榔、訶子皮、蕪荑（炒）、木香、乾薑（炒）、附子。

蜜丸，食前烏梅湯下，婦人醋湯下。

此手足陽明藥也。蟲喜溫惡酸而畏苦，故用薑、附之熱，以溫之。烏梅、訶皮之酸，以伏之。大黃、檳榔、蕪荑、鶴虱之苦，以殺之。木香辛溫，以順其氣也。

【掃蟲煎】

治諸蟲上攻，胸腹作痛等證。

青皮、小茴、吳茱萸、檳榔、烏藥、榧肉、烏梅、甘草、硃砂、雄黃。

青皮、烏藥，止心腹之疼痛。小茴、檳榔，入膈而殺三蟲。榧肉，潤肺。甘草，和中。吳茱萸，助陽。烏梅，酸收。皆殺蟲之聖品。硃砂，安神袪蠱。雄黃，化瘀解毒。

疫證

疫乃天地不正之氣，四特皆有，能傳染於人，以氣感召，從口鼻而入。醫家概認作傷寒，治誤矣。惟先補正氣，正旺則內臟堅固，邪無由而入，陰回則津液內生，邪不攻而卻。徜救陰不效，則扶陽補脾。須知邪客上焦，乃清虛之府，故用芳香以解之。邪客中下二焦，乃濁陰之所，必項以穢解穢而穢氣始除。此收效萬全之策也。

【救疫湯】（汪蘊谷製）

此先補正氣之治。

黑豆、綠豆、白扁豆、貝母、生甘草、金銀花、丹皮、當歸、玉竹、生首烏、黃土、赤飯豆、老薑。

泄瀉者，當歸易丹參。

四豆、黃土，隱分五方之色。黑豆、綠豆、甘草、銀花、黃土，一派甘寒，分解足陽明足少陰毒邪。當歸、丹皮，和血涼血。首烏益陰，直解營分毒邪。扁豆、貝母、玉竹，甘養肺胃，以生津液。赤飯豆，利水道。用老薑一味通陽。

【乾一老人湯】

解毒扶元，初發熱者宜之。

金銀花、生甘草、黑大豆、鮮黃土。

甘寒甘平以解熱毒之邪，把守少陰門戶，誠妙方也。

【扶元逐疫湯】（汪廣期製）

扶正托邪，所以顧人氣之虛，病氣之毒也。

黃芪（炙）、升麻（蜜水炒）、白朮（土炒）、柴胡（蜜水炒）、陳皮（炒）、玉竹、沙參、甘草（炙）、當歸，加薑、棗煎。

法東垣「邪之所湊，其氣必虛」之旨，於補中益氣，復以玉竹、沙參，以救胃津。所謂「治病必求其本」也。

【治疫清涼散】（程鍾齡製）

治天氣、病氣，兩邪歸併於裏，腹脹滿悶，譫語發狂，唇焦口渴者，宜之。

蓁艽、赤芍、知母、貝母、連翹、荷葉、丹參、柴胡、人中黃。

如傷食胸滿，加麥芽、山查、蘿蔔子、陳皮。

脇下痞，加鱉甲、枳殼。

昏憒譫語，加黃連。

熱甚大渴，加石膏、天花粉、人參。

便閉不通，腹中脹痛者，加大黃下之。

虛人自汗多，倍加人參。

津液枯少，加麥冬、生地。

人中黃，甘寒入胃，能解五臟實熱。柴胡、秦艽，撤寒熱邪氣。知母、貝母，存津液，以杜劫灼。丹參、赤芍，和營。連翹，瀉火。荷葉，升發胃氣。

【芬芳清解湯】（葉天士製）

治上受穢邪，逆走膻中，神躁，暮昏，當清血絡，以防結閉。

犀角（鎊）、連翹、生地、元參、石菖蒲、鬱金、銀花、金汁。

邪犯膻中，神識不清，犀角、生地，涼心血以去熱。菖蒲、鬱金，通心氣以除穢。連翹、元參，以清血絡。銀花、金汁，以解毒邪。

【小建中湯】

治虛勞裏急，腹痛失精，四肢痠疼，手足煩熱，咽乾口燥等證。

膠飴、甘草（炙）、桂枝（去皮）、白芍（炒）、大棗、生薑。

虛勞自汗，加人參。

諸虛羸瘠，加黃芪。

婦人血虛自汗，加當歸。

建中者，建中氣也。名之曰「小」者，酸甘緩中，僅能建中焦營氣也。前桂枝湯是芍藥佐桂枝，今建中湯是桂枝佐芍藥，義偏重於酸甘，專和血脈之陰。芍藥、甘草，有戊己相須之妙。膠飴，為稼穡之甘。桂枝為陽木，有甲己化土之義，使以薑、棗，助脾與胃行津液者，血脈中之柔陽皆出於胃也。

柯韻伯曰「桂枝湯為治表而設，佐以芍藥者，以自汗故耳。自汗本表證而所以自汗者，因於煩，煩則由裏熱也。此湯倍芍藥加膠飴名曰『建中』，則固為裏劑矣。然由傷寒內熱雖發而外寒未除，勢不得去薑、棗，以未離於表而急於建中，故以小名之。其劑不寒不熱，不補不瀉，惟甘以緩之，微酸以收之，故名曰『建』耳。所謂『中』者有二。一、心中悸而煩，煩則為熱，悸則為虛。是方，辛甘以散太陽之熱，酸苦以滋少陰之虛，是建膻中之宮城也。一、腹中急痛，急則為熱，痛則為虛。是方，辛以散厥陰之邪，甘以緩肝家之急，苦以瀉少陽之火，酸以致太陰之液，是建中州之都會也。若夫中氣不足，勞倦所傷，非風寒外襲者，《金匱》加黃芪以固腠理而護皮毛，則亡血失精之症自安，此陽密乃固之理也」。

汪訒庵曰「此足太陰陽明藥也。脾欲緩，急食甘以緩之，故以飴糖為君，甘草為臣。桂枝辛熱，辛，散也，潤也，營衛不足，潤而散之。芍藥酸寒，酸，收也，泄也，津液不通，收而行之。故以桂、芍為佐。生薑辛溫，大棗甘溫。胃者衛之源，脾者營之本。衛為陽，益之必以辛；營為陰，補之必以甘。辛甘相合，脾胃健而營衛通，故以薑、棗為使」。

痺證

痺者，閉也。風寒濕三氣雜至，合而為痺也。其風氣勝者為行痺，遊走不定也。寒氣勝者為痛痺，筋骨攣痛也。濕氣勝者為著痺，浮腫重墜也。治行痺者，散風為主，除寒祛濕佐之。治痛痺者，散寒為主，疏風燥濕佐之。治著痺者，燥濕為主，袪風散寒佐之。然攻表耗元過多，以致真陰欲竭，真陽欲脫者，又宜壯水益陰，補氣生陽，斯根本不搖矣。

【蠲痺湯】

通治風寒濕三氣合而成痺。

黃芪、防風、當歸、羌活、赤芍、炙甘草、片子薑黃（炒）、生薑、大棗。

蠲，去之疾速也。痺，濕病也，又言痛也。三者，兼內外因而言，非獨言外因也。蓋有肝虛生風，腎虛生寒，脾虛生濕，抑或有諸內因而兼外邪為痺，即經言「邪之所湊，其氣必虛」耳。蠲痺湯，為治痺祖方。黃芪，實衛。防風，袪風。當歸，和營。羌活，散寒。赤芍，通脈絡之痺。片子薑黃，通經隧之痺。甘草，和藥性。薑、棗，和營衛。其義從「營虛則不仁，衛虛則不用」立法，豈非痺屬內外因也乎！

【六物附子湯】

治陽氣衰於下，令人寒厥，從五指至膝上寒者。

附子、肉桂、防己、白朮、炙甘草、茯苓。

進退消長者，陰陽之理也。故陽氣衰之者，陰必湊之，令人五指至膝上皆寒，名曰「寒厥」。寒厥者，寒氣逆於下也。附子、肉桂，辛熱之品也，故用之以壯元陽。防己、甘草、白朮、茯苓，甘溫燥滲之品也，可佐之以平陰翳。

【松枝酒】

治白虎歷節風，走注疼痛，或如蟲行，諸般風氣。

松節、桑枝、桑寄生、鉤藤、續斷、青木香、天麻、金毛狗脊、虎骨、秦艽、海風藤、菊花、五加皮、當歸。

痛耑在下，加牛膝效。每藥一兩，用生酒二觔煮，退火，七日飲。

松節、桑枝，以治風濕。鉤藤、菊花，以熄內風。當歸、秦艽，所謂「治風先治血，血行風自滅」。虎骨，追風。天麻，定風。狗脊，益血，強機關。續斷，補肝，理筋骨。五加皮，袪風而勝濕。海風藤、桑寄生，和血脈而除痺痛。用木香，所以調氣也。

【清熱定痛湯】

治脈數有力，歷節白虎痛風證。

生地、元參、麥冬、知母、黃連、石膏、黃柏、黃芪（炙）、甘草（炙）、大棗。

陽明主宗筋，筋熱則四肢緩縱痛，歷關節而為熱痺也。以石膏、知母、生地、麥冬，清陽明之積熱。以元參、黃連、黃柏，降有餘之實火。大隊寒涼之中，必用扶脾，故用黃芪、甘草、大棗，甘以緩之。

【參朮壯氣湯】（葉天士製）

治風濕阻遏經隧，為腫為痛。

人參、生白朮、黃芪（炙）、桂枝、當歸（炒）、甘草（炙）、煨薑、南棗。

參、朮、芪，補氣以實衛陽，則藩籬固而邪無由乘矣。桂枝、甘草，辛甘和陽。當歸，通絡。薑、棗，和營衛。

【通補溫絡湯】（葉天士製）

治痺痛止而行走痿弱無力。

黃芪（炙）、茯苓、生白朮、甘草（炙）、淡蓯蓉、當歸、牛膝、仙靈脾、虎骨膠、金狗脊。

行走痿弱，有屬肝腎陽不足者。肉蓯蓉，生精補陽。仙靈脾，專益精氣。金狗脊，能健筋骨。虎骨膠，追風定痛。芪、朮、苓、草，以護持脾陽。當歸、牛膝，以通達肝絡。

痿證

痿病之來，確在筋脈之間。肺葉之脈絡焦枯，不欬嗽者尚輕。痿手者少，痿足者多，蓋下部屬肝腎，根由陰虧而髓空，筋為熱灼，未有不痿躄者也。經曰「治痿獨取陽明」者，陽明主潤宗筋，宗筋生束骨而利機關也。取陽明者，所以袪胃土之濕。丹溪瀉南補北者，壯水之主，以鎮陽光，火歸窟宅，金不受刑，所以清肺金之熱皆良法耳。

【虎潛丸】

治精血不足，筋骨痿弱，足不任地及骨蒸勞熱。

龜版、瑣陽、熟地、黃柏（炒褐色）、知母、牛膝、白芍、虎骨（酒炙酥）、當歸、陳皮、羯羊肉（酒煮爛），搗丸，鹽酒下。冬加乾薑一兩。

黃柏、知母、熟地，所以壯腎水而滋陰。當歸、白芍、牛膝，所以補肝虛而養血。牛膝，又能引諸藥下行，以壯筋骨，蓋肝腎同一治也。龜得陰氣最厚，故以補陰而為君。虎得陰氣最強，故以健骨而為佐。用脛骨者，其氣力皆在前脛，故用以入足，從其類也。瑣陽益精壯陽，養筋潤燥。然數者皆血藥，故又加陳皮，以利氣，加乾薑，以通陽。羊肉，甘熱屬火而大補，亦以味補精，以形補形之義，使氣血交通，陰陽相濟也。名虎潛者，虎，陰類。潛，藏也。蓋補陰所以補陽也。丹溪加乾薑、白朮、茯苓、甘草、五味子、菟絲子、紫河車，名補益丸，治痿。一方加龍骨，名龍虎濟陰丹，治遺洩。

王晉三曰「虎，陰獸。潛，伏藏也。臟陰不藏，內熱生痿者，就本臟分理以伏藏其陰也。故用龜甲為君，專通任脈，使其肩任三陰。臣以虎骨，熄肝風。丸以羊肉，補精髓。三者皆有情之品，能斂失守之陰。佐以地黃，味苦補腎，當歸味辛，補肝。使以牛膝行血，陳皮利氣，芍藥約陰下潛，知、柏苦以堅之，瑣陽澀以固之，其陰氣自然伏藏而內守矣」。

王又原曰「腎為作強之官，有精血以為之強也。若腎虛精枯而血必隨之，精血交敗，濕熱風毒遂乘而襲焉，此不能步履，腰痠筋縮之症作矣。且腎兼水火，火勝爍陰，濕熱相搏，筋骨不用，宜也。方用黃柏，清陰中之火，燥骨間之濕，且苦能堅腎，為治痿要藥，故以為君。虎骨，去風毒，健筋骨為臣。然高源之水不下，母虛而子亦虛。肝臟之血不歸，子病而母愈病。知母，清肺源。歸、芍，養肝血，使歸於腎。龜稟天地之陰，獨厚茹而不吐，使之坐鎮北方。更以熟地、牛膝、瑣陽、羊肉，群隊補水之品，使精血交補。若陳皮，疏血行氣，茲又有氣化血行之妙。其為筋骨壯盛，有力如虎也必矣。道經云『虎向水中生』，以斯為潛之義焉。夫是以命之曰『虎潛』」。

【補北健行湯】

治痿證，足不任地，真水不足，陽明為熱灼而小筋弛長，此方立效。

生地、熟地、茯苓、丹皮、炙龜版、女貞子、生苡仁、南沙參、丹參、阿膠。

丹溪有瀉南補北之法，壯水之主以鎮陽光，火歸窟宅，金不受刑而陽明亦無肺熱之氣乘之。宗筋柔和，機關可利耳。二地、女貞、山藥，以益陰。茯苓，以通陽明。丹皮，以泄少陽。沙參、苡仁、阿膠，以清肺金。龜版，鹹走任脈。丹參，苦入少陰。

【五痿湯】

治五臟痿。

人參、白朮（土炒）、茯苓、甘草（炙）、當歸、苡仁、麥冬、黃柏（鹽炒水）、知母（鹽水炒）。

經云「五臟因肺熱葉焦，發為痿躄」，肺氣熱則皮毛先痿，而為肺鳴。心氣熱則脈痿，脛縱不任地。肝氣熱則筋痿，口苦而脛攣。脾氣熱則肉痿，肌膚不仁。腎氣熱則骨痿，腰脊不舉。治痿之法，不外補中袪濕，養陰清熱而已。人參、白朮、炙草，以補中。當歸、麥冬，以養陰。茯苓、苡仁，以袪濕。黃柏、知母，以清熱。

【肺熱湯】

治肺鳴葉焦，令人色白毛敗，發為痿躄。

元參、射干、薄荷、芍藥、升麻、柏皮、生地、梔子、竹茹、羚羊角。

肺者，五臟之天，所以出納天地中和之氣，而百骸資始者也。肺病則百骸無以資始而痿病成矣。羚羊角、元參、射干，涼膈之品也，可清膈上之熱。薄荷、升麻，辛涼之品，用以泄肺金之鬱熱。柏皮，能益腎水。生地，能涼心血。梔子、竹茹，能泄肝腎相火。芍藥味酸，和肝之品也。各得其平則安矣。

癲狂

經曰「重陰為癲，重陽為狂」，癲者，癡呆之狀，志願不遂者，多得之。狂者，發作剛暴，此痰火結聚所致。癲者虛多而實少，狂者則全實矣。

【鐵落飲】

治痰火入心包絡為狂。

鐵落、石膏、龍齒、茯苓、防風、秦艽、元參、竹瀝。

鐵落，金之重者也，木氣實，用金以平之。石膏，以清陽明之熱。龍齒、茯苓，引神氣以入心經。防風、秦艽，散入表之風。元參、竹瀝，清膈上之熱痰。

【服蠻煎】

此方善入心脾，行滯氣，開鬱結，通神明。

生地、麥冬、白芍、石菖蒲、石斛、丹皮、知母、茯神、木通、陳皮。

生地、白芍、麥冬、石斛，涼血而養營。丹皮、知母，滋陰而降火。菖蒲、茯神，開鬱而通神。用陳皮，有利氣化痰之功。佐木通，而有滲利小水之用。性味輕清，大有奇妙。

【清膈煎】

治痰因火動，氣壅喘滿，內熱煩渴等證。

膽星、貝母、陳皮、海石、木通、白芥子（炒）。

陳、貝、膽星，消痰利膈。海石，除軟堅之痰。白芥，利膈膜之痰。木通，瀉火下行而痰自利也。

【河車丸】

癲證既愈之後，用此方斷其根。

紫河車、茯苓、茯神、遠志、丹參、人參。

河車，本血氣所生，大補氣血為君。人參，大補元氣。茯神、丹參，入心能定心神。茯苓，能滌痰飲。遠志，交通心腎。蓋氣血充則精神旺。君火以明，相火以位，心陽不動，痰火自熄矣。

【硃砂安神丸】

驚雖屬肝，然心有主持則不驚矣。心驚然後膽怯，心氣熱，此方主之。

硃砂（飛淨）、黃連、生地、當歸、甘草（生）。

心血虛而火襲之。硃砂之重，以安其神。黃連之苦，以瀉其火。生地之涼，以清其熱。當歸之辛，以養其血。甘草以緩其焰。則氣正而神安矣。所謂「邪在上者，從高抑之」。

〈卷四〉

膈噎

病在上焦而其原實在下焦，乃賁門為病，血液乾枯，蓋津液不潤，凝結頑痰，而阻塞胃脘者有之；氣結不行，血滯成瘀，而阻塞胃脘者有之。治宜養血益氣，以通腸胃，補陰助陽，以救本原，庶春回寒谷矣。

【通幽湯】

治大便燥結堅黑，腹痛。

當歸、升麻、桃仁、紅花、甘草（炙）、生地、熟地、麻子仁。

大腸得血則潤，亡血則燥，故用熟地、當歸以養血。初燥動血，久燥血瘀，故用桃仁、紅花以去瘀。麻仁，所以潤腸。大黃，所以通燥。血熱，則涼以生地黃。氣熱，則涼以生甘草。微入升麻，消風熱也。

【深師七氣湯】

治氣噎膈。

乾薑、黃芩、桂心、半夏、甘草、陳皮、熟地、白芍、桔梗、枳實、人參、吳茱萸。

氣者，運行而不息之機。氣行則治，氣鬱則病。是方也，用乾薑、肉桂、吳茱萸、半夏、陳皮之辛苦，可以降氣。黃芩、枳實、桔梗之苦，可以調氣。猶恐脾虛不能運氣，用人參、甘草以益脾。恐肝腎弱不能吸氣，用地黃以滋腎，芍藥以和肝。

【旋覆代赭湯】

治噫氣方也。凡汗吐下後，心下痞鞭，噫氣不除等證。

旋覆花、代赭石、人參、炙甘草、半夏、生薑、大棗。

旋覆代赭石湯，鎮陰宣陽方也，以之治噫。噫者，上焦病聲也。脾失升度，肺失降度，陰盛走於胃，屬於心而為聲，故用旋覆，鹹降肺氣。代赭，重鎮心包絡之氣。半夏，以通胃氣。生薑、大棗，以宣脾氣。而以人參、甘草，奠安陽明，不容陰邪復遏，則陰謐於裏，陽發於表，上中二焦皆得致和矣。

羅東逸曰「仲景此方治正虛不歸元而承領上下之聖方也。蓋發汗吐下解表後，邪雖去而胃氣之虧損亦多，胃氣既虧，三焦因之失職，陽無所歸而不升，陰無所納而不降，是以濁邪留滯伏飲為逆，故心下痞鞭，噫氣不除。方中以人參、甘草，養正補虛。薑、棗，和脾養胃，所以安定中州者至矣。更以代赭石，得土氣之甘而沉者，使之斂浮鎮逆，領人參以歸氣於下。旋覆之辛而潤者，用之開肺滌飲，佐半夏，以蠲痰飲於上。苟非二物承領上下，則何能使氣噫不除者消，心下鞭自除乎？觀仲景治下焦水氣上凌，振振欲擗地者，用真武湯鎮之。利在下焦者，下元不守，用赤石脂禹餘糧固之。此胃虛在中氣不及下，復用此法領之，而胸中轉否為泰，其為歸元固下之法，各極其妙如此」。

【啟膈散】

通噎膈開關之劑，屢效。

沙參、丹參、茯苓、川貝母、鬱金、砂仁（殼）、荷葉蒂、杵頭糠。

砂仁殼、鬱金苦辛，以啟膈。茯苓、貝母甘潤，以豁痰。丹參、沙參，去瘀清胃。杵頭糠味辛甘，主治膈氣噎塞。荷葉蒂，專升少陽生氣。

【秘方】

治噎膈。

童便、牛乳、羊乳、甘蔗汁、韭菜汁、竹瀝、薑汁、白蜜，和勻溫服。

噎膈由於津液之涸，腸胃之燥。牛羊乳，滋潤滑澤，腸胃所喜。甘蔗汁、白蜜，甘寒生津。竹瀝，清熱。薑汁，通膈。韭汁，散瘀逐痰。童便，鹹寒下降，所以可清燥火之邪也。此方不用草木無情，故佳。

反胃

病嘔而吐，食入反出，是無火也。寒在上焦，則多為惡心，此胃脘之陽虛也。寒在中焦，則食入不化，少頃復出，此胃中之陽虛也。寒在下焦，則朝食暮吐，丙火不能傳化，久而復出，此命門之陽虛也。上中下三焦之辨如是。

【生薑瀉心湯】

治胃中不和，心下痞鞭，乾噫食臭，脇下有水氣，腹中雷鳴下利。

生薑、乾薑、半夏、黃芩、黃連、人參、甘草、大棗。

瀉心湯有五，總不離乎開結導熱益胃。然其或虛或實，有邪無邪，處方之變則各有微妙。先就是方胃陽虛不能行津液而致痞者，惟生薑辛而氣薄，能升胃之津液，故以名湯。乾薑、半夏，破陰以導陽。黃芩、黃連，瀉陽以交陰。人參、甘草，益胃安中，培植水穀，化生之主宰。仍以大棗佐生薑，發生津液，不使其再化陰邪，通方破滯宣陽，亦瀉心之義也。

【甘草瀉心湯】

治穀不化，腹中雷鳴，心下痞鞭而滿，乾嘔，心煩，不得安，此胃中虛，客氣上逆也。

甘草、乾薑、大棗、半夏、黃芩、黃連。

甘草瀉心，非瀉結熱，因胃虛不能調劑上下，致水寒上逆，火熱不得下降，結為痞。故君以甘草、大棗，和胃之陰。乾薑、半夏，啟胃之陽，坐鎮下焦，客氣使不上逆。仍用芩、連，將已逆為痞之氣輕瀉卻而痞乃成泰矣。

【附子瀉心湯】

心下痞而復惡寒汗出者。

附子(炮)、黃芩、黃連、大黃。

附子非瀉心之藥，見不得已而用寒涼瀉心，故以附子名其湯。蓋氣痞惡寒，陽氣外撤，此際似難用苦寒矣。然其痞未解，又不得不用苦寒以瀉其熱，顧仲景以大黃黃連猶為未足，再復黃芩，蓋因上焦之氣亦拂鬱矣。故三焦皆熱，苦寒之藥在所必用，又恐其虛寒驟脫，故用三黃，徹上下而瀉熱，即用附子，徹上下以溫經。三黃用麻沸湯漬，附子別煮汁，是取三黃之氣輕，附子之力重，其義仍在乎救亡陽也。

【半夏瀉心湯】

嘔而發熱，柴胡證具而以他藥下之，但滿而不痛，此為痞。

半夏、黃芩、黃連、人參、甘草(炙)、乾薑、大棗。

方名半夏，非因嘔也。病發於陰而反下之，因作痞。是少陰表證誤下之，寒反入裏，阻君火之熱化，結成無形氣痞，按之自濡。用乾薑開痞，芩、連泄熱。未能治少陰之結，必以半夏，啟一陰之機，人參、甘草、大棗，壯二陽生氣，助半夏開闢陰寒，使其熱化痞解。

【五瀉心湯合論】

王又原曰「病發於陰而反下之，因作痞。然亦有汗出解之後而痞者，亦有下後復汗而痞者，亦有不經汗下而痞者。大要結胸屬實，痞屬虛；結胸熱入，痞無熱入。藥用苦以瀉之，辛以散之是也。然仲景立五瀉心湯，藥有同異，其同者黃連、乾薑。若黃芩、大棗，則異而同也。其異者，人參、附子、大黃，若半夏、甘草、生薑，則同而異者也。試論之『傷寒，五六日，柴胡證具而以他藥下之成痞』，即用小柴胡湯，以乾薑易生薑，以黃連易柴胡，彼以和表裏，此以徹上下而必推半夏為君者，痞從嘔得來，半夏之辛以破結，主病之藥故也。汗出解之後，已無傷寒矣，胃藏津液，發汗則津液亡，故胃中不和。薑、棗，以和營衛，以生發胃家升騰之氣，乃治雜症之標的也。一屬少陽，一屬汗解，人參在所必用耳。若傷寒中風正在太陽，無用人參之例，雖下而復下，為胃中虛，不可用也。但以甘草，緩其下利之急速，和其客氣之上逆，溫其中氣之不調，補其心煩之不安焉耳。心下鞭滿，痞之候也。緊反入裏，痞之診也。按之濡關上浮，為痞尚未成，故無用虜荊之六十萬，但假將軍之先聲以奪之。此漬以麻沸湯，須臾去滓，僅得其無形之氣，不用其有形之味也。心下痞惡寒者，為兼有之症，明係表邪未解，心下痞而復惡寒者，為續見之症，明係陽氣外亡，況加以汗出乎？兼見者，以兩湯治之。續見者，以一湯救之。其附子則煮汁者，是取三黃之氣輕，取附子之力重也。然胃居心下，心下痞者，胃痞也。不曰瀉胃而曰瀉心，恐混以苦寒傷其胃陽，又誤為傳入陽明，以治陽明之法治之也。此仲景之微旨也」。

【橘皮竹茹湯】

治吐利後，胃虛膈熱呃逆者。

橘皮、竹茹、人參、甘草(炙)、大棗、生薑。

橘皮湯治嘔噦，橘皮竹茹湯治噦逆。嘔者，張口有物有聲；噦者，撮口有聲無物。若嘔噦，四肢厥冷，乃胃中虛冷，陰凝陽滯，主之以陳皮、生薑，辛香溫散，開發胃陽，而嘔噦自止。若噦逆無寒證，明是胃虛，虛陽上逆，病深聲噦，當重用橘皮，通陽下氣，臣以竹茹，清胃中虛火，又不涉寒涼，佐以參、甘、薑、棗，奠安胃氣，禦逆止噦。病有虛實，治有淺深，勿謂病深聲噦為難治之候也。

【吳茱萸湯】

治濁氣上升而生脹，用溫散降濁之法。

吳茱萸(炒)、肉桂(去皮)、乾薑(炮)、蜀椒(炒去汗)、陳皮(去白)、白朮(土炒)、厚朴(薑汁製)、生薑三片，仝煎。

經言「寒氣生濁，濁氣在上，則生脹」。是亦陰陽反作也。方義宣布五陽，亦用白朮、厚朴者，中焦脹，正當以白木，溫中健脾。厚朴，溫散和胃。吳茱萸入肝，官桂入心，乾薑入脾，陳皮入肺，蜀椒入腎，皆氣厚性輕，芳香開發，用以驅散濁陰，有捷於影響之妙。

【黃芩湯】

治太陽少陽合病，自下利者。

黃芩、赤芍、甘草（炙）、大棗。

若嘔者，加半夏、生薑。

程郊倩曰「此之合病者，頭痛胸滿，口苦，咽乾，目眩，或往來寒熱，脈或大而弦，半表之邪不待太陽傳遞，而即合太陽並見，經氣不無失守，所以下利。陽熱漸勝，表實裏虛，則邪熱得乘虛而攻及裏氣，用黃芩湯清熱益陰，半裏清而半表自解矣」。

柯韻伯曰「太陽少陽合病，是熱邪入少陽之裏，膽火上逆，移熱於脾，故自下利，與黃芩湯，酸苦相濟，以存陰也。熱不在半表，故不用柴胡，今熱已入半裏，故黃芩主之。雖非胃實亦非胃虛，故不須人參以補中也。兼痰飲則嘔，故仍加半夏、生薑」。

拘攣

拘攣屬肝，雖有風寒濕熱血虛之不同，然總不外亡血，筋無榮養，蓋陰血受傷則血燥，血燥則筋失所滋，為拘為攣，治此者必先以氣血為主。經曰「足受血而能步，掌受血而能握，指受血而能攝」，此之謂也。

【秦艽升麻湯】

治風寒客胃，口眼喎斜，惡見風寒，四肢拘急，脈浮而緊。

升麻、葛根、秦艽、白芷、防風、甘草、芍藥、人參、桂枝、蔥白。

李士材曰「至哉坤元，為五臟之王。木勝風淫，則倉廩之官承制。脾主四肢，故痿痺也。口為土之外候，眼為木之外候，故俱病也。升麻、白芷，皆陽明本藥，故用為直入之兵。人參、桂枝，固其衛氣。芍藥、秦艽，和其營血。防風，卑賤之卒，隨令而行。蔥根，發汗之需，無微不達。又藉甘草，以和之，而邪有不散者乎」？

【經驗續命湯】

治風痱，身體不能自收，口不能言，或拘急不得轉側，胃昧不知痛處。

麻黃、桂枝、石膏、乾薑、杏仁、川芎、當歸、人參、甘草。汗出則愈，不汗更服。

藥品同於大青龍湯，借川芎佐桂枝，以治風痺，乾薑佐麻黃，以治寒痺，杏仁佐石膏，以治熱痺。獨桂枝、人參並用，仲景謂之新加，以之治真中風，似乎不宜實表，然真中風雖有客邪，仍以內因為重。邪風中人身痱，必由表虛；絡脈弛縱，必由裏熱。故氣宜固，血宜活，風寒宜散，脈絡宜涼，自當內外施治，以辟邪風，非處方之冗雜也。

趙以德曰「痱病者，營衛氣血不養於內外，故身體不用，機關不利，精神不治，然是證有虛有實。虛者，自飲食房勞七情得之，如《內經》所謂「內奪而厥，則為瘖痱」之類是也。實者，自風寒暑濕感之。虛者，不可以實治，治之則愈散其氣血，今此方明言其中風痺，其營衛之屬實邪者也，故用續命，續命乃麻黃湯之變者，加乾薑，開血受寒痺，石膏，解肌受風痺。當歸，和血。人參，益氣。川芎，行血散風也。其并治咳逆上氣面浮，亦為風寒而致之也」。

【養血舒筋湯】

治血虛不能榮筋而攣證作。

當歸、白朮(土炒)、茯苓、沙參、麥冬、牛膝、棗仁(炒)、丹參、苡仁、製首烏。

血虛由於肝腎陰虧，火逆於肺，金不生水，水益虧而火益熾，筋為熱灼而攣症作矣。故用麥冬、苡仁、沙參、丹參，甘寒氣寒之品，先立清肅肺金。首烏、當歸、棗仁、牛膝，苦溫辛溫之味，以壯健筋骨。白朮、茯苓，培土燥濕。如此則三陰皆治，水之上源亦清，血液充而筋得所養矣。

【秦艽天麻湯】

驅風活血，為治拘攣通劑。

秦艽、天麻、羌活、陳皮、當歸、川芎、生薑、甘草（炙）、桑枝。

挾寒者，加附子、桂枝。

風邪走入經絡，秦艽、羌活驅風，天麻定風，歸、芎養血，陳皮利氣，甘草散結，桑枝通關節，生薑辟寒邪。

腳氣

腳氣者，腳下腫痛，即痺證之類也。腫者，名濕腳氣；不腫者，名乾腳氣。濕腳氣，水氣勝也；乾腳氣，風氣勝也。

【許學士雞鳴散】

治腳氣，風濕流注，腳痛不可忍。筋脈浮腫者並宜服之，其效如神。

紫蘇葉、木瓜、生薑、桔梗、廣皮、吳茱萸、檳榔。

經以腳氣名厥。前賢論皆由風寒暑濕乘虛襲於三陰經，宜急為重劑以治之。紫蘇，色赤氣香，通行氣血，專散風毒，同生薑，則去寒，同木瓜，則收濕。佐以桔梗，開上焦之氣。廣皮，開中焦之氣。妙在吳茱萸，泄降下逆，更妙在檳榔沉重，性墜諸藥，直達下焦，開之散之，泄之收之，俾毒邪不得上壅，入腹衝心而成危侯。雞鳴時服者，從陽注於陰也。服藥須冷者，從陰以解邪也。

【檳榔散】

治濕腳氣。

檳榔、牛膝、防己、獨活、秦艽、木香、天麻、赤芍、桑枝、當歸。

腫屬濕腳氣，有以濕勝者。檳榔，攻堅利水，墜諸藥下行。防己，行水療風，瀉下焦之濕熱。木香，調氣。當歸，和血。經曰「風能勝濕」，桑枝、獨活、秦艽、天麻，袪風。牛膝，益肝腎。赤芍，瀉肝火。則濕熱除而腫痛消矣。

【當歸拈痛湯】

治濕熱為病，肢節煩疼，肩背沉重，胸膈不利，手足遍身流注疼痛，熱腫等證。

羌活、黃芩（酒炒）、甘草（炙）、茵陳（酒炒）、人參、蒼朮、苦參（酒炒）、升麻、乾葛、防風、豬苓、澤瀉。

此足太陽陽明藥也。羌活透關節，防風散風濕為君。升麻、葛根，味薄引而上行，苦以發之。蒼朮，辛溫雄壯，健脾燥濕為臣。濕熱相合，肢節煩疼，苦參、黃芩、茵陳，苦寒以泄之，酒炒以為因用。血壅不流則為痛，當歸辛溫，以散之。人參甘溫，補養正氣，使苦寒不傷脾胃。治濕不利小便，非其治也，豬苓、澤瀉，甘淡鹹平，導其留飲為佐，上下分疏其濕，使壅滯得宣通也。

【桑白皮散】

治腳氣盛發，上氣喘急，兩腳浮腫，小便赤濇，腹脇脹滿氣促，坐臥不安。

桑白皮、郁李仁、赤苓、木香、防己、蘇子、大腹子、木通、檳榔、青皮。

桑皮、蘇子，瀉肺開鬱。大腹子、郁李仁，行水破血。木香、青皮，宣滯氣。赤苓、木通，利濕熱。防己，消腫。檳榔，除脹。

腫腮

腫腮一證，為疫病之最輕者，若誤作傷寒施治，邪乘虛而內陷，傳入厥陰脈絡，睪丸腫痛，此時或溫裏或補水，數劑可退，而昧者或作疝治，則大謬矣。治法，初起辛涼治標而辛溫不可妄投。變病，養陰扶正，而溫補在宜善用，斯得矣。

【辛涼甘桔湯】（汪蘊谷製）

治體實腫腮者。

甘草、桔梗、牛蒡、連翹、丹皮、當歸、象貝。

甘、桔，以清風熱。當歸、丹皮，分泄少陽厥陰。連翹，瀉心熱。牛蒡、象貝，辛涼以散溫邪。

【養陰甘桔湯】（汪蘊谷製）

治體虛腫腮者。

甘草、桔梗、生首烏、玉竹、丹皮、當歸、黑大豆。

首烏、玉竹，以養陰。當歸、丹皮，以和血。黑大豆，除熱解毒。桔梗，清頭目。甘草，扶脾胃。

【救陰保元湯】

治遺毒腫腮。

熟地、丹皮、山藥、麥冬、南沙參、黃芪(炙)、甘草(炙)、黑大豆。

黃芪、炙草保元，以生真氣。熟地、麥冬救陰，以回津液。丹皮，清少陽。山藥，補脾。沙參，潤肺。黑豆，解毒。

【三黃湯】

治上焦火盛，頭面大腫，目赤腫痛，心胸咽喉口舌耳鼻熱盛，及生瘡毒者。

黃芩、黃連、生甘草。

柯韻伯曰「諸腫痞痛皆屬心火，必用芩、連以瀉心，然傷寒熱結於內而心下痞者，是為客邪，治客當急，故君大黃，率芩、連，用麻沸湯漬，絞其汁而速驅之，不使暫留也。此熱淫於內而上炎頭目者，是為正邪，治之當緩，故用甘草，與芩、連等分同煎，漫飲以漸漬之，不使下行也。蓋心下本虛而火實之法，當并瀉其子，土鬱奪之而火速降矣。上焦本清而火擾之法，當先培其子，土得其令而火邪自退矣。芩、連得大黃，不使其子令母實；芩、連得甘草，又不使其母令子虛。同一瀉心而其中又有攻補之不同如此」。

【清肝疏膽湯】（新製）

治腫腮誤服過辛散，用此疏泄之。

冬桑葉、丹皮、柴胡、赤芍(炒)、料豆衣、玉竹、甘草(生用)、當歸。

汪石來曰「耳之前後雖屬少陽，而厥陰部位亦會於此，經曰『頸項者，肝之俞』，故用柴胡、丹皮，以疏少陽。當歸、赤芍，以緩厥陰。冬桑葉、料豆皮，能清風熱。玉竹、甘草，可生津液」。

淋濁

濁之因有二。一由腎虛，敗精流注。一由濕熱滲入膀胱。是以補腎之中，必兼利水。溺竅開，則精竅閉也。導濕之中，必兼理脾，土旺則能勝濕也。至於濁有赤者，此濁液流多，不及變化也。又或心火盛，亦見赤色，不可不知。

【萆薢分清飲】

導濕理脾。

川萆薢、黃柏(炒褐色)、石菖蒲、茯苓、白朮(土炒)、蓮子心、丹參、車前子。

萆薢，能泄陽明厥陰濕熱，去濁而分清。白朮，苦以燥濕。茯苓，淡以利水。蓮心、丹參入心，即以導小腸。黃柏，清熱。車前，通淋。石菖蒲，開九竅而通心，心腎通則氣化行而濁止矣。

【清心蓮子飲】

治心虛有熱，赤白二濁，并治勞淋。

黃芩、麥冬、地骨皮、甘草、茯苓、炙黃芪、車前子、遠志、人參、石蓮肉、石菖蒲。

心血少則煩熱，遺於小腸則便赤，挾相火以動之則便濁，精竅不禁，過勞成淋等證。先以黃芩、麥冬、石蓮、遠志、菖蒲、茯苓，清心熱以通其氣。再用參、芪、甘草，補心血以安其神。車前，分理之也。地骨，涼血分也。

【導赤散】

治心熱，小便黃赤，莖中痛，熱急不通。

生地、木通、甘草梢、淡竹葉。

導，引也。小腸一名赤腸，為形臟四器之一，稟氣於三焦，故小腸失化，上為口麋，下為淋痛。生地，入胃而能下利小腸。甘草，和胃而下療莖中痛。木通、淡竹葉，皆輕清入腑之品，同生地、甘草，則能從黃腸導有形之熱邪入於赤腸。其濁中清者，復導引滲入黑腸而令氣化，故曰「導赤」。

季楚重曰「經云『兩精相搏，謂之神』，是神也者，待心中之真液，腎中之真氣以養者也。故心液下交而火自降，腎氣上承而水自生。前賢以生脈救真液，是治本不治標也。導赤散清邪火，是治標以固本也。錢氏制此方意，在制丙丁之火，必先合乙癸之治。生地黃，涼而能補，直入下焦，培腎水之不足。腎水足則心火自降，尤慮肝木妄行，能生火以助邪，能制土以盜正。佐以甘草梢下行，緩木之急，即以瀉心火之實，且治莖中痛。更用木通，導小腸之滯，既以通心火之鬱，是一治兩得者也。瀉心湯用黃連，所以治實邪，實邪責木之有餘，瀉子以清母也。導赤散用地黃，所以治虛邪，虛邪責水之不足，壯水以制火也。此方涼而能補，較之用苦寒伐胃，傷其生氣者遠矣」。

【肺腎交固湯】（黃錦芳製）

治溺必淋滴作痛，身覺作冷，脾胃不健，脹悶不快。

黃芪(炙)、白朮(土炒)、附子(製)、菟絲子、龍骨、白芍(炒)。

肺虛腎虧，惡寒遺精，君以黃芪，大補肺氣。肺氣既虛，脾自不健，故有食則不消之虞。臣以白朮，微補脾氣，脾氣既薄，腎水腎火亦微，故精自不克固。用附子補火，菟絲補水為佐，加龍骨，以鎮肝魂。白芍，以斂肝逆，則肺腎交固而無遺脫之象矣。

【菟絲子丸】

補腎利水。

菟絲子、茯苓、山藥、沙苑子、車前子、石斛、牡蠣(煅)、遠志肉。

菟絲、茯苓、山藥，甘溫補脾。沙苑子，苦溫固精。車前子，甘寒滲濕。牡蠣，鹹以清熱。石斛，淡以清胃。遠志，苦泄熱，能通腎氣上達於心。

【秘元煎】

治遺精帶濁等證，此方專主心脾。

人參、茯苓、白朮(土炒)、甘草(炙)、遠志、金櫻子、山藥、棗仁、芡實、五味子。

參、苓、朮、草，四君以補氣，固攝諸陽。棗仁、遠志、山藥，理心脾之虛。五味酸收，督攝精氣。金櫻、芡實，又倣水陸二仙之意，保精以固元也。

【內補鹿茸丸】

治赤白二濁，久久不止者。

鹿茸、菟絲子、沙苑子、紫菀、天冬、肉蓯蓉、麥冬、遠志、柏子仁、龍骨、肉桂、石蓮肉、附子(製)、棗仁。

此久病虛寒而下濁不止者。故以鹿茸、菟絲、蓯蓉、紫菀、桂、附，以培其真陽。以二冬、遠志、棗仁、柏子，以養其心血。再之龍骨、石蓮，清其神而收其滑，治盡善矣。

疝氣

疝者，小腹痛引睪丸也。經曰「任脈為病，男子外結七疝」，其名有七，其實五者而已。疝之根起於各臟，而歸併總在厥陰，以肝主筋，又主痛也。治疝之法非一，而分別不外氣血兩途，氣則遊走不定，血則凝聚不散也。

【吳茱萸加附子湯】

治寒疝，腰痛，尺脈沉遲者。

吳茱萸、生薑、大棗、人參、附子(製)。

寒客於內，束其少火，鬱其肝氣，故腰痛牽引睪丸。用吳茱萸、附子之辛溫者，以去其寒。用薑、棗之辛甘者，以和其氣。用人參之甘溫者，以補其元。

【當歸生薑羊肉湯】

治寒疝。

當歸、生薑、羊肉。

寒疝為沉寒在下，由陰虛得之。陰虛則不得用辛熱燥烈之藥，重劫其陰，故仲景另立一法，以當歸、羊肉辛甘重濁，溫煖下元而不傷陰。佐以生薑，隨血肉有情之品引入下焦，溫散沍寒。若痛多而嘔，加陳皮、白朮，奠安中氣以禦寒逆。本方三味非但治疝氣逆衝，移治產後下焦虛寒亦神。

【八味膽草湯】（黃錦芳製）

治疝由水衰火蔽，脾氣尚強，穀食未減者。

熟地、丹皮、棗皮、茯苓、山藥、澤瀉、黃柏、知母、龍膽草。

疝由火動，由於腎水枯槁，肝火內熾，加之外挾風邪入於厥陰，鬱而不去，則必見有疝，為痛苦之候。若但云疝多屬寒，宜用辛溫辛熱，則必輾轉增劇，此方用丹溪滋陰八味，以養腎水，復以膽草，直瀉厥陰邪火，所謂「諸痛屬火」是也。

【橘核丸】

通治七疝。

橘核(鹽水炒)、小茴香、川楝子、桃仁、香附(醋炒)、山查(炒)、廣木香、紅花。

此足厥陰藥也。疝病由於寒濕，或在氣，或在血，症雖見乎腎，病實本乎肝。橘核、木香，能入厥陰氣分而行氣。桃仁、紅花，能入厥陰血分而活血。川楝子，能入肝舒筋，使無攣急之苦，又能導小腸膀胱之熱，從小水下行，為治疝之主藥。小茴香，能入腎與膀胱，煖丹田而袪冷氣。山查，散瘀而磨積。香附，下氣而解鬱。

【龍膽瀉肝湯】

治肝膽經實火濕熱，脇痛，耳聾，膽溢口苦，筋痿，陰汗，陰腫，陰痛，白濁，溲血。

龍膽草(酒炒)、生地、黃芩(酒炒)、梔子(酒炒)、車前子、柴胡、當歸、澤瀉、木通、生甘草。

此足厥陰少陽藥也。龍膽，瀉厥陰之熱。柴胡，平少陽之熱。黃芩、梔子，清肺與三焦之熱以佐之。澤瀉，瀉腎經之濕。木通、車前，瀉小腸膀胱之濕以佐之。然皆苦寒下泄之藥，故用歸、地，以養血而補肝。用甘草，以緩中而不使傷胃為臣使也。

【煖肝煎】

治肝腎陰寒，小腹疼痛，疝氣等證。

枸杞子、小茴香、當歸、茯苓、烏藥、沉香、肉桂、生薑。

當歸、枸杞，補肝腎之不足。烏藥、沉香，理寒氣之痛疼。肉桂，溫寒。茯苓，滲濕。小茴，利小腹寒疝。

【胡蘆巴丸】

治小腸氣蟠，腸氣奔豚，疝氣偏墜，陰腫，小腹有形如卵，痛不可忍，繞臍攻刺，嘔吐者。

胡蘆巴、巴戟天、川烏、川楝子、小茴、吳茱萸。

汪石來曰「厥陰之脈絡陰器，疝病必因於肝。蘆巴，苦溫純陽，入右腎命門，緩丹田，袪冷氣。川烏，辛熱散寒。吳茱萸，燥濕而除寒。小茴，溫肝而煖腎。川楝子，導小腸邪熱。巴戟天，返元陽真火」。

眼目

目者，五臟精華之所繫也。凡暴赤腫痛，畏日羞明，名曰「外障」，實証也。久痛昏花，細小沉陷，名曰「內障」，虛症也。實者由於風熱，虛者由於血虛。實者散風瀉火，虛則滋水養陰。然散風之後，必繼以養血，經曰「目得血而能視」也。養陰之中，更加以補氣，經曰「氣旺則能生血」也，不宜過用寒涼，使血脈凝結也。

【蟬花無比散】

通治目疾赤腫脹痛，或翳膜遮睛，或目眶赤爛，或拳毛倒睫，並皆治之。

蟬蛻（去足）、羌活、川芎、石決明、防風、茯苓、赤芍、白蒺藜（炒去刺）、甘草（炙）、當歸、蒼朮（土炒）。

蟬蛻，其氣清虛，故除風熱。蒺藜，其味辛苦，故入肺肝。石決明鹹涼，散赤膜外障。赤芍藥酸寒，療目赤血滯。苓、草，能調五臟。芎、歸，可補肝虛。羌、防，太陽本經主藥。蒼朮，升發胃中陽氣，解六鬱。

【蒺藜湯】

治目疾，暴赤腫痛。

白蒺藜（炒去刺）、羌活、防風、甘草（炙）、荊芥、赤芍、蔥白連鬚。

羌活、防風，辛散風熱。荊芥、蒺藜，辛泄厥陰。赤芍，散惡血。蔥白，通陽氣。甘草，以緩諸辛。

【四順清涼飲】

治血脈壅實，臟腑生熱，面赤，煩渴，睡臥不安，大便秘結。

當歸、赤芍、甘草、大黃。

大黃，去胃中之實熱。甘草，能緩燥急之勢。歸、芍，疏通血脈。此下以存津，苦以宣壅法也。

【益陰腎氣丸】

治腎虛目暗。

熟地、生地、山藥、萸肉、柴胡、澤瀉、丹皮、當歸稍、茯神、五味子。

精生氣，氣生神，故腎精一虛則陽光獨治。陽光獨治則壯火食氣，無以生神，令人目暗不明，故用生熟地黃、山萸、五味、歸稍、澤瀉、丹皮，厚味之屬，以滋陰養腎。滋陰則火自降，養腎則精自生。山藥者，所以益脾而培萬物之母。茯神者，所以養神而生明照之精。柴胡者，所以升陽而致神明之氣於精明之窠也。

【消障救晴散】（王晉三製）

治白晴胬肉，狀如魚胞浮鰾。

石蟹（生研）、羚羊角（鎊片）、草決明、連翹、白蒺藜、龍膽草（酒炒灰）、甘菊、木賊草、漢防己、茺蔚子。

用石蟹為君，味鹹，性大寒而燥，去濕熱，消胬肉，如鼓應桴，堪稱仙品。佐以羚羊角之精靈，熄肝風，散惡血。草決明，療青盲，去白膜。連翹，瀉客熱，散結氣，專泄大小眥之熱。酒炒龍膽，退濕熱之翳。白蒺藜，散風破血。木賊、防己，療風勝濕。甘菊，化風。茺蔚，行血。諸藥皆入肝經，仍能上行入肺，用之屢驗，功勝鉤割，故敢質諸當世。

【明目地黃丸】

治內障，隱澀羞明，細小沉陷。

生地、牛膝、麥冬、當歸、枸杞子。

汪石來曰「內障無非腎水不足，肝血久虛。生地、枸杞，甘寒補水。當歸、牛膝，辛酸補肝。麥冬微苦，清心瀉熱」。

【益氣聰明湯】

治目中內障，初起視覺昏花，神水淡綠色或淡白色，久則不睹，漸變純白，或視物成二等證，并治耳聾、耳鳴。

炙黃芪、人參、炙甘草、升麻、乾葛、黃柏、蔓荊子、當歸、白芍(酒炒)。

此足太陰陽明少陰厥陰藥也。十二經脈清陽之氣皆上於頭面而走空竅，因飲食勞役脾胃受傷，心火太盛，則百脈沸騰，邪害空竅矣。參、芪甘溫，以補脾胃。甘草甘緩，以和脾胃。升麻、乾葛、蔓荊，輕揚升發，能入陽明，鼓舞胃氣上行。頭目中氣既足，清陽上升，則九竅通利，耳聰而目明矣。歸、芍，斂陰和血。黃柏，補腎生水。蓋目為肝竅，耳為腎竅，故又用此三者，平肝滋腎也。

【地芝丸】

治目能遠視，不能近視。

生地黃（焙）、天冬、枳殼、甘菊花。

蜜丸，茶清下。

此足少陰藥也。生地，涼血生血。天冬，潤肺滋腎。枳殼，寬腸去滯。甘菊，降火除風。

【加減一陰煎】

治水虧火勝，火之甚者，宜用之。

生地、熟地、麥冬、白芍、甘草、知母、地骨皮。

二地，養陰退熱。麥冬、白芍、甘草，清肝脾之火。知母滋腎，以降陰火。地骨瀉脾，而清肺火。

【洗肝散】

治風毒上攻，暴作赤腫，目痛難開，隱濇眵淚。

薄荷葉、甘草、羌活、防風、當歸、川芎、山梔仁、大黃。

天行時熱，目赤胞腫，怕日羞明。風則散表，熱則瀉裏，風熱相兼，則用洗肝散，表裏兼治之。薄荷、甘草，清利上焦，開泄肝氣，以肝開竅於目也。羌活、防風，升發太陽之氣，以太陽經有通頂入於腦者，正屬目系也。當歸、川芎，行少陽血分之氣，少陽為清淨廓，雷風相薄而目赤，必從大眥始也。山梔仁，能使三焦之火屈曲下行。大黃，瀉諸實熱，且導且攻，熱退腫消矣。理明經正，不越治病之章程。

咽喉

經曰「少陰循喉，厥陰繞咽」，而少陽陽明亦有喉痺之證。蓋少陽厥陰為木火之臟，故多熱證。陽明為水穀之海，而胃氣直透咽喉，故又為陽明之火為最盛。至若少陰之候，陰火逆衝於上，多為喉痺，但少陰之火，有虛有實，不得類從火斷果因，實火自有火證火脈，若真陰虧損者，此腎中之虛火證也，非壯水不可。又有陰盛於下，格陽於上，此無根之火，即腎中之真寒證也，須詳辨之。

【元參升麻湯】

治風火淫肺，循絡而為喉痺。

元參、升麻、白殭蠶、牛蒡子、連翹、防風、黃芩、桔梗、甘草、川黃連。

〈陰陽別論〉曰「一陰一陽結，謂之喉痺」。一陽，少陽也。一陰，厥陰也。厥陰之上，風氣主之。少陽之上，火氣主之。風火淫肺而為喉痺，治以牛蒡，散時行風熱，消咽喉壅腫。升麻，散至高之風，解火鬱之喉腫。白殭蠶，得清化之氣，散濁結之痰。元參，清上焦氤氳之熱。連翹，散結熱，消壅腫。防風，瀉肺經之風邪。芩、連，清上中之熱毒。甘、桔，載引諸藥上行清道，急治其標也。

【抽薪飲】

治諸凡火熾，咽喉腫痛者。

黃芩、黃柏、木通、枳殼、澤瀉、石斛、梔子。

芩、柏、梔子、澤瀉，能瀉其熾盛之火。枳殼，破結。石斛，清胃。木通，清利水道。

【滋陰八味湯】

治陰虛火動，骨痿髓枯，喉痺而尺脈旺者宜之。

熟地、茯苓、山藥、萸肉、澤瀉、丹皮、黃柏、知母。

慾念妄動，五內如焚，邪火燔熾，勢若燎原，丹溪有見於此，故有「一水不勝五火」之論，謂「不獨爍乾腎水而且渙散元氣也」。此時雖用六味滋陰之藥尚恐不足，故加知、柏，純陰之品，逆而折之，庶得其平，水壯而火熄，火熄而金清，咳血等證自安而陰虛之喉痺亦治矣。

【良方安腎丸】

治腎經積冷，下元衰憊，目暗耳鳴，四肢無力，食少體瘦，神困健忘，腎寒喉痛等證。

桃仁、肉蓯蓉、補骨脂、山藥、川石斛、萆薢、白蒺藜(炒去刺)、川鳥(泡去皮尖)、巴戟天、白朮(土炒)。

汪石來曰「腎中真寒，無根之火，不能安其宅窟，上衝咽喉，惟有引火歸原一法。川烏辛熱，治元陽虛憊。補骨脂辛苦大溫，補相火以通君火，治腎冷。蓯蓉、巴戟，甘溫甘鹹，入腎經血分。白朮、山藥苦甘，以補土補火之子。桃仁、蒺藜苦辛，以補肝補火之母。川斛，益腎精。萆薢，固下焦，如此天朗氣清，龍雷潛伏矣」。

【二陰煎】

治心經有病，水不制火。二從火數，故曰「二陰」，并治心火亢甚而為喉痛者。

生地、麥冬、黃連、棗仁、茯神、甘草、木通、燈心、竹葉、元參。

生地，涼血。黃連，清心。茯神、棗仁，安神而退熱。麥冬、元參，清肺而解渴。木通、甘草，和中滲利。竹葉、燈心，瀉火除煩。

【豬膚湯】

治少陰下利，咽痛，胸滿，心煩者。

豬膚一觔，用白皮，去其內肥，刮令如紙薄，加白蜜一升，白粉五合，熬香，和令相得，溫分六服。

腎應彘而肺主膚，腎液下泄，不能上蒸於肺，致絡燥而為咽痛者，又非甘草所能治矣。當以豬膚，潤肺腎之燥，解虛煩之熱。白粉、白蜜緩於中，俾豬膚比類而致津液，從腎上入肺中，循喉嚨，復從肺出，絡心，注胸中而上中下燥邪解矣。

柯韻伯曰「少陰病多下利，以下焦之虛也。陰虛則陽無所附，故下焦虛寒者，反見上焦之實熱。少陰脈，循喉嚨，挾舌本，其支者出，絡心，注胸中，凡腎精不足，腎火不藏，必循經上走於陽分也。咽痛胸滿心煩者，因陰併於下而陽併於上，水不上承於心，火不下交於腎，此未濟之象。豬為水畜，而津液在膚，取其膚以治上焦虛浮之火，和白蜜、花粉之甘，瀉心潤肺而和脾，滋化源培母氣，水升火降，上熱不行，虛陽得歸其部，不治利而利自止矣。三味皆食物，不藉於草，所謂隨手拈來盡是道矣」。

【苦酒湯】

治少陰病，嘔而咽中傷，生瘡，不能語，聲不出者。

半夏十四枚（洗，破，如棗核大）、雞子一枚（去黃，納上苦酒，著雞子殼中）。

右二味，內半夏著苦酒，中以雞子殼置刀環中，安火上，令三沸，去滓，少少會嚥之，不差，更作三劑。

苦酒湯治少陰水虧，不能上濟君火，而咽生瘡聲不出者。瘡者，疳也。半夏之辛滑，佐以雞子清之甘潤，有利竅通聲之功，無燥津涸液之慮。然半夏之功能，全賴苦酒攝入陰分，劫涎斂瘡，即陰火沸騰，亦可因苦酒而降矣。

柯韻伯曰「取苦酒以斂瘡，雞子以發聲，而兼半夏者，必因嘔而咽傷，胸中之痰飲尚在，故用之，且以散雞子、苦酒之酸寒，但令滋潤其液，不令泥痰於胸膈也。雞子黃走血分，故心煩不臥者宜之；其白走氣分，故聲不出者宜之」。

【黃連阿膠湯】

少陰病，得之二三日，心中煩，不得臥者，腎火上攻於心也，當滋陰以涼心腎。

黃連、黃芩、芍藥、阿膠、雞子黃。

芩、連，瀉心也。阿膠、雞子黃，養陰也。各舉一味以名其湯者，當相須為用也。少陰病煩，是君火熱化為陰煩，非陽煩也。芩、連之所不能治，當與阿膠、雞子黃，交合心腎，以除少陰之熱。雞子黃色赤，入通於心，補離中之氣。阿膠色黑，入通於腎，補坎中之精。第四者沉陰滑利，恐不能留戀中焦，故再佐芍藥之酸濇，從中收陰，而後清熱止煩之功得建。

柯韻伯曰「雞感巽化，得心之母氣者也。內黃稟南方火色，率芍藥之酸入心，而斂神明，引芩、連之苦入心，而清壯火。驢皮，被北方水色，入通於腎濟水，性急趨下，內合於心，與之相溶而成膠，是火位之下，陰精承之。凡位以內為陰，外為陽，色以黑為陰，赤為陽，雞黃赤而居內，驢皮黑而居外，法坎宮陽內陰外象，因以制壯火之食氣耳」。

耳病

足厥陰肝、足少陽膽經皆絡於此，凡傷寒邪熱耳聾者，屬少陽症，若病非外感，有暴發耳聾者，乃氣火上衝，名曰「氣閉耳聾」。久虛耳聾則屬腎虛，精氣不足，不能上通於耳，或膿水淋漓，或癢極疼痛，此皆厥陰肝經風熱所致。若風熱相搏，津液凝聚，則變為聤耳之患矣。

【逍遙散加味】

凡病非外感，有暴發耳聾者，乃氣火上衝，名曰「氣閉耳聾」，此方主之。

當歸、白芍（炒）、白朮（土炒）、茯苓、甘草、柴胡、蔓荊子、石菖蒲、香附。

汪石來曰「氣閉耳聾乃火鬱於肝膽二經，治以柴胡，肝欲散也。佐以甘草，肝苦急也。當歸，以辛補之。白芍，以酸瀉之。佐以白朮、茯苓，脾苦濕也。復以菖蒲、蔓荊，辛以通竅也。復以香附，苦以解鬱也」。

【《千金》腎熱湯】

治腎熱耳中膿血，不聞人聲。

磁石（煅紅淬七次）、白朮、壯蠣、生地黃汁、麥冬、芍藥、甘草、蔥白、大棗。

耳者，腎之竅，故腎熱則令人病耳生膿出血，不聞人聲也。是方，以磁石能引肺金之氣下降於腎，腎得母氣，自然清肅而熱漸愈。生地汁、麥冬、白芍，所以滋腎陰而瀉腎熱。蔥白者，所以引腎氣上通於耳也。牡蠣鹹寒，能軟腎而破結氣，得蔥白引之入耳，則能開聽戶而消膿血。白朮、甘草、大棗者，健脾之品也，所以培萬物之母，益土氣而制腎邪耳。

【六味湯加味】

治久患耳聾，則屬腎虛，精氣不足，不能上通於耳，宜用此方。

熟地、茯苓、山藥、丹皮、澤瀉、萸肉、遠志、人參、枸杞子、石菖蒲。

耳開竅於腎，久患耳聾則屬腎氣不能上通。六味湯，治腎陰虛之主方。加人參，以補氣。枸杞，以益精。遠志，能通腎氣。菖蒲，能利九竅。

【加減逍遙散】

治厥陰肝經風熱，變為聤豆抵耳，宜此方主之。

當歸、白芍（炒）、茯苓、柴胡、甘草（炙）、荷葉、木耳、貝母、香附、石菖蒲。

汪石來曰「肝虛則血病，當歸、芍藥，養血而斂陰。木盛則土衰，甘草、茯苓，和中而補土。柴胡，升陽散熱，合白芍以平肝，而使木得條達。荷葉、木耳，升發少陽清氣。貝母，散結除熱。菖蒲，利竅通耳。香附，能解六鬱」。

鼻病

經曰「膽移熱於腦，則辛頞鼻淵」，明明屬之內傷，於外感全無干涉。蓋少陽甲膽生發之氣，全賴腎水為之滋養。腎水虛則膽中之火無制而上逆於腦，斯時也，宜補水保肺，或脾腎雙補，或陰陽兩救。治腦也，補在髓；治鼻也，清在金。腦滿可以生水而制火，金空可以化液而制木矣。

【辛夷散】

治鼻生瘜肉，氣息不通，不聞香臭。

辛夷、白芷、升麻、藁本、防風、川芎、細辛、木通、甘草。

等分為末，每三錢茶調下。

此手太陰足陽明藥也。經曰「天氣通於肺」，若腸胃無痰火積熱，則平常上升皆清氣也。由燥火內焚，風寒外束，血氣壅滯，故鼻生瘜肉而竅窒不通也。辛夷、升麻、白芷，辛溫輕浮，能引胃中清氣上行頭腦。防風、藁本，辛溫雄壯，亦能上入巔頂，勝濕袪風。細辛，散熱破結，通精氣而利九竅。川芎，補肝潤燥，散諸鬱而助清陽。此皆利竅升清，散熱除濕之藥。木通通中，茶清寒苦，以下行瀉火。甘草和中，又以緩其辛散也。

【蒼耳散】

治鼻淵鼻流濁涕不止。

白芷一兩，薄荷、辛夷各五錢，蒼耳子（炒）二錢半，為末，食前蔥茶湯調下二錢。

此手太陰足陽明藥也。凡頭面之疾，皆由清陽不升，濁陰逆上所致。白芷，主手足陽明，上行頭面，通竅表汗，除濕散風。辛夷，通九竅，散風熱，能助胃中清陽上行頭腦。蒼耳，疏風散濕，上通腦頂，外達皮膚。薄荷，泄肺疏肝，清利頭目。蔥白，升陽通氣。茶清，苦寒下行。使清升濁降，風熱散而腦液自固矣。

【益氣湯】

治鼻病過於解散，其始清涕，繼成濁涕，漸而腥穢，皆由滲開腦戶而致尪羸，此湯主之。

黃芪（蜜水炒）、人參、白朮（土炒）、當歸、麥冬、甘草炙、藿香、五味子，薑、棗引。

虛寒少入細辛，內熱監以山梔。

汪石來曰「腦屬神臟，藏精髓而居高位。鼻為肺竅，司呼吸而聞香臭，清陽由此而升，濁陰無由而上，惟膽熱及於腦，腦熱及於鼻而鼻淵之患作矣。參、芪、朮、草，以補脾。麥冬、五味，以保肺。當歸，以益肝血。藿香，以解腥穢」。

【補腦丸】

治鼻淵久不愈者，此上病下取，高者抑之。

人參、麥冬、茯苓、熟地、萸肉、黃芪（炙）、牛腦（蒸）、枸杞子、菟絲子、鹿茸（酥炙）、五味子。

人參、黃芪、茯苓，補脾。麥冬、五味，清肺。熟地、菟絲，補腎。萸肉、枸杞，補肝。鹿茸，通督脈。牛腦，以腦補腦。

聲瘖

聲音之標在心肺，而其本則在腎。瘖啞之病，當知虛實。實者，其病在標，因竅閉也。虛者，其病在本，因內奪也。竅閉者，風寒之閉，散而愈；火邪之閉，清而愈；氣逆之閉，順而愈。內奪者，色慾傷腎，憂思傷心，驚恐傷膽，勞飢傷脾，此非大補元氣，安望其嘶敗者復完乎？

【參蘇飲】

治感冒，風寒欬嗽，吐痰涕，唾稠粘，胸膈滿悶，寒熱往來，或頭痛惡寒，脈弱無汗，并治風寒氣逆之閉。

人參、蘇葉、乾葛、前胡、陳皮、枳殼、茯苓、半夏、桔梗、木香、甘草、生薑、大棗。

葉仲堅曰「此少陽中風而寒濕內著之證也。仲景於表劑不用人參，惟少陽寒熱往來，雖有口苦咽乾目眩之相火，亦用人參以固中氣，此欬嗽聲重，痰涎稠粘，涕唾交流，五液無主，寒濕稽留於胸脇，中氣不固可知矣，故以人參為君。然非風寒之外邪來侮，則寒熱不發，而痰涎不遽生，故輔以紫蘇、乾葛。凡正氣虛者，邪氣必盛，故胸膈滿悶，輔以陳皮、枳殼，少佐木香以降之。痰涎壅盛於心下，非辛燥不除，故用茯苓、半夏，少佐桔梗以開之。病高者宜下，故不取柴胡之升而任前胡之降。欲解表者，必調和營衛，欲清內者，必顧及中宮，此薑、棗、甘草之所必須也。名之曰『飲』，見少與緩服之義，本方去人參、前胡，加川芎、柴胡，即芎蘇散，則治頭痛發熱惡寒無汗之表劑矣」。

【十味溫膽湯】

治證同溫膽湯，兼治四肢浮腫，飲食無味，心虛煩悶，坐臥不安，夢遺精滑，并治內奪之閉。

半夏、枳實、陳皮、茯苓、棗仁（炒）、人參、熟地、遠志、五味子、甘草（炙）。

汪石來曰「人參、甘草補胃，以安其正。熟地、五味補腎，以治其源。佐以二陳，下以枳實，除三焦之痰壅。棗仁，專療膽虛。遠志，能通心陽。亦本乙癸同源之法，清火與補元互施也」。

【麥門冬湯】（正傳）

治病後火熱乘肺，欬嗽有血，胸脇脹滿，上氣喘急，五心煩熱而渴，并治火邪之閉。

天冬、麥冬、桑白皮、紫菀茸、川貝母、生地、桔梗、甘草、淡竹葉、五味子。

汪石來曰「天冬、麥冬，能清肺熱。桑皮、紫菀，能瀉肺火。生地、貝母，能潤肺燥。五味，能收肺氣。淡竹葉，功專清心。甘、桔，除熱利膈，火清而閉開矣」。

【七福飲】

凡五臟氣血虧損者，此能兼治之，并治心腎受傷，內奪之閉。

當歸、白朮（蒸）、熟地、人參、甘草（炙）、棗仁（炒）、遠志。

人參甘溫，補氣以養心。熟地甘平，補血以滋腎。當歸，養肝血。白朮，補脾土。炙草，調和五臟，安為福矣。更加棗仁，生心血，以養其肝。遠志，通心腎，以和其胃。

【平補鎮心丹】

治心血不足，時或怔忡，夜多亂夢，常服安心腎，益營衛，并治心腎內奪之閉。

人參、龍齒（煅）、茯苓、茯神、麥冬、天冬、山藥、五味子、車前子、熟地、遠志、棗仁（炒）、硃砂。

汪石來曰「熟地、五味甘酸，以滋腎水。茯神、遠志苦甘，以養心神。人參、棗仁，以補心氣。天、麥二冬，以泄心熱。山藥、茯苓，補土以培心子。龍齒、車前，清肝以顧心母。硃砂，鎮心安魂。如此則心腎交通而聲音復矣」。

痔漏

大腸經積熱所致，生於肛門之前，腎囊之後，名曰「懸癰」，又名「海底漏」，最難收功。若生於肛門之兩傍，則曰「臟毒」，較懸癰為輕耳。此症皆由腎水不足，相火內爍庚金而致然也。患者速宜保養真元，用藥扶持，庶可延生，毋忽。

【加減六味湯】

治腎水不足，大腸積熱為痔。

熟地、生地、山藥、茯苓、丹皮、澤瀉、當歸、白芍（炒）、柏子仁、丹參、龜版（炙）、遠志、金石斛、金銀花（炒）。

薛立齋云「掀痛，二便秘，宜清熱涼血，潤燥疏風，若寒涼損中者，調養脾胃，滋補陰精。是方，用六味以滋陰而去萸肉之溫，復以生地涼血，當歸、白芍、柏子以潤燥，遠志、丹參、金斛以清熱，龜版通任脈，任脈為病，男子內結七疝，痔與疝俱患者，宜之銀花解毒」。

【黑地黃丸】

治脾腎不足，面青黃無力，血虛，久痔。

白朮一兩六錢（炒黑）、熟地一兩六錢（炒黑）、五味子八錢（蒸熟）、生淡乾薑（清水浸淡，春七分，夏五分，冬一錢），一方以蒼朮為君。

右為末，棗肉為丸，每服百丸，清米飲湯送下。

氣不攝血則妄行，濕熱下流則成痔，痔久或有房勞，脾腎日敗矣。茲以蒼朮為君，地黃為臣，五味為佐，乾薑為使，補脾腎之虛，袪脾濕，潤腎燥，為久痔之聖藥也。

脫肛

大腸與肺為表裏，肺熱則大腸燥結，肺虛則大腸滑脫，此其要也。因濕熱下墜而脫者，必有熱症，如無熱症，便是虛寒，且氣虛則陽虛，非用溫補，多不能效，經曰「下者舉之，濇可去脫」，皆治脫肛之法也。

【舉元煎】

治氣虛下陷，血崩，血脫，垂危等證。

人參、白朮（土炒）、黃芪（炙）、甘草（炙）、升麻。

人參，回元氣於無何有之鄉。黃芪，補元氣而充腠理。白朮、甘草，益氣和中。升麻，能提元氣下陷，舉大腸滑脫。

【補陰益氣煎】

治勞倦傷陰，精不化氣，而虛邪外侵者宜之。

熟地、人參、陳皮、山藥、升麻、柴胡、當歸、甘草（炙）、生薑。

人參、熟地，兩補氣血。山藥，和血理脾。陳皮，利氣。甘草，和中。生薑，有通陽解散之功。升、柴，有托表袪邪之力。陰虛外感者宜之。

【約營煎】

治血熱便血，無論脾、胃、小腸、大腸、膀胱等證。

生地、白芍、甘草、槐花、續斷、地榆、烏梅、黃芩、荊芥（炒黑）。

地、芍，有清血養營之功。槐、榆，有止血固腸之力。續斷，調經。黑荊，止血。黃芩，涼大腸之血。甘草，和五臟之元。烏梅酸收，固約營中之血也。

【急救三陰湯】（黃錦芳製）

治脫肛，胸腹氣脹，皆是虛氣衝突。

熟地、附子、肉桂、人參、白朮（土炒）、甘草（炙）、五味子。

此證由於遇事辛勞，以致神昏氣耗，於是氣從上升而如霧而肺不蓋，故見呼多吸少。氣從下行而不縮而腎失守，故見下奪而脫肛。中則失升降不統，斯時補之不暇，收之宜急，若不用附子、肉桂、熟地，不能以固下焦之腎而收脫肛。不用人參、五味，不能以收上焦氣散如霧。不用白朮、甘草，不能以固中焦之脾而使上下接引，所謂增二不能，缺一不可。

吐屎

吐屎一證，古書所未載，大約其標在胃，其本在腎，幽門失開闔之職也。由於腎水虛則火走腑道，無形之火挾有形穢物而衝逆。治法，非救胃則救腎，非正治則逆治，經曰「腎者，胃之關」，又曰「腎主開闔，開竅於二陰」，又曰「清陽出上竅，濁陰出下竅」，必待腎陰回而虛火藏，大便通而機關利，清陽升而濁陰降，此理之所必然者，若謂「諸逆衝上，皆屬於火」，則去生遠矣。

【清胃平逆湯】（汪蘊谷製）

治初病屬火者，此方主之。

生地、丹皮、茯苓、知母、天花粉、杏仁（去皮尖）、扁豆（炒）、黑豆、蘆根。

汪石來曰「茯苓、扁豆，甘能益胃。生地、花粉，能清陽明之熱。丹皮、知母苦寒，能降無形之火。杏仁，能利胸膈氣逆。蘆根，能治胃火嘔逆。黑豆，色黑屬水似腎，除熱解毒。大隊甘寒為胃所喜而腑道清淨矣」。

【救腎安逆湯】（汪蘊谷製）

治久病體虛脈虛者宜之。

熟地、丹皮、澤瀉、山藥、茯苓、萸肉、沙參、五穀蟲（酒洗炒研）。

汪石來曰「六味湯，治腎虛不能藏精，坎宮之火無所附而妄行，所以挾有形而衝逆也。復以沙參，入足少陰經，氣寒益陰，苦寒清火。五穀蟲，寒毒痢作吐用之，此取其意，同氣相求，令穢物復其故道耳」。

身癢

夜常身癢，搔之熱蒸皮內，肉磊如豆粒，癢止熱散，肉磊亦消矣。石山先生曰「此血虛血熱也。醫用順氣和氣，所謂誅伐無過，治非所宜定方」。

【清熱養血湯】

補血虛，清血熱。

生地、元參、白蒺藜、當歸、川芎、黃芪（炙）、白芍（炒）、黃芩、甘草（炙）、陳皮。

汪石來曰「歸、芍、芪、草，能補血虛。元參、蒺藜、生地、黃芩，能清血熱。川芎，潤燥。陳皮，理氣」。

【清氣湯】（黃錦芳製）

治身癢，胸腹飽悶，噯氣。

茯苓、半夏、木香、廣皮、厚朴。

搔癢一證，雖曰病自外感，然亦須內氣清肅，則外氣始治，若此屬內氣不清，故外氣不淨。方用茯苓、半夏，以和中。木香、廣皮，以調氣。厚朴，以寬胸腹。清內自能達外，而癢平矣。

玳瑁瘟

其證初起，發熱頭痛，胸滿不安，醫用發散消導，至第六日，周身痛楚，腹中疼痛，不時奔響，口鼻上唇忽起黑色成片，光亮如漆，與玳瑁無異。張石頑先生診之，脈促，喘汗，神氣昏憒，喜其黑色四圍有紅暈鮮澤，若痘瘡之腳根緊附如線，他處肉色不變，許以可治定方。

【葛根黃芩黃連湯加味】

初方，解肌表毒邪。

葛根、黃芩、黃連、犀角、連翹、荊芥、防風、紫荊、人中黃。

汪石來曰「是方，原治表寒裏熱，其義重在芩、連，肅清裏熱，而以葛根，通陽明之津。犀角，解散陽明之結熱。連翹，引領清氣上下，以散結熱。荊、防，以疏表熱。人中黃，大解陽明實熱。紫荊，散毒邪」。

【加味涼膈散】

次方，黑色發透，微下之。

薄荷、連翹、芒硝、甘草、黃芩、山梔、大黃、人中黃、紫荊、犀角。

蘊熱內閉於膈，其氣先通心、肺、膻中，火燔煩熱，自當上下分消。以薄荷、黃芩從肺，散而涼之。以甘草從腎，清而涼之。以連翹、山梔從心之少陽，苦而涼之。以山梔、芒硝從三焦與心包絡，瀉而涼之。以甘草、大黃從脾，緩而涼之。以薄荷、黃芩從膽，升降而涼之。以大黃、芒硝從胃與大腸，下而涼之。復以犀角，從心而涼之。復以人中黃，從胃而涼之。復以紫荊，從血而涼之。上則散之，中則苦之，下則行之，庶幾燎原之場，化為清虛之府，而毒邪有不透發者乎？

【加味犀角地黃湯】

三方，調理餘毒。

犀角、生地、連翹、生甘草、丹皮、赤芍、人中黃、黑豆。

犀角地黃湯，厥陰陽明藥也。溫熱入絡，煩熱不解，犀角、地黃能走心經，專解營熱。連翹入心，散客熱。生甘草入心，和絡血。赤芍，瀉肝火。丹皮，行血中伏火。人中黃，甘寒入胃。黑大豆，甘寒解毒。

陽痿

凡陽痿不起多由命門火衰，精氣虛冷，或七情勞倦，損傷生陽之氣，多致此證，亦有濕熱熾盛，致宗筋弛縱而為痿弱者。然有火無火，脈證可別，但火衰者，十居八九，而火盛者，僅有之耳。凡思慮焦勞，憂鬱太過者，多致陽痿。凡驚恐不釋者，亦致陽痿。經曰「恐傷腎」，即此謂也。

【斑龍丸】

治命門火衰，精氣虛寒，陽痿者。

鹿角霜八兩、鹿角膠八兩、菟絲子八兩、熟地八兩、補骨脂四兩、柏子仁八兩、白茯苓四兩。上將膠溶化，量入無灰酒，打糊為丸，每服六七十丸，淡鹽湯下。

鹿與游龍相戲，必生異角，故得稱龍。鹿有文，故稱斑。用其角為方，故名「斑龍」。鹿臥則口朝尾閭，故為奇經督脈之方。凡入房精竭，耗散其真，形神俱去，雖溫之以氣，補之以味，不能復也。故以有情之品，專走督脈，復以少陰太陽之藥治其合，乃能搬運精髓，填於骨空，大會於督脈之顖會而髓海充盈。鹿角霜，通督脈之氣也。鹿角膠，溫督脈之血也。菟絲、骨脂，溫腎中之氣也。熟地、柏仁，補腎中之精也。柏仁，屬木性潤。骨脂，屬火性燥。非但有木火相生之妙，而柏仁通心，骨脂通腎，并有水火既濟之功。使以茯苓性，上行而功下降，用以接引諸藥歸就少陰太陽，達於督脈，上潮髓海而成搬運之功。昔蜀中有道士酣歌酒肆，曰「尾閭不禁滄海竭，九轉靈丹都漫說，惟有斑龍頂上珠，能補玉堂關下穴」。澹寮方用鹿茸為君者，餘藥亦不同。此茸珠丹，非斑龍丸也，今從青囊之方。

【贊育丹】

治陽痿精衰，虛寒無子等證。

熟地、白朮、當歸、枸杞子、杜仲、仙茅、巴戟肉、山茱萸、淫羊藿、肉蓯蓉、韭子、蛇床子、附子、肉桂，煉蜜丸。

熟地，養陰。白朮，健脾。枸杞，補水濟火。當歸，養血行氣。杜仲，堅腎。山萸，溫肝。巴戟，助陽。羊藿，益精。肉蓯蓉，興陽益子。蛇床子，和利關節。仙茅、韭子，治陽弱精衰。附子、肉桂，煖腎命益氣。

齒牙

齒牙之證有三，一曰火。二曰蟲。三曰腎虛。凡火必病在牙床肌內間，或為腫痛，糜爛，臭穢，脫落，皆病在經絡，治宜戒厚味，清火邪。蟲痛，病不在經而在牙，亦由肥甘濕熱化生牙蟲，治宜殺蟲而兼清胃。若腎虛牙病者，其病不在經而在臟，蓋骨主腎，腎衰則齒豁，精固則齒堅，當補腎氣為主。

【聖濟蜂房湯】

治風火濕牙病。

露蜂房（炒）、豬牙皂莢（炙去皮子）、川椒（去目并含口炒）、北細辛（去苗），各等分。一方有蛇床子（炒）。上搗羅為散，每服一錢匕，水一盞煎沸，熱渫冷吐。

齒牙之病，不越乎風火濕腎虛，二者之因。蜂房湯，風火濕蛀蚛之方也。蜂房、川椒，去風而能殺蟲。牙皂、細辛，去風之功勝。蛇床子，去濕之功多。風濕既去，蟲自消滅。按古方渫漱含擦者居多，內服攻毒之方甚少，蓋以湯藥內走諸絡，上循齒牙，莫若外渫功效捷速也。渫，汙也。以湯汙齒而含也。

【東垣神功丸】

治濕齦爛之方。

蘭香葉、藿香葉、當歸、木香各一錢，升麻二錢，黃連、縮砂仁各五錢，生地（酒洗）、甘草各三錢。上為細末，湯浸蒸餅為丸，如綠豆大，每服一百丸，加至二百丸止，白湯下，食遠服。

腎為胃關，膏粱酒色之人，腎虛則水道不利，酒肉太過則濕熱蘊積於胃，循脈貫於上齦，而為齦腐之根由也。下齦喜寒惡熱，熱甚則疳蝕，齦腐，袒脫，穢臭不可近。東垣意在清熱，仍以去濕為首務。濕淫所勝，治以黃連、木香，以苦燥之。佐以蘭香、藿香，以辛散之。熱淫所勝，治以木香、砂仁之苦溫，佐以升麻、甘草之甘辛，反佐以清胃散中之當歸、生地，滋濕之品，引領風燥之藥，升去其血分之濕熱。非東垣具過人之識，不及此也。

【太清飲】

治胃火煩熱，狂斑，嘔吐，并治齦腫牙痛。

知母、石斛、木通、生石膏。

石膏，清胃火。知母，除煩熱。石斛，清胃而止嘔。木通，滲水以下行。此白虎之變方也。

【左歸丸】

治真陰腎水不足，不能滋養營衛，漸至衰弱，並治腎陰虧虛齒病。

熟地、山藥、枸杞子、萸肉、菟絲子、鹿角膠、龜版膠、川牛膝。

熟地，純陰生血，以滋化源。山藥，培癸水之本。枸杞，化壬水之血。山萸，酸溫固精。菟絲，溫平益腎。龜得陰氣最厚。鹿得陽氣最全。二物氣血之屬而多壽。牛膝之加，能助一身元氣，此壯水制火之劑也。

【右歸丸】

治元陽不足，先天稟衰，勞傷過度，以致命門火衰不能生土，而為脾胃虛寒，並治腎陽虧虛齒病。

熟地、枸杞子、山藥、菟絲子、杜仲、鹿角膠、萸肉、當歸、肉桂、製附子。

熟地，滋補腎陰。枸杞，溫補少陰。萸肉，濇精秘氣。山藥，補脾固腎。當歸，有辛溫養血之功。菟絲，有補腎益陽之用。鹿膠，通達週身之陽。杜仲，強益腰膝之力。附子、肉桂，溫補命門之火，煖助脾胃之陽。

後記

汪氏發展前賢醫門至理，此非平日讀書確有心得，不能編成此書。因證求方，條分明晰，究不知此公何許人也。因棘圍鬱爵，專心習醫，其用心亦良苦矣。昨蘊古齋何書客抱此本見示，以重金易之，乃係家刻之本，印書不多，寶之云云。

民國二十三年春莫

成叟藏書並記。